京都市におけるモビリティ・マネジメント教育

推進業務

報告書

平成２８年３月

京都市都市計画局歩くまち京都推進室

一般社団法人システム科学研究所

目　次

1．業務の概要 1

(1)　業務の概要 1
(2)　業務対象地域 1
(3)　履行期間 1
(4)　委託者及び受注者 1
(5)　業務実施体制 .....
(6)　背景と目的 2
(7)　業務内容 3
(8)　業務の全体構成 3

2．学校 MM 検討会の設置 4

3．モデル授業の実施とバリエーションの検討 5

(1)　モデル授業の実施 5
(2)　モデル授業のバリエーションの検討 20
(3)　新たな教材の作成 55

4．教員による研究会との連携方策の検討 56

(1)　過年度の取り組み 56
(2)　京都市教育教育委員会との協議 58
(3)　今年度の取り組み 59

5．平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定 60

(1)　趣旨 60
(2)　実施内容 60
(3)　学習実施校の選定及び経費配分 60
(4)　実施スケジュール 61
(5)　提出書類 61
(6)　提出期限 62
(7)　提出方法 62
(8)　選定結果 63

6．「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策の検討 76

7．資料作成 77

(1)　第１回検討会 77
(2)　第２回検討会 127
(3)　第３回検討会 150

8．まとめ 181

(1)　成果 181
(2)　課題と今後の展開 182

１．業務の概要

(1)　業務の概要

京都市におけるモビリティ・マネジメント教育推進業務

(2)　業務対象地域

京都市全域

(3)　履行期間

自）平成２７年６月２６日　～　至）平成２８年３月３１日

(4)　委託者及び受注者

ア　委託者

京都市　都市計画局　歩くまち京都推進室

イ　受託者

一般社団法人 システム科学研究所

京都市中京区新町通四条上ル小結棚町 428 番地（新町アイエスビル）

TEL:075-221-3022　FAX:075-231-4404

(5) 背景と目的

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を目指すため，平成 22 年 1 月に，「歩くまち・京都」総合交通戦略（以下，「戦略」という）を策定するとともに，「歩くまち・京都」憲章を制定した。

戦略では，既存の公共交通を再編強化し，使いやすさを世界トップレベルにする「既存公共交通」の取組，歩く魅力を最大限に味わえるよう歩行者優先のまちをつくる「まちづくり」の取組，歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルに転換する「ライフスタイル」の取組の３つの柱の相乗効果により，「歩くまち・京都」の実現を目指している。

このうち，「ライフスタイル」の取組では，市民の意識と行動に直接働きかけ，過度なクルマ利用を控え，歩くこと，公共交通等を利用することへの転換を促す取組であるコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）（以下「MM」という。）を，「スローライフ京都」大作戦（プロジェクト）として推進していくこととしており，市民のライフスタイルの中で交通行動の変化を意識づけるため，あらゆる機会を捉え，重層的・複合的に，動機付けとなる情報の提供やコミュニュケーション・アンケート等の MM を実施している。

本業務は，「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発及び「スローライフ京都」大作戦（プロジェクト）を確実かつ効果的に推進するために必要な業務を実施するものである。

学校教育におけるMMとしては，平成 24 年度から学識者，教育委員会，教員から構成する検討会を設置し，教育現場のニーズを把握しながら，小学校低学年，中学年，高学年向けの学習指導案を作成するとともに，各学年のモデル授業を実施した成果を取りまとめて，教員がモビリティ・マネジメント教育を実施する際に参考となるＤＶＤを作成して平成 26 年度に京都市内小学校全校（176 校）に配布した。

しかしながら，小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのＤＶＤ等の配布物も多くあるため，ＤＶＤを配布しただけではMMを授業として取り上げてもらうことは難しいという現実もある。そこで，これまでの成果を無に帰さないためにも，継続的にモビリティ・マネジメント教育の実施を支援する体制の構築が不可欠である。

本業務では，平成 26 年度までのモビリティ・マネジメント教育の検討成果を京都市内に拡充し，継続的に実施するために，既存組織との連携による継続実施体制を検討の上，再構築するとともに，小学校によって市バスが使えない地域もあることを踏まえたMM授業のバリエーション拡充を確実かつ効果的に推進するために必要な業務を実施するものである。

(6)　業務内容

ア　学校 MM 検討会の設置

学識者（３名），教育委員会（２名），教員（３名）から構成する検討会（学校MM検討会，年３回開催予定，構成員の人数は予定）を設置して意見を聴取しながら取組む。

イ　モデル授業の実施とバリエーションの検討

平成２７年度にモデル授業（小学校低学年，中学年，高学年で１回ずつ（予定））を実施いただく教員を支援する。また，京都ならではのモデル授業のバリエーションを増やすとともに，授業への取組をより容易にするために，その授業に使用する新たな教材を作成する。

ウ　教員による研究会との連携方策の検討

教員による研究会との連携方策を検討する。

エ　平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定

平成２８年度以降にモビリティ・マネジメント授業を実施する「歩くまち・京都」学習実践校を教育委員会と連携しながら募集・選定するとともに，より良い授業内容を検討する。

オ　「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策の検討

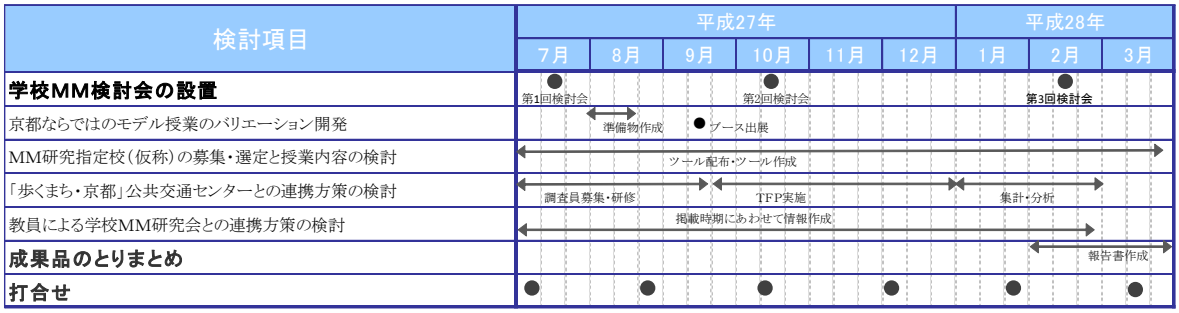
モビリティ・マネジメント教育を継続実施するための拠点として，「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策を検討する。

カ　資料作成

学校MM検討会を円滑に進めるために，資料や議事録等を作成する。

(7)　業務の全体構成

以下に本業務の実施スケジュールを示す。



2．学校 MM 検討会の設置

教育現場のニーズを把握しながら検討を進めるため，以下の構成メンバーにより，学識，学校，行政の連携体制を確立することにより実効性を担保した。

分野	役割	所属	委員
学識経験者	座長	京都教育大学教授	水山　光晴
	副座長	京都大学大学院教授	藤井　聡
	アドバイザー	愛媛大学大学院教授	松村　暢彦
学校関係者		京都市教育委員会学校指導課首席指導主事	渡邉　太志
		京都市教育委員会総合教育センター指導主事	林　正和
		京都市立岩倉北小学校教諭	牧　紀彦
		京都市立伏見板橋小学校教諭	笹岡　法道
		京都教育大学付属京都小中学校教諭	深蔵　心理
有識者		公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部長	加藤　信次
		公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部交通環境企画課	岡本　英晃
行政	事務局	京都市都市計画局歩くまち京都推進室	

学校MM検討会の開催状況は以下のとおりである。

	開催日時	議事概要
第1回	平成27年8月20日（木）	・　平成27年度の取組内容について ・　取組事例についての紹介
第2回	平成27年10月26日（月）	・　今年度のモデル授業について ・　「歩くまち・京都」学習実践校の募集について ・　ガリバーマップ作成について
第3回	平成28年3月4日（金）	・　今年度のとりまとめ ・　「歩くまち・京都」学習実践校の決定について ・　今後の進め方について

３．モデル授業の実施とバリエーションの検討

平成２４年度から，教育現場のニーズを把握しながら，小学校低学年，中学年，高学年向けの学習指導案を作成するとともに，各学年のモデル授業の実施を行ってきた。

今年度は，更に京都ならではのモデル授業のバリエーションを増やすとともに，授業への取組をより容易にするために，その授業に使用する新たな教材を作成することとした。

具体的な教材を検討する上で，参考として学識者から特にMMに関する取組が進んでいる大阪府・札幌市・各自治体の教材事例をご紹介いただいた。

(1)　モデル授業の実施

ア　指導案の作成

モデル授業のバリエーション開発に合わせて，どういった授業ができるかを３教員に単元構想をご提案いただいた。

第２回学校 MM 検討会

京都市立岩倉北小学校　牧　紀彦

単元構想図

６年生（総合）　わたしたちのくらしと交通（７時間）

であう・つかむ（1時間）

①出かけるときにはクルマか公共交通機関かどちらがよいか話し合う

クルマがよい
- 家から乗ったまま目的地に着ける
- 荷物がたくさん積める
- 公共交通機関よりも早い
- 自分だけの空間がもてる
- **目的地までどのくらい時間がかかるのかな④**

公共交通機関がよい
- 運転しなくていいから楽
- 友達とみんなで乗ることができる
- 電車や地下鉄だと渋滞に巻き込まれない
- クルマだと環境によくない
- **環境面でどのくらい違いがあるのかな④**

クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう

調べる（5時間）

②③遠足で行く市内巡りコースを計画する
- 歴史で学んだ場所に行ってみたい
- 行きたい場所の全てを周るのは不可能だ
- できるだけ効率よく周ることが大事だ
- 所要時間を調べて計画しなければいけない
- クルマで周れたらもっと早いのに
- **目的地までどのくらい時間がかかるか調べよう④**

④クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
- 公共交通機関のほうが早いことがある
- CO2 の排出量は公共交通機関のほうがかなり少ない
- 歩くことでカロリーが消費できる
- １台に多くの人が乗れるから渋滞緩和につながる
- 市バスの利用者数はずっと減ってきたのに近年増えている
- **京都市交通局は乗客を増やすためにどんな工夫をしているのだろう⑤**

⑤京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
- 観光地や駅へ向かうバスが増便された
- 夜遅くまで運行するようになった
- 地下鉄の駅にお店が入った
- １０種類もの IC カードが使える
- HP で乗り継ぎ案内が調べられる
- ポケロケのアプリでバスの接近状況がわかる
- 京都市が公共交通機関の利用を進めているそうだ
- **京都市ではどんな取り組みをしているのだろう⑥**

⑥京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
- 「歩くまち・京都」憲章が出された
- パークアンドライドが設けられた
- 歩くことで市民の健康づくりにも役立つそうだ
- 京都らしいまちづくりを進めているそうだ
- 観光客が多いまちだから，よいことかもしれない
- でも不便になることはないかな
- **クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう⑦**

問いかける（1時間）

⑦クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのか話し合う
- いつでもどこでも行くことができるクルマはやはり私たちの暮らしを豊かにしてくれる
- 公共交通機関は環境面でも走路事情においてもよい影響があり，よいのではないか
- 京都は歴史のまちだから，歩くまちのほうが似合っているように思う
- **公共交通機関のよさはわかるけど，登校するときでさえ歩くのがしんどいと思うことがあるから，自信がないな**
- **どんなときでもクルマを使うのではなく，公共交通機関を上手に使っていくことが大事だと思う**
- **歩くまち・京都をみんなで進めていくには，京都にとってなにが大切かをみんなで話し合っていくことが大事だね**

クルマは便利で快適な暮らしをもたらしてきた。一方公共交通機関は，環境面でも道路事情においても見直されてきている。京都に暮らす私たちにとって，どのような社会が豊かなのか，一人一人が未来の京都の姿をえがいていく必要がある。

図　3-1　岩倉北小学校（６年生・総合学習）

1 単 元　環境を守るわたしたち（7時間）

1　目　　標　身の回りの生活環境や公害に関心をもって調べ，公害とわたしたちの生活や産業とのかかわりについて思考・判断して，公害から国民の健康や生活環境を守るためには，行政や企業，そして国民一人一人の努力と協力が必要であることを理解し，表現する。

2　指導計画　（1）京都市の水資源や鴨川の汚れの変化に関心をもち，学習問題をつくり，予想や計画を立てられるようにする。
（2時間）

（2）きれいな鴨川を取り戻すための取組を，昔の状況と関連付けて説明できるようにする。（1時間）

（3）鴨川のきれいな環境を守るための取組について理解できるようにする。
（1時間）

（4）京都の環境を守るための市や市民の取組や地球温暖化の現状を調べ，これから大切なことを考えられるようにする。
（2時間）

（5）それぞれの立場の取り組みをまとめ，学習問題に対するこたえを説明できるようにする。（1時間）

3　展 開 例

（4）京都の環境を守るための市や市民の取組や地球環境の現状を調べ，これから大切なことを考えられるようにする。（2/2時間）

本時の目標　環境を守るために，京都市がどのような取組をしているのかを調べ，これから大切なことを考えている。

学　習　内　容	留　意　点	資　料
○前時までの学習を想起して，学習問題を確認する。 ・京都市では２０２０年までに二酸化炭素の排出量を減らしたいと考えている。	・前時の学習を想起することで，二酸化炭素を減らそうとしていることを確認する。	資料１ 京都市の二酸化炭素の排出量がわかるグラフ
学習問題：京都市ではどのようにして二酸化炭素の量を減らそうとしているのだろう。		
○学習問題について予想する。 ・二酸化炭素量を減らすために，公共交通機関を使って移動するように，京都市民に呼びかけたんじゃないかな。 ・エコカーを利用するように呼びかけたんじゃないかな。 ・京都市は，工場から出る二酸化炭素量を減らすきまりを作ったんじゃないかな。	・京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組に着目して話し合うことで，環境を良くする取組を予想することができるようにする。	

○京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組について調べる。 ・「歩くまち・京都」憲章をつくり，環境について呼びかけている。 ・京都市民に，公共交通機関を利用したり，歩いたりすることを進めて，環境を良くしようとしている。 ・天ぷら油を使った市バスなどが京都市内を走っている。 ・エアコンの使用量を減らすように呼びかけたり，再生可能エネルギーの普及をひろげたりしている。 ・木材の魅力を発信し，木材を積極的に使用してもらうことを呼びかけている。 ○学習を通して考えたことをまとめる。 ・京都市が二酸化炭素を減らすために「歩くまち・京都」憲章をしていることがわかった。このことから，車は便利だけど，環境のことを考えると公共交通機関でいけるところは，なるべく利用していきたいと考えた。 ・京都市は「歩くまち・京都」憲章を定め，環境にやさしいまちづくりを目指しているので，良いと思う。みんながそれを意識して，市バスや地下鉄を利用したり，歩いたりするなど，市民一人一人ができることから取り組んでいけば良いと思う。 ・京都市では，環境をよくするために様々な取組をしていることがわかった。このことから，京都市民が協力して環境にやさしい取組を積極的にする必要があると考えた。	◇資料を提示することで，京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組について理解できるようにする。 ◇二酸化炭素の量を理解するために公共交通機関と自動車の二酸化炭素量を比較することができる資料を提示する。	資料2 二酸化炭素排出量を減らすための京都市の取組がわかる資料 資料3 二酸化炭素の排出量を示したグラフ 評価 【観察・資料活用の技能】 京都市の環境を守るための取組について資料などから読み取っている。 （発言・ノート）

4　板書例

京都市ではどのようにして二酸化炭素の量を減らそうとしているのだろう。

予想

・市バスや地下鉄などの公共交通機関を使って移動することを呼びかけている
・エコカーを利用することを呼びかけている
・工場から出る二酸化炭素量を減らすきまりを出している

調べ　京都市の取組

・「歩くまち・京都」憲章をつくって，市民に呼びかけている。
・公共交通機関を利用したり，歩いたりすることを進めている。
・天ぷら油を使った市バスなどが京都市内に走っている。
・エアコンの使用量を減らすために節電を呼びかけている。
・京都市内で生産された木材を積極的に使用することを呼びかけている。

・環境のことを考えて公共交通機関を積極的に利用する。
・京都市は「歩くまち・京都」憲章を意識して，市民一人一人ができることから取り組んでいくことを期待している。
・環境を良くするために，京都市民が協力して環境を良くする取組を積極的に取り組む必要がある。

社会同和－3

図　3-2　伏見板橋小学校（5年生・社会科）

20151026 深蔵

学校MM指導案

教科：社会科
学年：六年生
単元：歴史学習の単元間

ガリバーマップについて
地域：京都市全域
内容：　（1）重要文化財，国宝，（歴史スポット）を大きく書き込む
（教科書に出てくるもの中心）
（2）各場所間の交通機関を書き込む
（3）（2）に排出 CO2，消費カロリー，時間，を書き込む

授業展開

	学習活動	留意点
導入	1　歴史の学習で登場した京都にある建造部や文化財をガリバーマップで探す。	
展　開1	2　建造物や文化財の特徴を整理する。	・時代，関係する人物，出来事など，一覧表にまとめられるようにする。
展　開2	3　各建造物や文化財への訪問コース，移動方法，コース名を考える。 （例）室町コース 金閣寺→銀閣寺→応仁の乱勃発の地	・色々なルールを決めて移動方法を考える。（例：代金，時間，訪問する数，排出 CO２など） ・市バス一日乗車券や地下鉄乗車券を用いることも考えられる。 ・個人やグループなど実態に応じて変える。 ・縮尺を用いて距離を計算することもできる。 ・建造物や文化財の理解を深めるために，特徴を捉えたコース名を考えられるようにする。
ま　とめ	4　全コースを一冊のパンフレットに仕上げる。	・各グループの提案をコンテスト方式で選ぶことや，国語の授業とクロスで行うこともできる。

図　3-3　京都教育大学附属京都小中学校（６年生・社会科）

イ 授業の実施

前述の単元構想図に基づき，高学年向けのモデル授業を，検討会メンバーである２教員に実施いただいた。

(ｱ) 岩倉北小学校

実施日	平成２８年２月２日（火）
対象	京都市立　岩倉北小学校　６年２組
教科	総合学習
単元	わたしたちのくらしと交通（７時限目）
担当教員	柱谷元紀　教諭

岩倉北小学校では，６年生を対象に，「クルマと公共交通では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのか」について児童が話し合う授業が行われた。

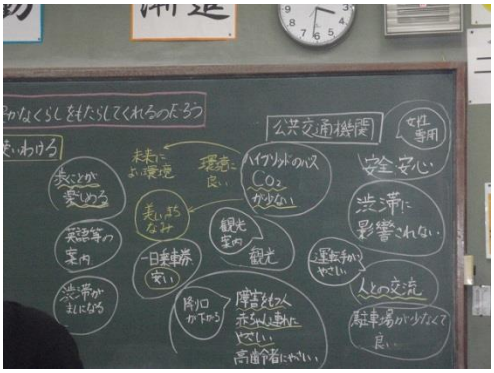


図 3-4　モデル授業風景

授業を通して出てきた児童たちの主な発言を以下にまとめる。

クルマの方が豊かになると回答した児童の主な意見

- 環境では公共交通機関だと思うが，お年寄りへの便利さではクルマだと思う。
- 水素や電気で走るクルマもあるし，クルマもＣO2 の問題は解決しつつある。
- クルマの方が，あまりお金がかからない。
- 地下鉄やバスは安全だが，バス停から遠くても歩いて行けないといけない。クルマだと，目の前に停まるので，クルマの方が便利。
- 市内巡りの時にバスがなくて，待たなくてはならなかった。
- クルマだと他の人がいなくて良い。
- 市内巡りの時にバス停を探して迷子になったので，クルマの方が便利。
- 今ではクルマのナビで渋滞を避けることもできる。

公共交通の方が豊かになると回答した児童の主な意見

- バスの本数も増えたし，環境にも良い。
- 他県に行く時に早く行けるし，クルマだとＣO2 もたくさん出る。
- 京都市は秋の紅葉シーズンなど観光客のクルマでいっぱいになるので，地下鉄など公共交通機関の方が豊かな暮らしをもたらしてくれる。
- バスは 1 台で 20 人運べるが，クルマだと 1 台 5 人でＣＯ２排出量が少ない。
- 最近ハイブリッドバスが出てきたし，待ち時間も分かりやすく示してくれるので，公共交通機関の方が豊かな暮らしをもたらしてくれると思う。
- クルマは知っている人としか乗らないが，公共交通は色んな人が乗るので，交流することができる。
- 高齢者や障害のある人などは運転が難しいが，公共交通ならその人たちは事故を起こさないし，家族も安心だと思う。
- 障害者だけでなく，バスの座席の横にはベビーカーと繋げるベルトがあって，赤ちゃんを連れたお母さんにも便利。

どちらも必要と回答した児童の主な意見

- ＣO2 が少ないので，環境では公共交通だが，急いでいる時にはクルマなので，場合によると思う。
- 公共交通の方が京都にとって良いと言うが，観光バスなどの路駐も多いので，どちらも同じだと思う。

この単元については, 前述の単元構想にもあったように計７時間に渡って授業が行われてきた。その中で授業開始当初に「クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるか」という問に，クラス２２名中２１名対１名で，圧倒的に「クルマより公共交通の方が豊かな暮らしをもたらしてくれる」と回答した児童が多かった。

しかし途中, 京都市や京都市交通局での取組を紹介するゲストティーチャーの時間を設けたり, 実際に自分たちで京都市内を公共交通を利用して回る市内巡り等の授業を経て，京都市における公共交通状況中心とする現状を把握する授業が実施された。

全ての授業を終えて，最終的にはクラスの半数以上が「クルマより公共交通の方が豊かな暮らしをもたらしてくれる」といった回答や,「使い分けが必要」といった回答など児童の価値観に大きな変容が見られた。

７時間の授業を終えて，児童たちの主な意見は以下のように変容した。

【授業を終えた児童の意見】

- 話し合いをしてみても，公共交通の方が良い。お年寄りや地球にやさしく，京都の美しい町並みを守るためには，公共交通だと思う。
- 今回の授業を終えて，どちらにも良いところと悪いところがあって，そのときによって使い分けていかなければならないと思った。これからは悪いところをどう改善するかが課題だと思う。
- 最初は公共交通が良いと思っていたが，全部が全部良いわけではない。クルマは行きたいところや好きなところに行けるのも良いと思う。使い分けるのが良い。未来のことを考えると，ＣＯ2 で自然や京都の観光地がなくなるのも困る。
- 公共交通の方が良いと思ったけれど，クルマが安全でＣＯ2 を排出せず，渋滞に影響されないようになってくれば，クルマも良いかもしれないと思った。

担当教員に授業後の感想を伺ったところ，学習前後の児童の意識の変容の理由としては，社会的な事実と出会うことで，児童の目線が個人的なものから社会的なものへと高まったことが考えられるのではないかと考えられるということだった。

■学校 MM 研究授業記録（６年生）
■日　時　平成 28 年 2 月 2 日
■場　所　京都市立岩倉北小学校
■指導者　柱谷元紀
■授業を終えての感想
　総合的な学習の時間を用い，「クルマか公共交通機関のどちらが豊かなくらしをもたらしてくれるだろう」という単元目標のもと，京都市交通局の工夫や「歩くまち京都」の取組といった，これからの社会のあり方を模索している事実を「市内めぐり」の遠足と絡めて学習することで，価値観の変容をねらった。
　学習前にはクラス２２名中２１名までもが「クルマの方が豊かなくらしをもたらしてくれる」と判断していたが，学習の最後には半数から３分の２程度の児童が「公共交通機関の方が豊かなくらしをもたらしてくれる」と判断した。また中には，「どちらも必要で，状況に応じて使い分けることが大切だ」という意見も見られた。
　このような学習前と学習後の児童の意識の変容の理由としては，社会的な事実と出会うことで，児童の目線が個人的なもの（～自分にとって）から社会的なもの（～社会にとって）へと高まったことが考えられる。
　今回の学習では，児童をある一定の価値観に導くのではなく，事実と出会わせることで自ら判断できる力を付けていくことを目標にした。今後とも社会を多面的にとらえ，より良い判断をすることができる力を育んでいきたいと考えている。

図　3-5　担当教諭感想

またモデル授業終了後，参加していた学校MM検討会メンバーと担当教員とで授業の振り返りを行った。

授業についての各自の感想は以下のとおりである。

平成 27 年度 学校MM検討会　モデル授業ふりかえりの摘録

１　日　時　　平成 28 年 2 月 2 日（火）　午後 15 時 30 分～

２　場　所　　岩倉北小学校

３　出席者　　京都教育大学　水山光春　他２名
岩倉北小学校　牧紀彦
（公財）交通エコロジー・モビリティ財団　岡本英晃
京都市　吉村仁志
（一社）システム科学研究所　東徹、山口嘉子

４　意見概要

○ 歴史の話があったのは京都らしいと感じた。
○ 「歩くまち・京都」憲章の認知度が４～５割あったのが嬉しかった。
○ 最初の授業ではクルマの方が良いという児童が圧倒的に多かった。その後、交通局の取組などを学んでいった。
○ 「公共交通の方が、他の人と交流があるから良い」といった児童の意見は、学んだ成果。
○ この授業だけでは全体が分かりにくい。記録を残す場合には、意見が変わっていくプロセスを記録しておきたい。
○ クルマと公共交通の比較の意見で「楽さ」「安さ」という評価項目は両方に出てきていた。その違いの内容の整理がなかったので、もったいない。
○ クルマの方が安いという意見に対して、発言しなかったが「クルマは買うのが高い」と言っていた児童がいた。
○ 地方部ではクルマの方が適している状況も多い。一概に公共交通が良いとは言い切れない。
○ 公共交通が良いという結論に落とすのか、どちらも良いという結論に落とすのか、ねらいがはっきりしていなかったので、児童も迷っているように感じた。
○ ＫＪ法的に、意見を紙に書いて黒板に貼れば、意見集約の時間を短縮して、もっと議論を深められたのではないか。
○ できるだけ児童にまかせるのが本校の基本スタンス。
深い知識がないと議論にならないので、この短期集中のカリキュラムでは難しいと考えた。
○ 発表する時に結論を先に言ったり、うまく発言出来ない子がいたら周囲の子が、その子に質問したりする所は、日頃の訓練の成果と感じた。
○ 豊かな暮らしの定義については「自分の立場」でも良いし「京都のために」でも良いとした。
○ 六年生は正義感・建前重視の時期であるので、もっと公共交通一辺倒になるかと思った。
○ 小学校で、どちらが良いのかという授業をすると、一方の方が良いという意見に偏りがちであるが、そうしなかったことが良いと感じた。
○ 岩倉北は公共交通が不便な地域であるという地域性がある。
○ 地域性について、バスに誰も乗らなくなったら、バスが失くなってしまう。そうしたらどうなるかという問いかけがあっても良かったのではないか。
○ 結論が曖昧だったので、このままでは、消化不良になるのではないかと感じた。
○ 最後にふりかえって、論点を整理した方が良かった。

以上

図　3-6　振り返り摘録

（イ） 伏見板橋小学校

実施日	平成２８年２月２３日（火）
対象	京都市立　伏見板橋小学校　５年２組
教科	社会科
単元	環境を守るわたしたち（６時限目）
担当教員	岡本　教諭

伏見板橋小学校では，５年生を対象に，「京都の環境を守るための市や市民の取組や地球環境の現状を調べ，これから大切なことを考える」授業が行われた。

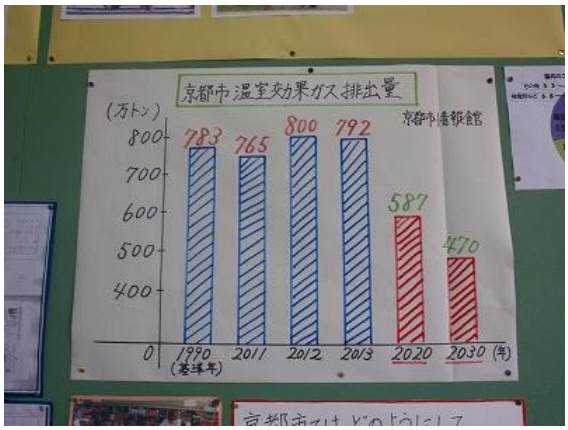


図　3-7　モデル授業風景

授業を通して出てきた児童たちの主な発言を以下にまとめる。

Q 京都市ではどのようにして CO2 の量を減らそうとしているのか？

- 使用済みの天ぷら油を集めてどうするのかお父さんに訊いたら，バスの燃料にすると言っていたので，燃料を減らそうとしていると思う。
- バスに乗って合言葉を言うと無料になった。クルマを使うＣO2 を減らそうとしていると思う。
- トラックの後ろに，ＣO2 を減らすためにゆっくり発進・ゆっくり加速と書いてあった。市役所の人がステッカーを配ったりして，呼びかけていると思う。
- クルマだと他の人がいなくて良い。
- 早く一緒に帰って節電するようにしている。

Q 京都市がどのように減らそうとしているのかを調べた資料を見て分かった事実は？

- 余分な油を燃料に使っている。
- 「歩くまち・京都」憲章で，公共交通機関の利用を呼びかけている。クリアファイルにして小学生に配られている。
- 四条通の歩道を広げて，子供からお年寄りまで，みんなが通りやすい道にしている。
- クールスポットという活動は，四季のある日本に相応しい。他の国にも広げると良い。
- 油の再利用などを通じて，持続可能な社会が実現できると思う。
- 節電を呼びかけるのが，なんで夏と冬だけなのかなと思った。

Q 事実から導き出した結論は？

- 京都市では，ひとりひとりが努力することでＣO2 を減らそうとしている。
- 京都市では，環境がよくなるように，みんなで協力している。

この単元については，モデル授業の前に京都市の水資源や鴨川の環境変化や，きれいな鴨川を取り戻すための取組について学習してきた。それを踏まえた上で，京都市は「２０２０年までに二酸化炭素排出量を２５％削減」という目標を掲げているが，それを達成するためにどういった取組をしているかを考える授業が行われた。授業を終えて，児童たちからは以下のような意見があがった。

【授業を終えた児童の意見】

- 一人ひとりが努力することが大切。一部の人が努力しても，みんながしないと未来の環境がよくならないと思う。京都市全体の目標は大変だが，一人ひとりの目標は達成できそうだ。
- たくさんの人が努力して環境を良くしようとしていることが分かった。なるほどと思ったことは，良い環境を未来につなげることで，未来の人も安心・安全に住めるということ。自分にできることは，必要のない電気を消したり，一つの部屋に集まったりすることでできると思った。
- 今日の学習で，たくさんの人がたくさんの方法で努力していることが分かった。「歩くまち・京都」のキャッチフレーズを作ることによって，覚えやすくなって，みんなが取り組めるようになると思う。今の自分にできることは，京都市の一員として，「歩くまち・京都」のルールを守っていこうと思う。

授業を終えて，担当教員に授業の感想を伺ったところ，・・・・。

提出待ち

図 3-8　担当教諭感想

またモデル授業終了後, 参加していた学校MM検討会メンバーと担当教員とで授業の振り返りを行った。

平成 27 年度 学校ＭＭ検討会　モデル授業ふりかえりの摘録

１　日　時　　平成 28 年 2 月 23 日（火）　午後 15 時 40 分～

２　場　所　　伏見板橋小学校

３　出席者　　京都教育大学　２名
伏見板橋小学校　笹岡、岡田
社会科研究会　３名
京都市教育委員会　林正和
京都市　瀧明日香
（一社）システム科学研究所　東徹、山口嘉子

４　意見概要

○ 社会科学習の中にどういう風に入れ込んでいくのかが悩ましかった。「環境を守るわたしたち」という単元に取り入れたので、「歩くまち・京都」の健康に関する部分などは入れ込めなかった。
「歩くまち・京都」の内容が少ないと感じられたのではないかと懸念しているが、単元のねらいを考えると「歩くまち・京都」だけに特化するのは厳しいと考えた。
○ 時間配分が少しオーバーしてしまったことを反省している。最初の予想の時間を短縮して、調べの時間を長くとる方向に改善したい。単元の前半の鴨川の話を受けて、京都市の取組に展開するにあたって、１時間では短いと考えて、２時間に分けた。
○ 昨年度までの授業は１時間だったので、今年度は前回の岩倉北も複数時間を使った展開をしていただいて有り難い。一方で、今日だけの見学だと、全体の流れが分かりにくかった。
○ ＣO2 の排出元としては交通手段だけでなく企業・工場などの産業部門の占める割合が大きいが、削減の可能性について産業部門の圧縮の困難さを考慮すると、「歩くまち・京都」にもっと注目されたのではないか。
○ 社会科学習では、学習問題が提示されて、それ対して予想して、調べて、分かった事、考えた事を発表するというのがオーソドックスな学習展開であり、本日の授業は社会科的には良い授業であった。
○ 社会科の単元で取り入れてもらったのは、可能性を感じる。スチューデント・シティにも京都市として携わっており、感謝している。
○ 一連の授業を通じて児童の視野も広がっており「おでかけの際はバス・地下鉄で」と書いてあるのを見つけて、報告してくれたりした。
○ 京都市の取組について、市役所の人に話をしてもらう過程があっても良いのではと思った。1980 年代、70 年代のＣO2 排出量や、削減目標の設定理由がわかると面白い。
○ 児童の発言が、きちんとルールーを待っていた。最後のまとめで、目標達成ができると思うか？という質問が必要か疑問に思った。
○ 最後の質問は、入れるかどうか悩んだ箇所でもある。どちらの結論であっても、理由が言えれば良いと考えた。
○ 発言者の顔をみて聞くとか、発言の際に理由を一緒に述べる点に、日頃の訓練の成果を感じた。最初の発言（予想）は、自分の考えなのか、先の授業で調べた結果なのか。
○ 生活経験や、これまでの授業の中から、自分で選択して発言している。

以上

図 3-9　振り返り摘録

(2) モデル授業のバリエーションの検討

ア 大阪府の事例

表 3-10 モビリティ・マネジメント教育事例（大阪府）

NO	教材	テーマ	概要
1	5~6 年 社会・理科・体育	校区内の空気を調べよう	校区内の空気の汚れを調べ，その原因を考え，空気をきれいにするために何ができるかを考える。
2	4~6 年 社会科	私たちのまちはどのように変わってきたのだろう	地図や航空写真をもとにまちの変遷を調べ，まちづくりや環境改善のために何ができるかを考える。
3	5~6 年 社会・理科	地球温暖化を知っていますか	地球温暖化の影響と原因を学習し，温暖化を防止するために何ができるかを考える。
4	4~6 年 社会・道徳	交通ゲーム	ゲームで電車，バス，クルマなどの利用特性を学び，望まれる交通機関利用のあり方を考える。
5	5~6 年 社会・理科	かしこいクルマの使い方を考える	CO2 排出量の削減などを目的として，日常の生活の中でクルマの使い方を工夫して実践する。
6	5~6 年 社会・理科	くらしの中で CO2 を減らそう	CO2 排出量の削減などを目的として，日常の生活の中でさまざまな工夫を計画して実践する。
7	4~6 年 社会・理科・体育	みんなが使う「電車･バスマップ」をつくろう	「電車・バスマップ」を作成し，利用してもらう喜びを実感すると共に，公共交通利用の学習を形成する。
8	5~6 年 社会・理科	電車・バスはみんなの乗り物	電車・バスに乗車し，地域社会とのコミュニケーションを通じて，公共交通を親しみ，体験する。
9	3~6 年 社会・理科	おでかけ日記	外出行動を記録して，結果をフィードバックすることでふだんのくらしでの課題とできることを議論する。
10	5~6 年 社会・家庭	買い物ゲーム	ふだんの食卓を対象に買い物をゲームで再現することで，モータリゼーションによるライフスタイルの変化に気づかせる。

・　事例１：５～６年生　社会科・理科・体育

3.2　【実践編】に収載する教材事例の概要

教材事例 1　　私たちの校区の空気を調べよう　　課題発見型

目的　校区内の空気の汚れなどを調査することによって、地球温暖化や大気汚染などは違う世界で起こっているのではなく、私たちがくらしている地域でも影響を受けていることを実感し、自分たちができる課題を見出す。

目標
- 空気の汚れという問題に対して興味を持ち、疑問解決に主体的に取り組む態度を養成する。
- 空気を調べるという命題に対して、計画、準備、調査実施、評価、検証するプロセスを実行する。
- 調査結果から、何らかの解決方法を見出す態度を養成する。

対象学年　５年、６年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、理科、クラブ活動

標準校時　3～5 校時

学習構成

1.(導入)　クイズを通して校区の大気汚染という問題に興味を持つ。

↓

2.校区内の空気を調べる計画を立てよう　調査項目、場所、調査方法を考えて、計画する。

↓

3.校区内の空気の汚れを調べよう(調査)　調査器具を正しく使って、調査を実施する。

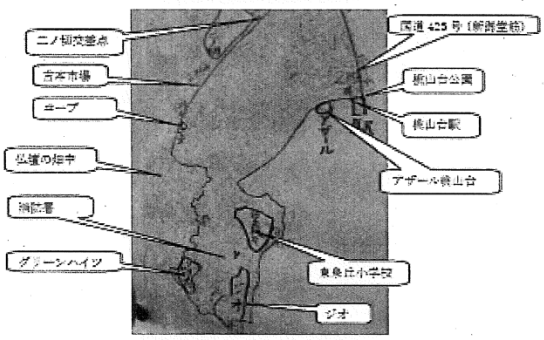
↓

4.調査結果を整理して考えよう　調査結果を集計、整理して検証する。

↓

5.地球温暖化を防ぐ方法を考えよう　空気の汚れの原因物質と私たちのくらしのつながりを考える。

大気汚染(NOx)調査キット



校区地図に調査結果を記録します

・　事例２：4～6 年生　社会科

教材事例 2　　私たちのまちはどのように変わってきたのだろう　　課題発見型

目的　航空写真、地図を活用して、昔と今の校区の土地利用を比較し、何が増えて何が減ったかを確認することで、これからのまちづくりや環境にやさしい実践への動機を活性化する。

目標
- 私たちがくらす地域の今と昔を比較し、将来の望ましいまちづくりやくらしを形成しようという動機を醸成する。
- 航空写真、地図を読み取る力を養成する。
- 地図から問題意識を生成する能力を養成する。

対象学年　４年、５年、６年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、クラブ活動

標準校時　1～3 校時

学習構成

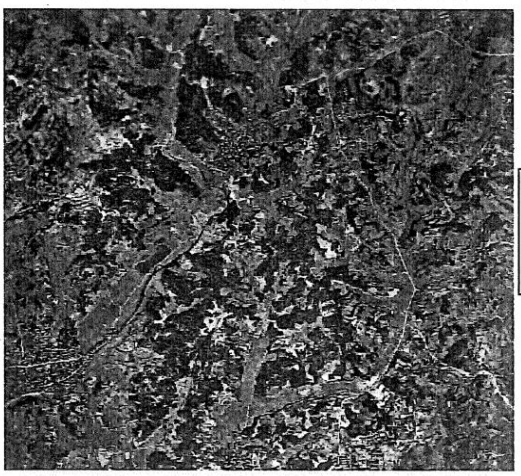
1.私たちのまちの昔と今を地図で比較しよう　今と昔の航空写真を見て、増えたもの減ったものは何かを調べよう。

↓

2.増えたもの、減ったものを確認しよう　航空写真から、白地図に増えたものと減ったものを色塗りで確認しよう。

↓

3.私たちのまちの未来は？　過去から今への変化を通して、私たちのまちの未来をどうしていけばよいか課題を提案しよう。



空中写真：昔（お父さんが子どもの頃）

今

出典：国土地理院空中写真閲覧サービス（http://mapbrowse.gsi.go.jp/airphoto/index.html）

・　事例３：５～６年生　社会科・理科

教材事例 3　　地球温暖化を知っていますか　　課題発見型

目的　地球温暖化の現状と影響を学び、CO2 排出量削減の必要性と方法を考え、わたしたちができる課題を実践に移す動機を活性化する。

目標
- 地球温暖化の現状と影響、および原因を理解する。
- 地球温暖化防止のために私たちができることを考え、実践に移す動機を形成する。

対象学年　５年、６年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、理科、クラブ活動

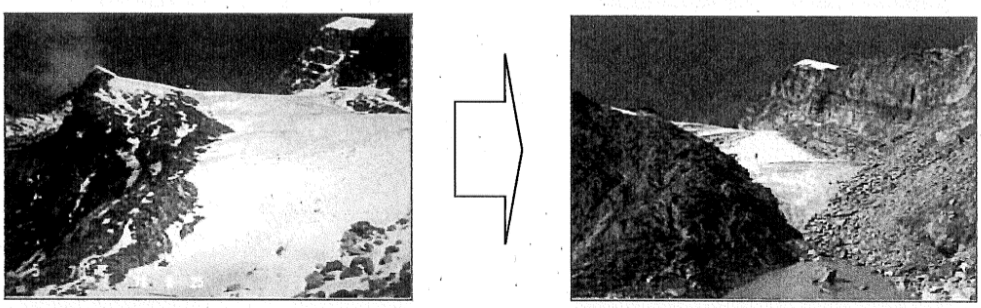
標準校時　1～2 校時

学習構成

1.地球温暖化の現状と影響を知ろう　→　地球温暖化の現状と影響を学習する。

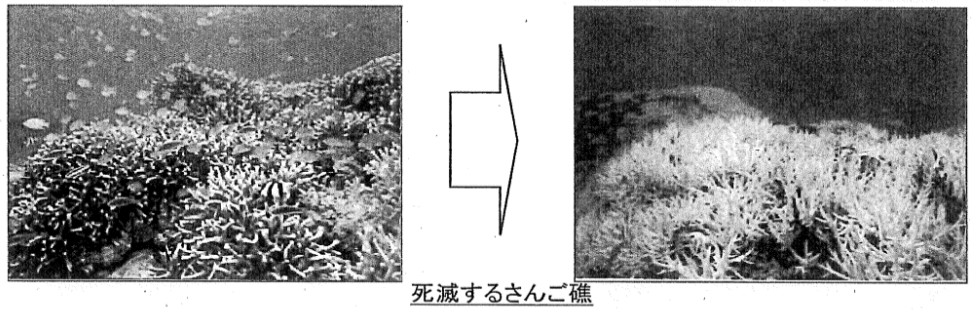
↓

2.CO2 を減らすために　→　地球温暖化の原因と構造を知り、CO2 を減らすための方法を考える。



後退するヒマラヤの氷河

（写真：名古屋大学「雪氷圏変動研究グループのページ http://snowman.ihas.nagoya-u.ac.jp/index-jpn.html）



死滅するさんご礁

（写真：サンゴの白化情報　http://coral.s5.com/sango.htm）

・　事例４：４～６年生　社会科・道徳

教材事例 4　　交通ゲーム　　課題発見型

目的　クルマと鉄道利用の特徴を学び、社会的効率性の概念の理解を深める。

目標
- 自分だけが早く到着すればよいというのではなく、グループ全員（社会）が早く到着することが望ましいという考え方を理解する。
- 地方はクルマを使った方が効率的、都市は鉄道を使った方が効率的であることを理解する。

対象学年　４年、５年、６年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、道徳、クラブ活動

標準校時　1～2 校時

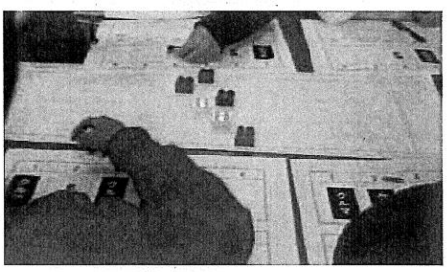
学習構成

1.グループ分け
↓
2.ルールの説明
↓
3.ゲーム開始/終了
↓
4.結果の集計と考察
↓
*.追加ルールに基づくゲームの実施

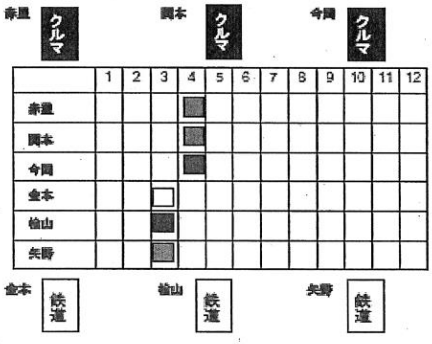
６人のグループを構成する。人数が同じグループをなるべく一つは構成する。

全グループが終了するまで待つ。

結果を集計して発表し、考察します。



交通ゲームの様子
（枚方市立平野小学校（2005 年））



交通ゲームのスコア・シート
（大阪大学大学院　松村暢彦助教授提供）

・　事例５：５～６年生　社会科・理科

教材事例 5　　かしこいクルマの使い方を考える　　実践型

目的　地球環境問題を理解して、交通に着目した CO2 削減に向けた利用の仕方を考え、実践と評価を通して環境改善に貢献する喜びを醸成する。

目標
- 地球環境問題の現状と影響、および原因を理解し、解決のための方法を考える。
- CO2 削減のために、クルマに起因する CO2 を削減することの必要性と動機を形成する。
- クルマでの外出状況および予定を記述して、使い方の工夫を考える。
- クルマの使い方の工夫を家族と一緒に実践して、評価する。

対象学年　５年、６年

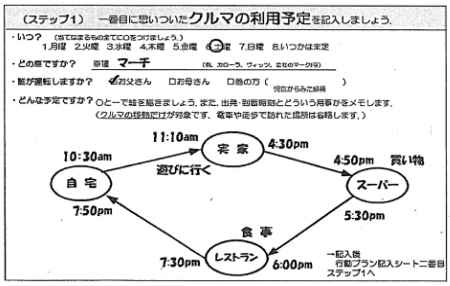
実施教科　総合的な学習の時間、社会、理科、クラブ活動

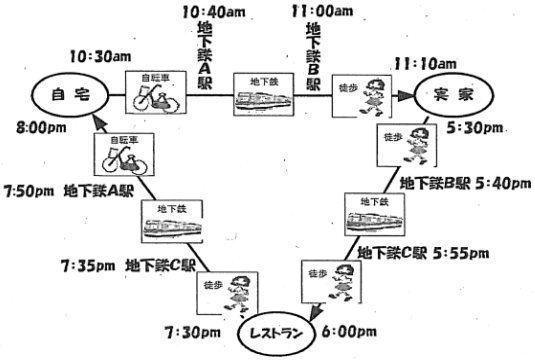
標準校時　6～10 校時

学習構成

1.導入:(地球温暖化を知っていますか？)	交通・環境問題の現状と原因を理解する。
↓ 2.現況交通ダイアリー調査	家族のクルマによる外出行動を記録する。
↓ 3.CO2 を削減するための方法を考える	現況のクルマによる外出行動に基づいて、CO2 を削減するためのクルマ利用の仕方を考える。
↓ 4.行動プラン策定	家族の外出予定に対して、クルマ利用の仕方の工夫を計画する。
↓ 5.第 2 回交通ダイアリー調査	行動プランを家族といっしょに考え、実践して記録する。
↓ 6.CO2 排出量削減の評価とまとめ	現況と第 2 回交通ダイアリーを比較して、CO2 削減を評価する。

行動プラン記入シート　*記入例1*





行動プラン記入例

・　事例６：５～６年生　社会科・理科

教材事例 6　　ふだんのくらしのなかでCO_2をへらそう　　**実践型**

目的　普段のくらしのなかでCO_2を減らす行動力を醸成し、環境にやさしい生活を習慣づける。なかでも、クルマ利用での削減が合理的であることを認識し、クルマ利用の工夫が重要であることを意識付ける。

目標
- くらしの中でCO_2排出量を削減するための方法を考え、自らがCO_2排出量を削減するための計画と目標を設定する。
- 計画と目標に基づいて、CO_2排出量削減のための実践をする行動力を身につける。
- 実践結果を評価して、行動の結果が社会的に貢献できることを実感するとともに、クルマ利用の工夫による削減が合理的であることを認識する。

対象学年　５年、６年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、理科、クラブ活動

標準校時　3～5 校時

学習構成

1.CO_2をへらすために私ができることは？ → CO_2排出原因を確認し、くらしの中でへらすための方法を列挙する。

↓

2.くらしの中での CO2 削減プランを立てよう → 家庭のふだんのくらしでできることを抽出して、実践計画と目標を設定する。

↓

3.CO_2削減プランを実践しよう → 自ら決めたプランを家庭で実践する。

↓

4.実践の結果は？ → 実践結果からCO_2排出削減量を計算し、評価する。

↓

5.みんなで取り組めば地球を救える！ → 実践結果をみんなに知らせる。

ワークシート②-1：私と家族の CO2 へらした記録

テーマ：　自分たちにできること

クラス：	A	出席番号
氏名：		

実践項目	12月13日 金曜日	1月14日 土曜日	1月15日 日曜日	1月16日 月曜日	1月17日 火曜日	1月18日 水曜日	1月19日 木曜日	1週間合計(ア)	CO2原単位 kg(イ)	そのげんりょう CO2削減量 (アxイ)
水を出しっぱなしにしない	○	○	○	○	○	○	○	7	0.012	0.084 Kg
電気の節約をいとこはじめる	○	○	○	○	○	×	○	6	0.011	0.066 Kg
ゲームをひかえめにする	○	×	○	×	×	○	×	3	0.010	0.03 Kg
TVはあまりみない	×	○	○	×	×	×	×	2	0.036	0.072 Kg
車はあまりのらないでバス(歩く)で移動	×	×	○	○	○	○	○	5	0.282	1.41 Kg
おふろはつづけてくる	○	○	×	○	×	○	○	5	0.220	1.1 Kg
										Kg
										Kg
合計										2.762 Kg

「私と家族のCO_2減らした記録」ワークシートの例

・　事例７：４～６年生　社会・理科・体育

教材事例 7　　みんなが使う「電車・バスマップ」をつくろう　　実践型

目的　環境にやさしい交通手段の利用の仕方を学び、地域のみんなが使う「電車・バスマップ」を作成して、みんなに使ってもらう喜びを実感するとともに、公共交通機関利用の習慣を形成する。

目標
- クルマを利用するよりも、電車・バスを利用する方が環境面などでは望ましいことを認識する。
- 目的地までの電車・バスでの行き方を、自分たちで調べる。
- みんなが使う「電車・バスマップ」として、相談しながら合意形成して作り上げていく。
- 作成したマップを家族や地域の方に使っていただいて、評価していただくなどのコミュニケーションを実践する。

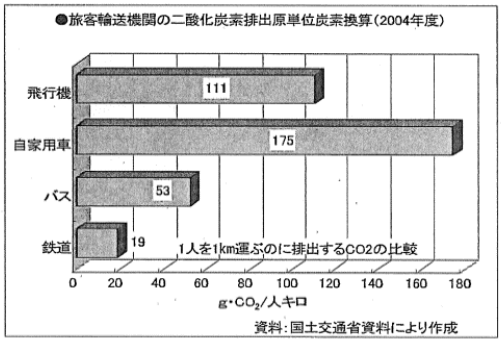
対象学年　４年、５年、６年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、クラブ活動

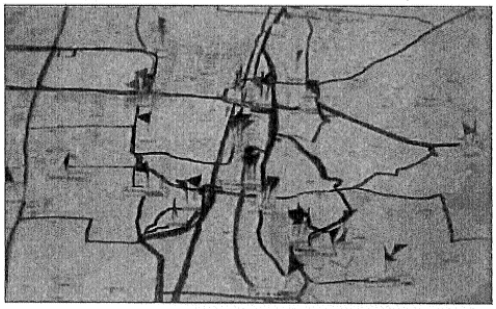
標準校時　4～６校時

学習構成

1. 導入：環境にやさしい交通手段は何？　クルマを使うよりも電車・バスを使う方が、環境にやさしい。
2. ふだんみんながよく行くところは？　校区から、どこにどれくらいの人が行っているのかを確認して、生活圏を認識する。
3. 電車・バスでの行き方を調べよう　校区から主要な場所への電車・バスでの行き方を調べる。
4. 私たちのまちの「電車・バスマップ」を作ろ　みんなに使っていただくための「電車・バス」情報を作成する。
5. みんなに使っていただこう　家族に使ってもらった感想は？



一人 1Kmを運ぶのに排出するCO_2の比較



みんなが良く行く場所と経路を記録します

・　事例８：５～６年生　社会科・理科

教材事例 8　　電車・バスはみんなの乗り物　　実践型

目的　公共交通乗車を通して多様な（マイカー、自転車以外の）「交通」を体験し、「交通－環境」問題の発見と対応を考えて提言を発信することにより、社会貢献の喜びを実感する。

目標
- 公共交通に体験乗車をすることにより、その利用方法を習得するとともに、バス利用の楽しさ・意義を実感する。
- バス体験乗車時の観察やコミュニケーションを通して、新しい発見や問題点を発掘する。
- みんなに使ってもらう工夫を考えて提案、発信することにより、社会貢献の喜びを実感する。

対象学年　４年、５年

実施教科　総合的な学習の時間、社会

標準校時　4～６校時

学習構成

1.導入：環境にやさしい乗り物、電車・バス　→　電車・バスは、クルマよりも環境にやさしいことを認識する。

↓

2.バス乗車体験(校外授業)　→　バスの利用方法を習得し、実際に使ってみよう。どんな新しい発見があるかしら？

↓

3.電車・バス利用体験報告会　→　体験乗車での新しい発見を意見交換し、問題提起する。

↓

4.みんなに利用してもらうためには？　→　みんなに使っていただくためには、どうすればよいかを提言する。

出前講座：「バス体験乗車」の風景

（和泉市立鶴山台北小学校、平成 18 年度）

・　事例９：３～６年生　社会科・道徳

おでかけ日記（トラベル・フィードバック・プログラム）

１ 概要

目的	子どもたちの交通行動に着目して、子どもたちが自らの外出行動を記録して、その結果をフィードバックすることで、一日の交通行動における交通手段利用を把握するとともに、一人ひとりのエネルギー消費量や CO2 排出量を元に、環境、健康やエネルギーと交通の相互影響を考えて、ふだんのくらしでの課題とできることを議論する。 また、他の小学校や海外の子どもたちとの比較をすることで自分たちの交通行動や健康などについて考える。		
目標	・　健康とエネルギーが交通とどのようにかかわっているかを学習する。 ・　自分たちの行動と他の小学校や海外の子どもたちとどれほど違いがあるかを確認する。 ・　ふだんのくらしのなかで環境に配慮する行動を考え、実践する大切さを学ぶ。		
対象学年	3 年、4 年、5 年、6 年	学習のタイプ	実践型学習
実施教科	総合的な学習の時間、社会、理科	連携教科	社会、理科
標準校時	3～4 校時	学習場所	教室、家庭
準備	・交通手段のイメージ調査票 ・おでかけ日記記録用シート ・筆記用具		
支援・連携	・　家庭：おでかけ日記の記録支援、報告会への参加 ・　行政団体、チューター：出前講座、テキスト・ワークシートなどの提供、おでかけ日記の説明・集計 ・　学識経験者：出前講座、教材、ワークシート（おでかけ日記など）作成		
学習構成	**1.導入：交通の問題について** → いろんな交通手段、交通の問題、まちとクルマの関係、そしてその解決策を知る。 ↓ **2.お出かけ日記の記録** → いつも自分たちはどんな行動をしているのかしら？ ↓ **3.お出かけ日記の結果発表** → 一人ひとりのおでかけの結果を見て、良いところ、悪いところを考え評価し、どうすればよいかを考える。 ↓ **4.今後、自分たちでできることはなんだろう？** → もっと、環境にやさしく、健康であるために、どのようにすればよいかみんなで考え、提言する。		

・　事例１０：５～６年生　社会科・家庭科

買い物ゲーム（フードマイレージ）

1　概要

目的	ふだんの食卓を対象として食材の買い物をゲームで再現することで、エネルギー消費と環境負荷との関係、食材の変遷、旬の喪失、食料自給率の変化、モータリゼーションの進展によるライフスタイルの変化に気づかせます。小学校高学年から大人まで、フードマイレージの学習を通して、「買物と環境問題」が理解でき、「やさしい暮らしづくり」の実践を進めていきます。		
目標	・1970 年と現在の物価の違いや 1970 年には季節によって手に入らない食材があったことに気づく。 ・1970 年と現在とでは、買物先や交通手段に変化が生じていることに気づく。 ・買物で食材の選択する場合、近場の食材を選択することで環境負荷が減ることに気づく。 ・買物先と交通手段の変化を知り、これらがもたらす影響を考える。		
対象学年	5 年、6 年	学習のタイプ	実践型学習
実施教科	総合的な学習の時間、社会科、家庭科	連携教材	社会科、理科、家庭科
標準校時	6~8 校時	学習場所	教室
準備	・買い物カード　・地図（日本地図または世界地図：産地元をプロットする） ・お店選択カード　・筆記用具（マジック、色鉛筆、クレヨン、模造紙など） ・交通手段カード　・電卓		
支援・連携	・家庭：報告会への参加等 ・行政団体：教材、ワークシート等の提供、チューター支援 ・学識経験者：出前講座、教材、ワークシートの作成		
学習構成	**1.食事の献立を考えよう** 各クラスで、1970 年グループと現在グループに分かれる。 各クラスで、食事の献立を考え、必要な食材を話し合う。 ↓ **2.食材を買いに行こう** 必要な食材をどのお店に、どのような交通手段で行くか決めて、必要な食材を買う。 ↓ **3.食事をつくろう** 選んだ買い物カードを基に、自分たちで考えた献立を絵に書く。 ↓ **4.フードマイレージを計算しよう** 選んだ買い物カードの裏側を見て、原産地を地図に書き、原産地から私たちの家まで運んでくる交通手段の CO_2 排出量を計算する。 ↓ **5.発表しよう** 各グループで計算した CO_2 排出量を発表する。		

イ 札幌市の事例

表 3-11 モビリティ・マネジメント教育事例（札幌市）

NO	教材	テーマ	概要
1	3 年社会	もっと知りたい みんなのまち	市内の公共施設が地下鉄沿線に多いことに着目し，徒歩や自家用車との比較を通して，公共交通機関の利点やその役割について学ぶ授業。
2	3 年社会	わたしたちの 市のようす	札幌市に公共交通（地下鉄・バス）があることのよさを考える活動を通して，札幌市の公共交通は自分たちの生活の足となっていることを学ぶ授業。
3	3 年社会	昔の道具とくらし	地下鉄の開通による市民生活の変化を考える活動を通して，地下鉄が果たしてきた役割に気づき，40 年にわたって公共交通機関が充実している札幌市のよさを学ぶ授業。
4	5 年社会	くらしを支える情報	「さっぽろ・えきバス・ナビ」（乗継検索 Web サービス）を通して，情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて学ぶ授業。
5	6 年社会	暮らしの中の政治	札幌市がバス事業の維持に税金を使っている意味を考える活動を通して，「バス事業を支えることが市民の生活を守っている」ことに気付き，市民一人ひとりの暮らしに租税が大切な役割を果たしていることを学ぶ授業。
6	4 年社会	身近なバスと私たち のくらし	札幌市の公共交通が抱えている問題点を関連付けて考える事で未来へ向けて自分たちの考えを深めることができるようなテキストを作成し，未来へ持続的につなげることのできる授業。
7	4 年総合	わたしたちのくらし と市電	電車事業所が新型低床車両をほぼ毎日運行させている理由を追求する活動を通して，市民の期待に応え，新型低床車両のよさを広めようとする電車事業所の人の願いを学ぶ授業。
8	4 年総合	わたしたちのくらし と公共交通	札幌市が赤字バス路線に対し補助金を出して，路線を維持しようとしていることの意味を考えることから，未来の自分たちにとっての公共交通のあり方を学ぶ授業。
9	5 年総合	環境について 考えよう	交通日記を用いて日常の移動による二酸化炭素の排出の状況を調べ，一人ひとりの交通行動が地球温暖化に与える影響について考える授業。
10	1 年道徳	でんしゃのトーリー	でんしゃのトーリーやお客さんのために働く係の人の思いについて考え，お世話になっている人々に感謝の気持ちを表すことを学ぶ。

・　事例１：３年生　社会科

社会_もっと知りたい　みんなのまち

3. 本時の目標と学習展開

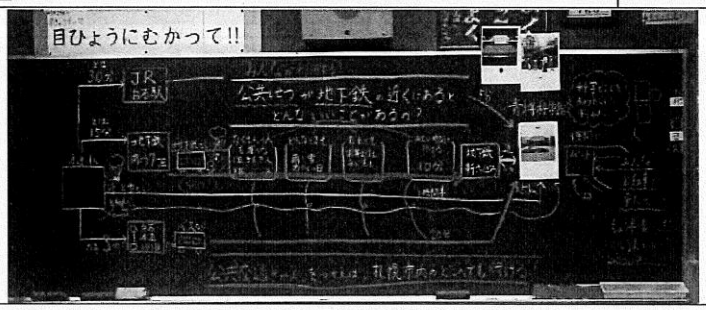
●目標

・地下鉄沿線に公共施設が多いという事実から問いをもち、地下鉄やバスのよさと公共施設の働きを、徒歩や自動車と結びつけて考える。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 札幌市全体の特徴、主な公共施設の場所などを学んでいる。札幌市の公共交通機関について学んでいる。 南北線、東西線、東豊線→ 札幌市地図 地下鉄路線図 公共施設位置 ← 公共施設 公共施設は、地下鉄の近くにたくさんあるよ。 **公共施設が地下鉄の近くにあったら、どんないいことがあるのかな？** 円山動物園 ← 本通小学校 地下鉄だったら・・・ はやい ・歩いたら３時間 ・地下鉄なら15分 楽 ・座ったままでつく ・歩かなくていい だれでも ・子どももお年寄りも ・車のない人も 自動車でもいいんじゃない？ みんながいっぺんに自動車で来ると・・・ ・駐車場が混んでしまう　・じゅうたいする ・排気ガスがいっぱい出る みんなが利用する公共施設だからこそ **公共施設が地下鉄の近くにあったら、みんなが利用しやすいんだね。** でも、さとらんどや芸術の森は、地下鉄から遠いよ・・・ 札幌市地図 地下鉄路線図 公共施設位置 &バス路線図 バスで行けるよ！ 公共交通機関で札幌市内ほとんどのところへ行ける！	・ＩＣＴを活用する。 ・地下鉄路線図と公共施設の位置を重ねることで、問いを生む。 ・具体的に考えられるように、子どもたちがよく利用する「円山動物園」を例に考える。 ・徒歩との比較を通して、地下鉄のよさに気付かせる。 ・視覚的な板書を工夫する。 ・公共施設へ行く際の地下鉄のよさをまとめた上で、「自動車も同じでは？」と発問する。自動車のよさも認めつつ、マイナス面について検討する ・他の公共施設に目を向け、一般化を図る。 ・地下鉄駅から遠い公共施設を取り上げる。 ・バス路線図を提示し、バスを使えば、札幌市内どこへでも行けることを押さえる。

板書計画



・　事例２：３年生　社会科

社会_わたしたちの市のようす

3. 本時の目標と学習展開

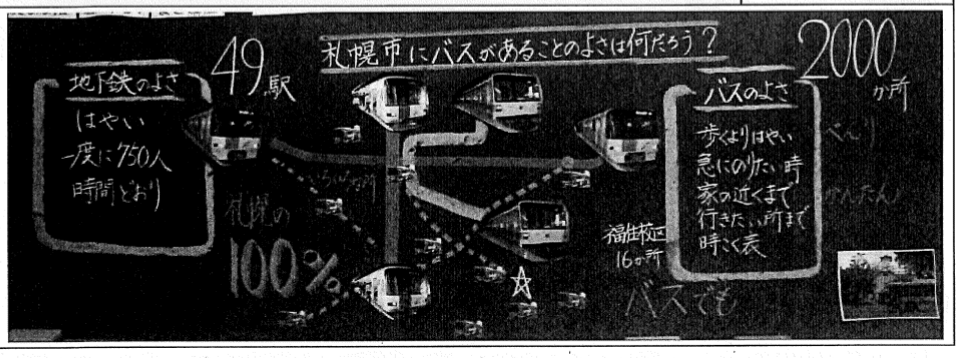
●目標

・札幌市に公共交通（地下鉄・バス）があることのよさを考える活動を通して、札幌市の公共交通は自分たちの生活の足となっていることを考えることができる。（思考・判断・表現）

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） **前時までの学習　札幌市のようすをさぐろう** その①土地のつくり　南西は山！北東は平ら！豊平川が流れてる！ その②区ごとのようす　区によってとくちょうがちがった！ その③公共しせつ　地下鉄のそばにあって利用しやすい！ 	・公共交通とは何かを振り返る。 ・地下鉄のよさを想起していく。 ・子どもがあまり利用しないバスのよさを考えるようにする。 ・福住小学校校区にある地下鉄駅の数とバス停の数を数え、バス停の数の多さに気付かせる。 ・停留所にある行き先や時刻表を用いて、具体的な経路を視覚的に分かるようにしていく。 ・地下鉄でもバスでも同じ場所に行けることのよさを考えていく。 ・公共交通で札幌市のほぼ 100％カバーされていることに気付くようにする。

板書計画



・　事例３：３年生　社会科

社会_昔の道具とくらし

3. 本時の目標と学習展開

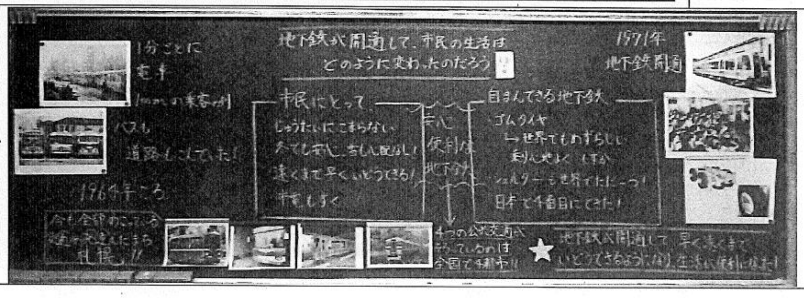
●目標

・地下鉄の開通による市民生活の変化を考える活動を通して、札幌市営地下鉄の価値に気付き、４０年にわたって公共交通機関が充実している札幌市のよさを適切に表現することができる。（思考・判断・表現）

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） １９６０年代に入り交通渋滞が大問題になったこと、市民の足であった市電は、通勤ラッシュ時に１００mもの乗客の列ができて大混雑していた様子を学んでいる。	・前時をふりかえりながら、1960年代の状況を確認する。
１分ごとに電車が来て、電車も大渋滞していたよ。 市電やバスだけでは、市民を運べなくなってきたよ。 人口100万人の都市に全国で４番目となる地下鉄が誕生 １９７１年、オリンピックの前年に南北線北２４条～真駒内開通！！	・地下鉄が開通した状況や様子を教える。
地下鉄が開通したことによって、市民の生活はどのように変わったのだろう。	・地下鉄と市民生活とのかかわりを考えるようにする。
札幌市民にとって ・渋滞に困らず移動できる。 ・冬でも安心。雪も心配なし。 ・遠くまで早く移動できる。 ・東西線ができ益々便利に。 ・車を使わなくてもいい。 ＝ 雪の心配もなく、早く遠くまで移動ができる地下鉄 ＝ 市民が自慢できる地下鉄 ・車輪ではなくゴムタイヤ→「札幌式」と呼ばれ、世界にも知られる。 ・シェルターも世界唯一。 ・乗り心地も最高！ 市民の暮らしが豊かに　　世界にも誇れる乗り物	・市民生活と地下鉄のよさを分類し黒板にまとめる。
地下鉄の開通によって、札幌市内の公共交通機関は… 今も全部残っているなぁ。 地下鉄　バス　市電　JR 乗り物がたくさんあるまちなんだ…。 ４つの公共交通機関がそろっている都市は札幌・東京・京都・大阪の４都市しかない！！ 札幌市民 190 万人が利用できる大事な乗り物になっているんだ！ 行く場所によって使い分けるととっても便利だね！ これからも続くようにみんなで協力することが大切だね！ 札幌市は世界にも自慢できるまちなんだね！	・札幌で走る公共交通機関を子どもと確認する。 ・４つの交通機関がそろう札幌の価値を考えることで、マイレール意識を高める。
地下鉄が開通して、市民の生活が豊かになり、公共交通機関がそろったまちになった。	

板書計画



・　事例４：５年生　社会科

社会_くらしを支える情報

3. 本時の目標と学習展開

●目標

・さっぽろえきバス navi を通して、情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて考え、情報化の進展によって人々の生活の向上が図られていることがわかる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで）自分の生活と公共交通機関の関係を考え、さっぽろえきバス navi を使うと公共交通機関の利用がしやすくなることに気付いている。	
【問いを共有する姿】 さっぽろえきバス navi の利用率を知り、システムのよさと矛盾する結果に疑問をもつ。 公共交通機関の利用率を表したグラフ及びバスの現状を知らせる新聞記事を見てバス利用の減少に危機感をもつ。	・前時を想起させ、さっぽろえきバス navi のよさを浮き彫りにする。 ・公共交通機関の利用率を表したグラフ及び新聞記事を提示して問いを生む。
【響き合う姿】 既習や生活経験、資料をもとにバス利用を増やす方策を考え、活発に交流する。	・立場ごとに分けて板書し、まとめる。 ・交通環境学習を網羅する。 ・えきバス navi に焦点化。社会科の学習のねらいに迫っていく。
札幌市民の意識の変化が大切であり、さっぽろえきバス navi がその役割を果たす可能性があることに気付く。	・認知度が低い事実から、さっぽろえきバス navi に焦点を当て、その役割や価値に気付かせていく。 ・本時のまとめ、振り返りをさせる

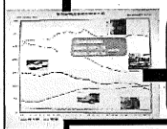
さっぽろえきバス navi のよさは
・時刻がわかる！　・停留所がわかる！
・乗り換えがわかる！　・札幌市内どこにでも公共交通機関で行くことができる。
・料金がわかる！

札幌市内輸送機関別乗車人員（グラフ）

さっぽろえきバス navi を使うと、共交通機関が使いやすくなる！

札幌市民の認知度は約３０％…。一日の利用者は約 13000 人。

しかし…



えきバス navi は便利なはずなのに、バスの利用者は 30 年で 50％も減っている…

このままではバスが赤字で、廃止になってしまう路線も…。

13000 人使っていても札幌市の人口は 190 万人から意外と知られていない？

バスの利用を増やすには、どうすればいいのだろう？

バスの良さを伝える

・安全で安心できる乗り物
・低床バスもある
・安い料金で遠くまで！
・環境にやさしい！
・誰でも乗れる！
・札幌市内どこでも行ける

さっぽろえきバス navi を広める

・ポスターでお知らせ！
・パンフレット
・広報誌で PR

バス会社や市役

バスの良さを知り、利用する

・自動車の利用を減らす
・札幌ドームや市内中心部へ行くときは公共交通で！
・自分だけではなく、市民全員のことを考えて行動する
・バスを利用→赤字路線を支える

自分も含めた札幌市民

自動車と公共交通をバランスよく使い分ける！

意識が変わる!!

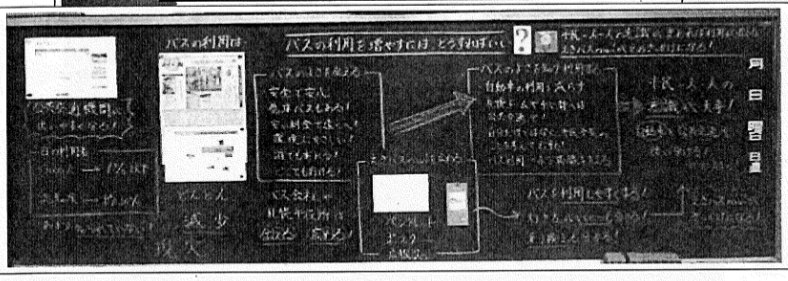
自動車の利用を一回だけでもバスに変えてみよう！

利用が増えると、公共交通がもっと身近になる。

バスを利用しやすくする！！
行き方がいくつも分かる！！

市民一人ひとりの意識が変われば、バスの利用が増える！
さっぽろえきバス navi はそのきっかけになりそうだね！

板書計画



・　事例５：６年生　社会科

社会_暮らしの中の政治

3. 本時の目標と学習展開

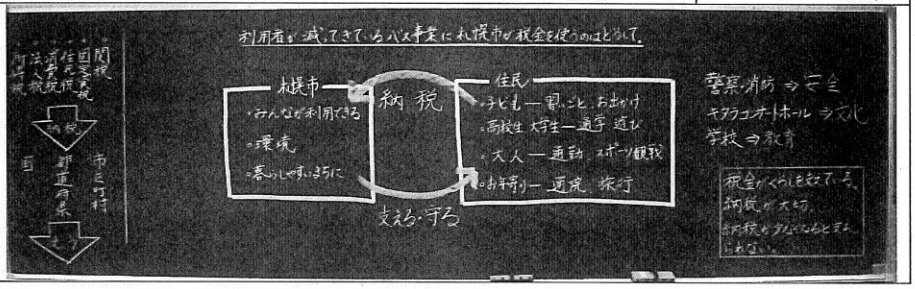
●目標

・札幌市がバス事業の維持に税金を使っている意味を考える活動を通して、「バス事業を支えることが市民の生活を守っている」ことに気付き、市民一人ひとりの暮らしに租税が大切な役割を果たしていることについて考え、適切に表現することができる。（思考・判断・表現）

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 教科書の東京都世田谷区の事例をもとに、「住民の願いをきき、誰もが暮らしやすい社会をつくることが政治の大切な仕事であること」、「誰もが暮らしやすい社会をつくるには住民の政治参加が必要であること」を学んでいる。 ○国や地方公共団体の仕事の費用はどこから出ているのだろう ・所得税 ・法人税 ・消費税 ・住民税 ・固定資産税 納める ・国に ・都道府県に ・市区町村に 使う バスの利用者数の減少のグラフ 平成24年度 約6.5億円 利用者が減ってきているバス事業に札幌市が税金を使うのはどうしてだろう 札幌市にとって ・誰もが利用できる移動手段を確保 ・公共交通を使ってもらい環境を守る ・都市を活性化 ・みんなが暮らしやすいまちづくり 納税 市民の暮らしを守る 住民にとって ・学校に通えない ・通勤に困る ・車がない人は移動できない ・地下鉄駅からタクシーを利用するしかなくなる ○その他にはどんなところに税金が使われているのかな 警察・消防 ⇨ 安全で健康な暮らしを守る キタラコンサートホール ⇨ 文化的な生活を送る 学校 ⇨ 平等に教育を受けられるようにする 小学生一人にも、一年間で約100万円の税金が使われている みんながどこかで同じように恩恵を受けている 税金が私たちの暮らしを支えてくれている。納税は大切なんだね。	・教科書を使い税金の集められ方や使われ方を確認する。 ・札幌市の税金の使い方の事例としてバス事業を取り上げ、利用者が減ってきているバスに毎年億円の税金を使っている事実から問いを生む。 ・利用者が減ってきているけれどもバスが無くなると困る人が多くいることや困る中には自分も含まれていることから税金の役割を浮き彫りにする。 ・身の回りで使われている税金について考えることで税金の大切さを実感させる。

板書計画



・　事例６：４年生　社会科

総合_身近なバスと私たちのくらし

3. 本時の目標と学習展開

●目標

・バスの乗車人数がどんどんへり、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしている事の意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考える事ができる。

学習展開と児童の思考の流れ	教師のかかわり
前時までに子どもたちは札幌市の公共交通についての歴史について調べ、バスが、札幌市民の足として古くから利用されていたことを理解している。 札幌市全体のバス乗車人数 ・バスに乗る人がどんどん減っている。 ・路線はそんなに変わっていないね。 札幌市全体のバス走行キロ数 **札幌市では毎年６億４千万円も損をしているのにバス路線を残している** バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、 バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう 【だ れ で も】 ◆小・中学生や高校生でも ◆おとしよりにも ◆体が不自由な人でも 全ての札幌市民のために 【い つ で も】 ◆映画を見るときは ◆お父さんの出張の時に ◆時刻表があれば ◆一時間に何本も **札幌市のほぼ100%の場所に公共の交通機関で行くことが可能** 【どこへでも】 ◆さとらんともポリテーテーリングで ◆札幌ドームやおじいちゃんの家まで ○このままだとどんどん路線がなくなり続けるのでは？ 【い つ ま で も】 札幌市全体のバス乗車人数と自動車保有台数 **どうなることが自分たちの未来にとって一番いいのだろう** 札幌市はだれでも、いつでも、いつまでも利用できるように バス路線を考えているんだね	○子どもたちが問いを持つ事ができるように、札幌市全体のバスの乗車人数が年々減ってきている事実の提示とその一方で、路線のキロ数に大きな変動のない事実の提示をあわせてする。 ○札幌市が赤字路線に６億円超の補助金を出している事実の提示から問題意識を醸成する。 ○子どもの考えを「だれでも」、という視点と「いつでも」、「どこへでも」という視点に分けて引き出し、板書に類分けする。 ○「だれでも」、「いつでも」、「どこへでも」の見方や考え方を確かにするために子どもの考えを切り返し、ゆさぶっていく。 ○「市街化区域における公共交通機関へのアクセス状況」のグラフの提示から、公共交通機関で札幌市内で人が生活している場所のほぼ100%の場所に行くことができる事実を押さえる。 ○「バス乗車人数と自動車保有台数」のグラフの提示から、未来の札幌市にとってどうしたらよいか考える場の構成をする。

板書計画

バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、
バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう

【だ れ で も】
◆小学生でも
◆おじいちゃんでも

みんなが利用できる

【い つ で も】
◆時刻表があれば
◆一時間に何本も

【ど こ へ で も】
◆札幌ドームへ

【い つ ま で も】

札幌市はだれでも、いつでも、どこへでも、そして、いつまでも利用できるようにバス路線を考えているんだね

・　事例７：４年生　総合学習

総合_わたしたちのくらしと市電

3. 本時の目標と学習展開

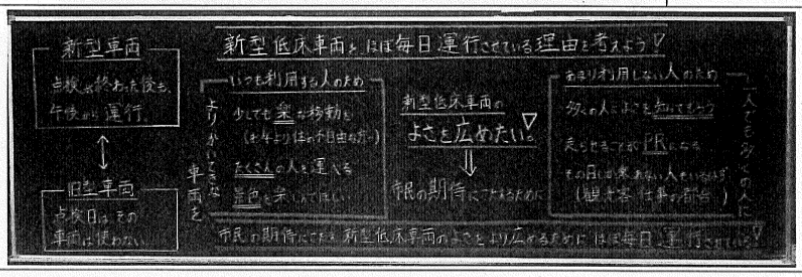
●目標

・電車事業所が新型低床車両をほぼ毎日運行させている理由を追究する活動を通して、市民の期待に応え、さらに新型底床車両のよさを広めようとする電車事業所の人の願いを考えることができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 電車事業所見学や聞き取り調査などの活動を通して、市電の運行に様々な人が携わっていることや、路線や乗客者数の減少が続く市電の問題点について理解している。	・点検後の車両の使い方を比較し、問題意識を生む。 ・左記の事実はあくまでも原則であることを子どもに伝える。（乗客者数や点検の状況によって、変更する事も有り得る。）
旧型の車両 →月６回程度の点検の日は、その車両は使わない 新型低床車両は、ほぼ毎日運行させている 新型低床車両 →点検の日も、点検終了後、午後から運行 **新型低床車両を、ほぼ毎日運行させている理由を考えよう！**	・車両を運行させている電車事業所の立場で、子どもたちの思考を整理する。
普段から利用する人たちのために ・広い窓で景色を楽しんでほしい ・お年寄りや体の不自由な人に、快適に移動してもらいたい ・広い車両でたくさんの人を運べるように **快適な車両を** ＝ 広めるために！ ＝ まだ乗ったことがない人のために ・多くの人に、新型車両に乗ってもらいたい ・その日しかいない観光客にも乗ってもらうため ・見てもらうだけでも、新型低床車両の存在が伝わるから **一人でも多くの人に** **新型低床車両のよさを、より多くの人に広めたい！** 実は、新型車両が運行してからほぼ毎日… 【 新型低床車両が走る時刻についての問い合わせが、電車事業所に届いている。 】 新型車両に興味のある人がそれだけ多いのだと思うよ。 市民の期待 まだ乗ったことがない市民も大勢いるのではないかな。 **市民の期待にこたえるために！** 多くの市民の期待を背負った新型底床車両だからこそ、ほぼ毎日運行させて、多くの人によさを広めようとしているんだね！	・問い合わせの電話が続いている事実を市民の立場で考えることで、新型車両に対する期待感に気づかせる。

板書計画



・　事例８：４年生　総合学習

総合_わたしたちのくらしと公共交通

3. 本時の目標と学習展開

●目標

・バスの乗車人数がどんどん減り、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしていることの意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考えることができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで）家族の交通行動について調べ、家族の移動手段が、目的や行き先によって違っていること、バス路線があることが、自家用車を持たない者にとっても、持つ者にとっても大切であることを理解している。	○バス路線「白２４」が必要性を振り返った後、昨年度 580 万円の補助金を出している事実を提示し、その意味を問う。 ○札幌市全体のデータを示すことで、身近なことが札幌市全体の問題であることに気付かせ、問題意識を高める。 ○子どもの考えを「だれでも」「いつでも」「どこへでも」という視点に分けて引き出す。 ○既習の「交通日記」とつなげ、身近な問題として考えられるようにする。 ○子どもの見方や考え方を確かにするために、必要な資料を提示したり、切り返しの発問をしたりする。 ○バス乗車人数と自動車保有台数とお出かけ調べの結果を関連づけ、未来の公共交通のために、自分自身がどうしたらよいか考えるようにする。

バス路線「白２４」

「白２４」には、去年、５８０万円の補助金を出している！
バスが走れば走るほど、損をする！

札幌市全体でも、似たようなところがたくさんあるね。
去年は、補助金６億４０００万円！

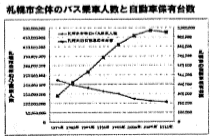
どうして、６億 4000 万円も損をしているのに、バス路線を残しているのだろう。

だ れ で も
・自家用車を持たない人でも
・運転できなくなった人も
・体が不自由な人も

札幌市民の大切な「足」だからこそ

い つ で も
・便数がたくさん
・乗り遅れても次の便に
・

ど こ へ で も
・仕事にも
・学校にも
・札幌市のほとんどのところへ行ける

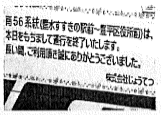


お出かけ調べでは･･･
バスの利用者が少ない！

このままだと、路線が減っていってしまう！
どうしたらよいのかな。

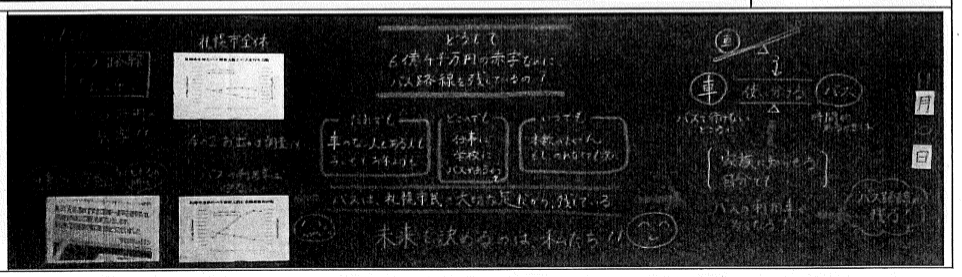
車とバスを使い分ける！
お家の人に知らせる！　自分でも

バス路線の廃止



札幌市は、市民みんなが、いつでも、どこへでも行けるように、バス路線を残しているんだね。未来に残せるかどうかは、自分たちの行動次第だね。

板書計画



・　事例９：５年生　総合学習

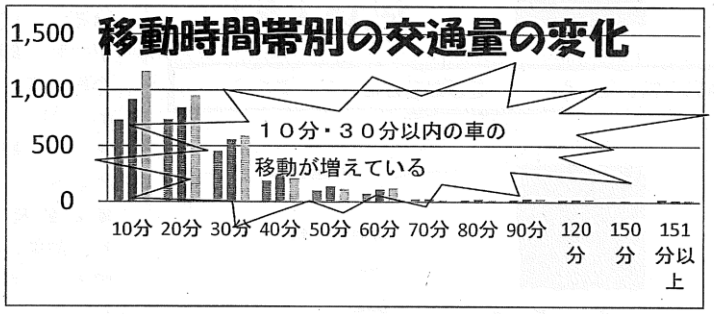
総合_環境について考えよう

3. 本時の目標と学習展開

●目標

・自分の生活の問題点と札幌市の問題点とをつなげ自分や家族の生活の改善点を考えるとともに、これからの公共交通のあり方への関心を高める。

●展開

子どもの意識と学習活動	教師のかかわり
前時までの子どもの姿 地球温暖化の影響が北海道でも起こっていることを知り、自分にできることを考えている。 CO_2の排出量を減らすためにはどうしたらいいのかな ゲームを30分我慢する　近所への買い物は歩いて　お風呂の時間を短くする ○札幌市の現状  CO_2の排出量を減らすためにはどうしたらいいのかな 自分：歩く・近くの店に買い物に行くときは、歩いたらいいんじゃない お父さん：自転車を使う・少し離れた場所でも自転車を使えばいいんだね 自分：バスを使う・習い事に行くときにはバスを使う方がいいんだね 車の利用をちょっと控えるだけでずいぶんとCO_2を減らすことができそうだ 自家用車に頼りすぎることで環境以外にも困ったことが起こりそうだね	○テレビを１時間見ないよりも車を10分間使用しない方がはるかに効果があることから交通行動に焦点化していく。 ○札幌市民の交通行動のグラフから問いを生む ○誰がどのように行動を変えればよいのか、その可能性はどれぐらいあるのかで類分けを行う。 ○新聞記事を提示し、これからの公共交通を考えるきっかけにする。

・　事例１０：１年生　道徳

道徳_でんしゃのトーリー

２．本時の目標と学習展開

●目標

・トーリーやお客さんのために働く係の人の思いについて考え、お世話になっている人々に感謝の気持ちを表すことができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
みんなは普段、どんな乗り物に乗っているかな 家の車　飛行機　バス　電車 いろいろな乗り物があるよ ○でんしゃのトーリーを読む トーリーを点検したり、きれいにしたりする人がいるよ ・しらべる ・ぴかぴかに ・とりかえる 点検や掃除をする人 よなかじゅうこうじをすることもある たいへんだ！ 係の人は、どうして毎日点検して、トーリーをぴかぴかにしているの？ トーリー ・うれしい ・楽しい ・気持ちが良い ・もっと走りたい 点検や掃除をする人 トーリー、そしてわたしたちのために わたしたち お客さん ・気持ちが良い ・安心 ・安全 ・もっと乗りたい 係の人は、トーリーやお客さんたちが気持ち良く乗ることができるように毎日整備してくれているんだね。 ○お客さんになって係の人たちに手紙を書く きれいにしてくれるから、きもちよくのることができています。 てんけんをして、あんぜんをまもってくれて、ありがとうございます。 みんなの安全を守るために働いている人のことがわかったね。	○写真を提示し、イメージをもてるようにする。 ○整備されていないトーリーを提示し、副読本の記述に注目できるようにする。 ○係の人が行っていることに線を引かせ、副読本の読み取りを深めていく。 ○きれいに整備されたトーリーに乗る経験をさせ、お客さんの視点からも考えられるようにする。 期待させる道徳的価値 物語の登場人物になりきって、整備をしてくれる人々に感謝の手紙を書くことができる。

板書計画

ウ 富山市の事例

表 3-１２ モビリティ・マネジメント教育事例（富山市）

事例	教材	テーマ	概要
1	3 年社会	くしとだんごのまちづくり	富山市の「くしとだんごのまちづくり」について座学を１時限行い，貸切バスで富山駅北へ移動の後，「くし」の１つであるポートラムの乗車体験と車両基地見学等を実施。
2	3 年社会	富山市のいろいろな乗り物	富山市にはいろいろな公共交通があることを知り，公共交通と土地利用が結びついていることや，「くし」のひとつであるポートラムについて学習しながら，地域や公共交通への愛着が深まることを目的にした授業。
3	4 年社会	「富山市の交通とくらし」～富山市のおでかけバスって知ってる？	富山県の交通の現状とその解決策について話し合い，バスを中心にした公共交通のよさに気付くことができることをねらいとした授業。
4	4 年社会	富山県の交通の様子	鉄道の大切さについて考えるとともに，富山県の鉄道の様子について，市街地の分布と関連付けて理解することを学習目的として授業。
5	4 年総合	おでかけ定期券って何だろう？	富山市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して，バス交通がお年寄りにも使いやすく整備されていることに気づくことをねらいとした授業。
6	6 年社会	富山市の新しいまちづくり　～まちを元気にするライトレール	ライトレールを使った富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べ，これからの富山市について自分なりの考えをもつことを学習目的とした授業。
7	6 年総合	環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう	交通機関の環境に与える影響を考え，自分たちの交通機関の使い方と，富山市が進めている環境にやさしいまちづくりと関連させながら，これからの交通機関の利用についての理解を深めることを目的とした授業。

エ　その他の教材事例

・　事例１：低学年　鉄道のヒミツクイズ

「でん車に乗ってでかけよう」
事前学習指導案

本時のねらい

近江鉄道の乗車体験の前に，近江鉄道について知り，興味をもたせる．電車のマナーを学び，クルマとは違い，電車は「公共の乗り物」であることを知らせる。

本時の展開

プロセス	学習活動と発問	教材と進め方	
近江鉄道の思い出 【10分】	**近江鉄道に乗った経験を発表する** *「近江鉄道に乗ったことがある人は？」* *「どんなところに行きましたか？」* **どんな人が乗っていたか思い出そう** *「電車にはどんな人が乗っていましたか？」*	【スライド２～４】 電車の思い出を発表する．	
近江鉄道を知る 【20分】	**「河辺いきものの森」までの駅名を覚えよう** *「近江鉄道はどこを走っているか知っていますか？地図を使って，今度出かける河辺の森までの駅名ををみんなで覚えましょう」* **近江鉄道のヒミツクイズ！** *「みんながどれくらい近江鉄道のヒミツを知っているか，クイズをしましょう」* ・先ほど勉強した駅名を言える？ ・近江鉄道はいつから走ってる？ ・近江鉄道は一日に何回往復してる？ ・彦根駅は一日に何人くらいが利用してる？ ・近江鉄道に自転車を載せられる？ **電車のしくみを学ぼう** *「では，電車はどうやって動いているか，どんな人が電車に関わるお仕事をしているか，見てみましょう」* ・電車はどうやって動く？ ・電車はどんな人が動かしている？ （運転士，車掌，整備士） ・駅，改札，ホームには何がある？	【マップ】 黒板に張った地図を使って駅名を覚える． 【スライド５～10】 グーチョキパーでクイズに答える． 【スライド 11～18】 駅見学で聞きたいことを考える． スライドの写真を見せながら，駅から改札までの動きをシミュレーションする．	
マナーを学ぶ 【10分】	**電車のマナーを学ぼう** *「電車を安全に気持ちよく乗るために，みんなに守ってほしいことがあります．」* ・降りる人を待たずに乗るのは？ ・約束に遅れそうだからと言って走って乗るのは？ ・電車の中で走ったり騒いだりすると．．． ・荷物などで席をふさいでしまうと．．． ・電車の出口でかたまっていると．．．	【スライド 19～24】 スライドを見せながら，電車のマナーを知らせる．	
まとめ 【5分】	**考えてみよう．電車はだれのもの？** *「最後にクルマと電車の違いを考えみましょう．」* ・クルマを持っていない人や免許を持っていない人，通勤・通学で使っている人などみんなもの	【スライド 25～26】 クルマとは違い，電車はみんなのもの（公共の乗り物）であることを知らせる．	

おうみ てつどう
近江鉄道のヒミツ
いろいろな電車
近江鉄道700系
近江鉄道800系
近江鉄道900系
思い出してみよう！
近江鉄道にのって
どこに行きましたか？
電車にはどんな人が
のっていましたか？
いくつおえられるかな？
近江鉄道のヒミツ
クイズ！
えきの名前をいえるかな？
ひこね
ひこねせりかわ
たかみや
ひこねぐち
ごかしょう
えちがわ
ごよさど
あまご
かわべのもり
近江鉄道はいつから走っている？
1622年
1898年
1931年
近江鉄道は一日
何回おうふくしている？
10往復
30往復
100往復
彦根駅は一日
何人が利用している？
100人くらい
500人くらい
1500人くらい

近江鉄道に自転車をのせられる？
のせられる
のせられない
電車のしくみ
電車はどうやって動くのかな？
でんか会社
電車
鉄道へんでんしょ
電車にかかわるしごと①
運転士さん
・信号やそくどなどを確認しながら，あんぜんに目的地まで電車を走らせるお仕事
電車にかかわるしごと②
車しょうさん
・電車が動き出すときの安全確認やドアの開閉など、あんぜん・かいてきに電車を利用できるようにするお仕事
近江鉄道は運転士さんと車しょうさんのお仕事を1人でやっているよ
電車にかかわるしごと③
せいびしさん
・電車に問題がないか，点けんしてしゅう理をするお仕事
えきの中には何がある？
エレベーター
時こくひょう
かいさつ（のりばの出入口）には何がある？
げんばいき
ホーム（電車を待つ場所）には何がある？

マナーをまなぼう

電車にのるときのマナー
おばあさんがおりようとしてる
待たずに先にのる

電車にのるときのマナー
友だちとの約束に遅れそう！
走って電車にとびのる

電車の中でのマナー
だれがこまっている？

電車の中でのマナー
だれがこまっている？

電車をおりるときのマナー
だれがこまっている？

かんがえてみよう

電車はだれのもの？
電車は
みんなのもの
電車はだれとのる？

・　事例２：中高学年　交通すごろく

(3) CO2 排出量を考慮した交通すごろく

2007 年に北海道運輸局は恵庭市のコミュニティバス路線をイメージした交通すごろくを作成した。この交通すごろくの特徴としては、交通機関カードを選び、その交通機関カードの性質に応じたサイコロ個数を振りコマを進める点と、各交通機関には、排出する CO2 量が定められており、ゴールの順位と CO2 量の順位により、最終順位を決定する点が挙げられる。

2007 年以後、北海道開発局札幌開発建設部により札幌市版、北海道運輸局により登別市版、当別町地域公共交通活性化協議会により当別版等が作成されている。

図 2-6　恵庭市の交通すごろく（北海道運輸局）

① ミッションカードをめくる
② 『スタート』からミッション達成をめざす。
③ 交通カードを選び、サイコロをふって進む
④ ミッションの場所に着いたら、1回、STOP！！
⑤『ゴール』へ向い、着いたら終了

■注意点
低学年の使用交通カードは、徒歩・バス・JR
高学年の使用交通カードは、徒歩・バス・JR・クルマ

⑥交通カードの枚数からCO2排出量を計算（計算シート有り）

	徒歩	JR	バス	クルマ
ふる サイコロ数	1個	1個 （線路を進める）	2個	3個
CO2排出量 （1枚当り）	0kg	1kg	3kg	10kg

⑦『ゴール』到着の順位
（ゴール到着が一番早いひとが1位）
＋
CO2排出量の順位
（CO2排出量が一番少ないひとが1位）
→ 最終順位決定
2つの順位をたして、その値が小さいと勝ち

図 2-7　交通すごろくのルール

図 2-8　交通すごろく（北海道開発局札幌開発建設部）

図 2-9　登別市の交通すごろく（北海道運輸局）

・　事例３：中高学年　観光プラン

・　事例４：高学年　ガリバーマップ

秦野市における新たな交通スリム化教育の取り組みについて
～本町小学校におけるガリバーマップを用いた授業～

１　秦野市における小学生を対象とした交通環境学習の取り組み

秦野市では、朝の通勤時間帯の交通渋滞の緩和等を目的に、平成１７年度から５か年間、「はだの交通スリム化プロジェクト」として、自動車の効率的な利用や公共交通への転換などを呼び掛ける交通需要マネジメント（ＴＤＭ）施策を実施し、その施策のひとつとして、『交通スリム化教育（ＴＤＭ教育）』を実施してきました。

『交通スリム化教育』は半日程度の授業と関連するアンケート調査などを通じて、環境にやさしい交通利用意識を身につけるきっかけの場とするものであり、筑波大学大学院システム情報工学研究科　谷口綾子准教授に監修いただきながら、教育委員会教育指導課と公共交通所管課が連携して取り組んできました。各小学校の先生方の協力のもと、平成１７～２１年度の５か年で市内全１３小学校にて交通スリム化教育を実施しました。

また、平成２２年度以降も継続して交通スリム化教育を実施しており、平成２５年度で２巡目の取組みが終了しました。

秦野市では、『交通スリム化教育』を定着させるため、小学校主体の取組みへの移行を検討してきました。その一環として、平成２２年度からは夏休みの期間中に小学校の担任の先生を対象に有識者の講演、模擬授業などからなる研修会を実施してきました。その結果、学校の先生が一貫して授業を担当できるようになりました。また、本町小学校、鶴巻小学校をモデル校とし、複数年に１回の取組みではなく、通常の授業の中で毎年『交通スリム化教育』を実施するための仕組みづくりを検討しました。

本町小学校では今年度新たにガリバーマップを用いた授業（ガリバーマップを用いた学習、座学、行動プランの作成からなる授業）を試行しました。この授業は、交通エコロジー・モビリティ財団の「モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度」の支援を受けるとともに、筑波大学大学院公共心理研究室（谷口綾子研究室）にガリバーマップの制作、授業支援などの御協力をいただき、実施しました。

（交通スリム化教育の目的）

ア　小学生に交通スリム化教育を実施する目的
- 将来において車だけに頼り過ぎない交通利用意識のきっかけをつくる
- 同居のご家族などにも、車の利用を考えてもらうきっかけとする（波及効果を期待）

イ　地域に根ざした継続的な教育とするための実務面からの目的
- 外部講師主体型から、現場の先生主体型カリキュラムの定着を図る
- 標準教材、副教材を用いた実施の確立を図る

ガリバーマップを用いた学習と座学、行動プランの作成を通して、市内の公共交通機関
て学習し、かしこいクルマの使い方を考える機会とします。

ず、ガリバーマップ上を歩き回りながら秦野市を眺めることで地域の公共交通機関や
など身近なまちについて興味・関心を高揚させます。また、主な施設に移動する際に
る手段別に色ブロックを積み上げ、自らの行動を振り返るとともに、地域の交通問題
て考えます。そして、パワーポイントでクルマの良い点と悪い点について学び、かし
ルマの使い方について考えます。

に行動プラン作成を通して、市内の目的地を移動する際にどのような交通手段があ
知り、ＴＰＯにあわせて交通手段を選ぶことを学びます。最後にもう一度ガリバー
に交通手段別の色ブロックを積み上げることにより、授業で学んだことを踏まえて、
段を選択するということを自分のこととして再認識する機会にします。

ガリバーマップとは
四方の布に市内の道路や公共施設などをプリントしたもの。
上を歩き回ることで、ガリバーになった気分でまちを高いところから眺めることが
（筑波大学公共心理研究室が作成・寄贈）。

授業内容

業構成
日４時限を使った授業をクラスごとに実施します。授業はガリバーマップとパワーポイ
った座学を２時間、行動プランを作成する授業を２時間実施します。

	時間割	授業内容
１時限目	８：45～９：30	ガリバーマップ+座学

②授業内容

ア　ガリバーマップを使った授業と座学

・児童が自由に地図の上を歩き回りながら、人が多く集まる場所を探し、発表します（発表した場所にシールを貼る）。

・人が多く集まる場所にどのような交通手段で移動するか考え、手段ごとに色分けしたブロックを積み重ねます（図①）。

・何色のブロック（どの交通手段）が多いか尋ねます。児童は、なぜみんなクルマ（赤色ブロック）で移動するか考えます。

・児童に「クルマは便利」と「クルマが全てではない」の間で、どのあたりにいるかを考えさせます。（図②）。

・パワーポイントを用いて、クルマに関するお金、健康、環境に関する話をクイズ形式で学びます（図③）。

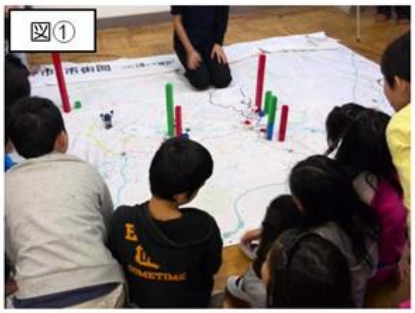
・クイズで学んだことを踏まえて、もう一度「クルマは便利」と「クルマが全てではない」の間で、どのあたりにいるかを考えさせます。（図④）。

・意見を変えた児童、変えなかった児童に理由を聞き講評します。

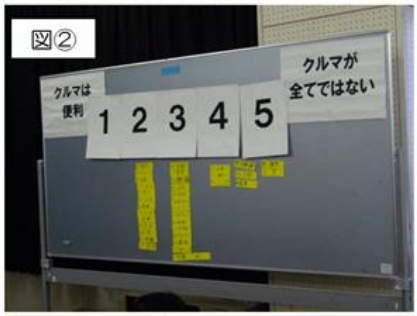
・授業を踏まえ、今日からできることを班で話し合って、発表します（図⑤）。

・今すぐできることとして、パワーポイントを用いて、「今すぐお家でできる『かしこいクルマの使い方』」を学びます。

図①



図②



図③

図④

図⑤

イ　行動プランの作成

- 作成方法は大判の図面等を使用し、担任の先生から説明します（図⑥）。
- 小学校を起点に市内２箇所を移動するプラン（交通手段）を作成します（図⑦⑧）。
- 交通手段の偏りを防いだり、児童に TPO にあわせた移動手段を考えてもらうため、くじ引きを行い、グループごとに移動の条件を決めます（条件の例：おじいちゃん、おばあちゃんや小さな子ども一緒に移動するなど）。
- 個人（もしくは２人１組）で行動プランを作成したら、班で話し合いを行い、各班で良いと思った案を選び発表します（図⑨）。
- もう一度ガリバーマップを広げ、授業で学んだことを踏まえて、もう一度、交通手段を選びます。交通手段を選択するということを自分のこととして再認識する機会になります（図⑩）。
- 最後に担任の先生から講評を行います。

図⑥

図⑦

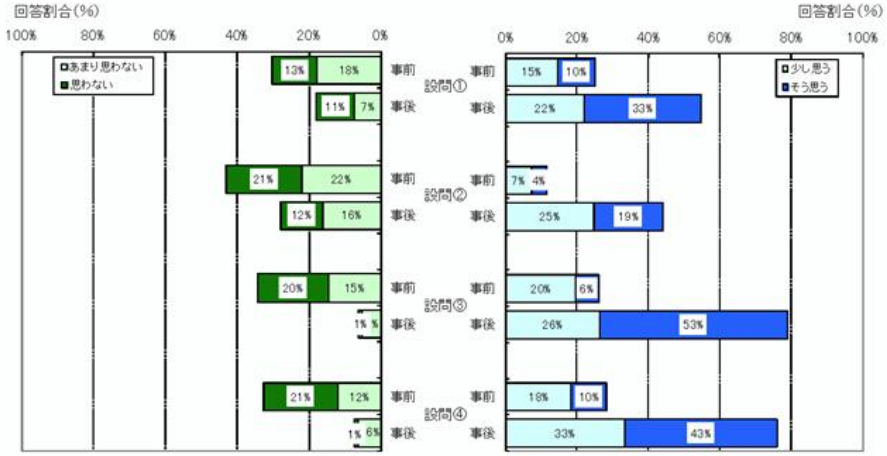
図⑧

図⑨

図⑩

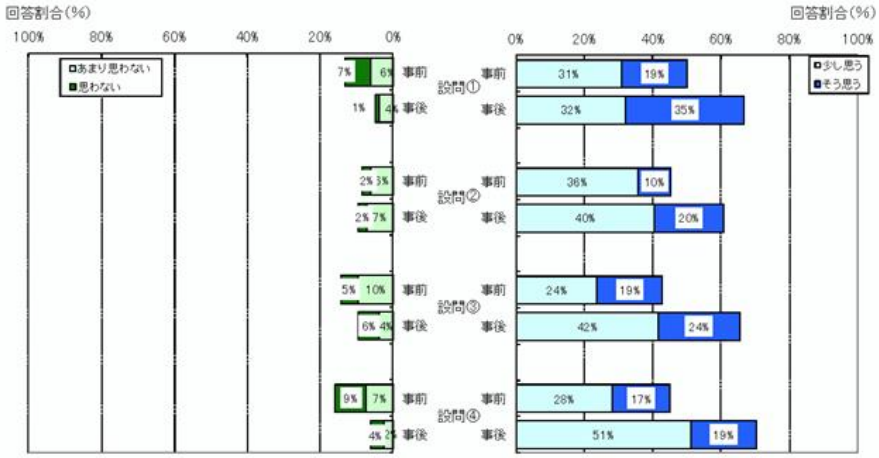
4　授業の効果

児童、保護者に対するアンケート調査の結果、授業の実施により、児童、保護者の公共交通や交通環境に対する意識が向上しました。



① もっと良いまちにするためには、よいバス、鉄道が必要
② まちの環境を良くするためには、バス、鉄道をもっと使うことが必要だ
③ できるだけ、クルマの利用を控えなければならないと思いますか？
④ 「できるだけクルマ利用を控えよう」と思いますか？

図　児童の意識の変化（主要な項目）

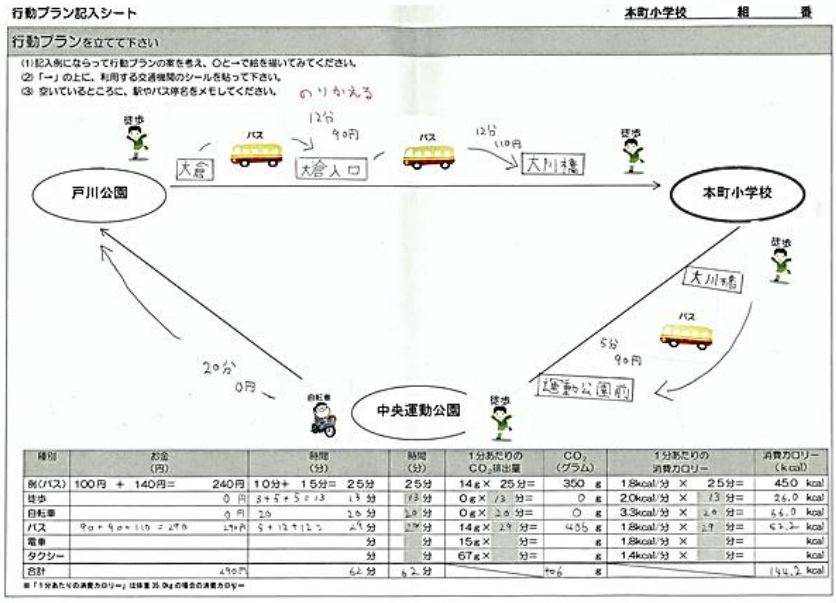


① もっと良いまちにするためには、よいバス、鉄道が必要
② まちの環境を良くするためには、バス、鉄道をもっと使うことが必要だ
③ できるだけ、クルマの利用を控えなければならないと思いますか？
④ 「できるだけクルマ利用を控えよう」と思いますか？

図　保護者の意識の変化（主要な項目）

※保護者に対しては、児童に副読本を配布し、帰宅後に家庭で交通スリム化教育の授業の話をしてもらうようお願いしており、それらの効果として、意識が改善していると想定される。

（参考）　児童が作成した行動プランの例



行動プラン記入シート　　本町小学校　　組　　番

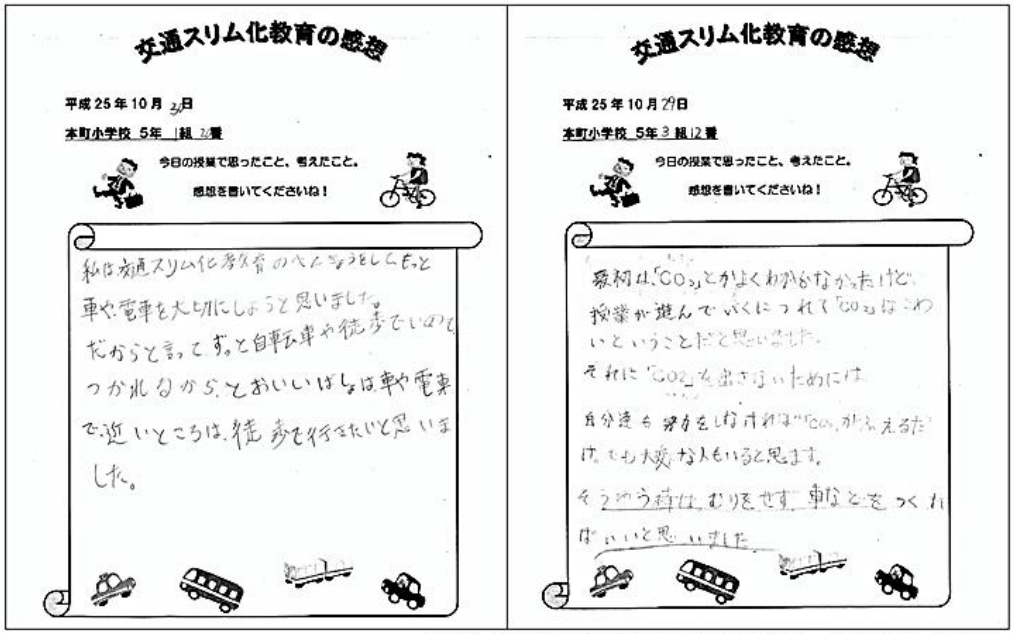
行動プランを立てて下さい

(1)記入例にならって行動プランの家を考え、○と一で絵を描いてみてください。
(2)「→」の上に、利用する交通機関のシールを貼って下さい。
(3)空いているところに、駅やバス停名をメモしてください。

種別	お金（円）	時間（分）	時間（分）	1分あたりの CO_2 排出量	CO_2（グラム）	1分あたりの消費カロリー	消費カロリー（kcal）
例(バス)	100円 ＋ 140円＝ 240円	10分＋ 15分＝ 25分	25分	14g× 25分＝	350 g	1.8kcal/分 × 25分＝	45.0 kcal
徒歩	0 円	3＋5＋5＝13 13 分	13 分	0g× 13 分＝	0 g	2.0kcal/分 × 13 分＝	26.0 kcal
自転車	0 円	20 20 分	20 分	0g× 20 分＝	0 g	3.3kcal/分 × 20 分＝	66.0 kcal
バス	90＋90＋110＝290 290円	5＋12＋12＝ 29 分	29 分	14g× 29 分＝	406 g	1.8kcal/分 × 29 分＝	52.2 kcal
電車		分	分	15g× 分＝	g	1.8kcal/分 × 分＝	kcal
タクシー		分	分	67g× 分＝	g	1.4kcal/分 × 分＝	kcal
合計	290円	62 分	62 分		406 g		144.2 kcal

※「1分あたりの消費カロリー」は体重35.0kgの場合の消費カロリー

（参考）　児童の感想文の例



交通スリム化教育の感想

平成25年10月29日

本町小学校 5年 1組 24番

今日の授業で思ったこと、考えたこと。
感想を書いてくださいね！

私は交通スリム化教育のべんきょうをしてもっと車や電車を大切にしようと思いました。だからと言ってずっと自転車や徒歩でいるとつかれるから、とおいいばしょは車や電車で近いところは、徒歩を行きたいと思いました。

交通スリム化教育の感想

平成25年10月29日

本町小学校 5年 3組 12番

今日の授業で思ったこと、考えたこと。
感想を書いてくださいね！

最初は「CO_2」とかよくわかんなかったけど、授業が進んでいくにつれて「CO_2」はこわいということだと思いました。
それに「CO_2」を出さないためには自分達も努力をしなければ「CO_2」がふえるだけでも大変なんもいると思います。
そういう時は、むりをせず車などをつくればいいと思いました。

発行　秦野市都市部公共交通推進課　平成26年2月

(3) 新たな教材の作成

前述のように，学識者からご紹介いただいた様々な事例を参考にして，新たなモデル授業の開発について学校 MM 検討会で協議した。

その中で，「歩くまち・京都」と連携可能な教科として，中学年の「京都市内の地域を知る」社会科の単元において，ガリバーマップの活用が有効であると考えられた。そこで，今年度はモデル授業のバリエーションの一つとして，ガリバーマップを作成した。

・範囲：京都市中心部
（東：嵐電嵐山駅，西：名神京都東 IC，南：京阪淀駅，北：岩倉駅）
・サイズ：本間（京間）６畳：２８６センチ×３８２センチ

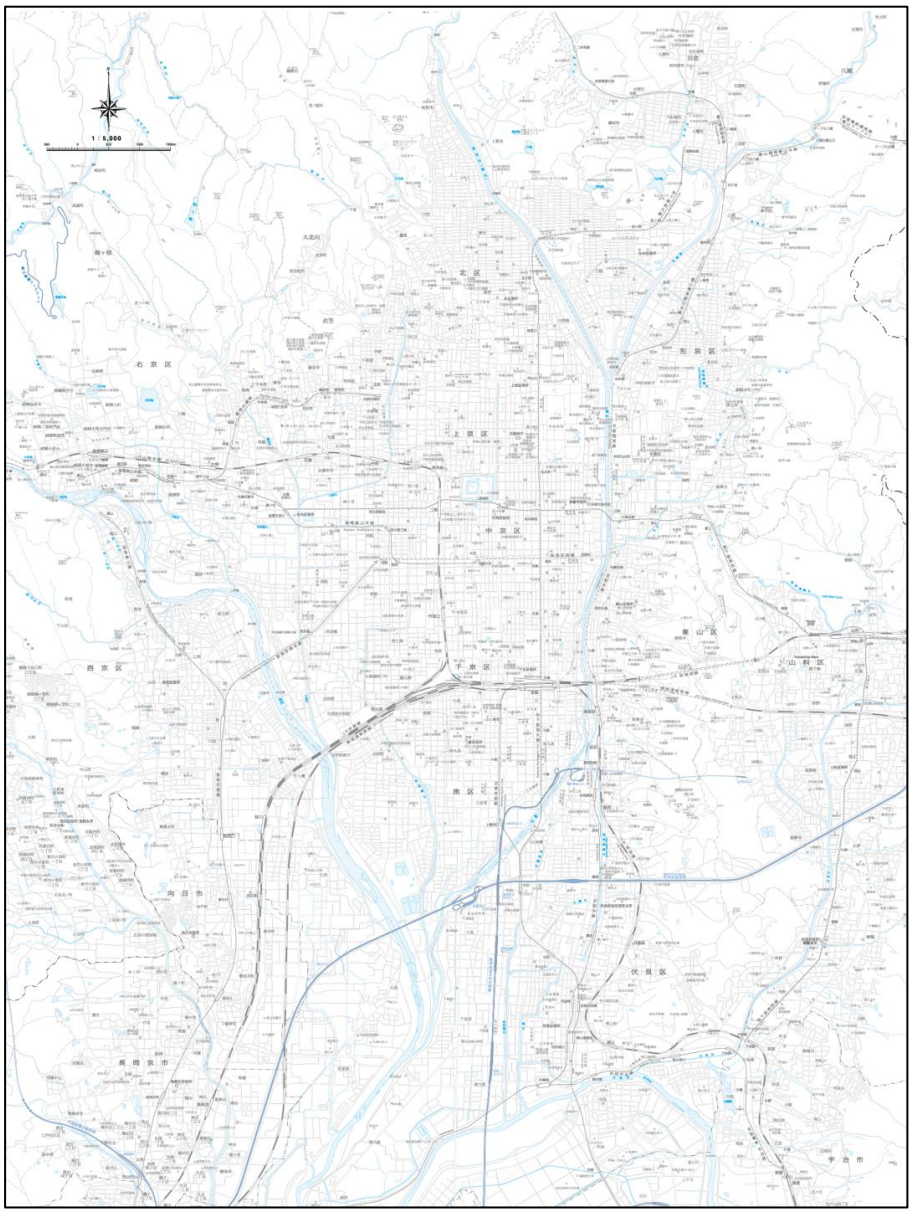


図 3-１３　ガリバーマップ

４．教員による研究会との連携方策の検討

本章では，京都市の教員による研究会と，京都市学校MMの連携方策を検討した。

(1)　過年度の取り組み

京都市では学校教員により多数の研究会が組織されており，学習指導方法等を研究されている。

京都市における学校MM検討会では，平成 24 年度の設立以来，環境教育研究会と連携し，学校MM検討会のメンバーとして，環境教育研究会の教員が２名参加いただいた。当該教員には，平成 24 年度～平成 26 年度の３箇年にわたってモデル授業を考案・実施いただいた。

この実績を踏まえて，学校MM検討会の水山光春座長と，環境教育研究会の西田均会長とが，今後の展開について協議したものの，環境教育研究会から積極的な意見は得られなかった。この摘録を以下に掲載する。

１　日　時　　平成 27 年 2 月 23 日（月）午後 2 時 00 分～午後 3 時 00 分
２　場　所　　山階南小学校　校長室
３　協議者　　山階南小学校長　西田均（環境教育研究会会長）
　　水山光春教授，京都市歩くまち京都推進室（吉村係長，谷垣）

【吉村より学校MMの取組について説明】

（水山教授）

○学校MM検討会で作成したＤＶＤについて，今年度も昨年度と同様に全校に配布し，アンケートをお願いしたいと考えている。ただ配布するだけでは先生方の関心は小さいと思っており，環境研会長である西田校長からの御助力を願いたい。

○校長会で，ＤＶＤ及びアンケートの紹介をしていただくことは可能か。

（西田校長）

○　昨年度，アンケートを回答した。今年度も当校に届いたらアンケートには回答したい。ただ校長会で，一校長がそのような依頼はできない。

○環境研のメンバー（籍だけがある方も含めて，約３０名）に対してなら，アンケートへの協力をお願いすることはできる。

○MMの授業は授業参観で拝見したが，小学校によって市バスが使えない地域もあるので，MMの授業を工夫する必要があると思う。

（水山教授）

○地域性については，おっしゃるとおりである。そのため，今年度，指導案を増やした。今後も様々な指導案のバージョンを作っていきたいと考えており，作る過程における教員の方々の意見をお聞きしたいと思っている。

○多くの小学校・先生方にＤＶＤを見ていただきたいと考えており，各小学校への依頼文等で，西田校長の名前を連名で記載させていただくことは可能か。

（西田校長）

○環境研としては環境教育スタンダードの実践が第一であると考えており，環境研の仲間である岡本・飯野教諭の取組は応援するが，（依頼文に名前を記載するなど，）自分がそこまでMMに立ち入るつもりはない。

○先週末，環境研の打ち合わせで岡本・飯野教諭と話をしたが，学校MMについて負担に思っているようなことを漏らしていた。もともと３年で終わると聞いていたが。

（水山教授）

○確かに３年計画であったが，もう少しメニューを増やせるのではないかと考えており，取組を継続していきたいと考えている。

○また，MMは環境教育のメニューの一つとして取り扱ってもらえたら幸いである。

（吉村係長）

○３年間取り組んだ成果として，ＤＶＤを市内の全小学校に配布するが，配布しただけでMMを授業として取り上げてもらえるかはわからない。MMの取組をもっと広げ，定着させたいと考えている。

（水山教授）

○まずは，環境研のメンバーにアンケートに協力いただけるよう，西田校長にも御協力いただきたい。

（西田校長）

○小学校の教諭はかなり多忙であり，今実施している取組を止めて，新しい取組を実施するだけの余裕はない。ＤＶＤ等の配布物も多くあるが，目を通さないことも多い。

○環境研メンバーへのアンケート協力依頼については，メール等で発信することは約束する。

○岡本・飯野教諭が協力する限り応援はするが，MMの取組に対して，（依頼文の連名など,）環境研の名称を前面に出すようなことはできない。

（水山教授）

○MMについては環境研のメニューの一つとお考えいただき，無理のない範囲で御検討いただきたい。

(2) 京都市教育教育委員会との協議

学校MM検討会の水山光春座長と，島本由紀学校教育課長が，平成 27 年度以降の京都市学校MMの今後の展開について協議した結果, 連携して進めることが望ましいとの結論となった。この摘録を以下に掲載する。

1　日　付　　平成 27 年 7 月 3 日（金）

2　協議者　　京都市教育委員会 島本由紀学校教育課長　水山光春教授

○水山教授より「歩くまち京都・学習」プロジェクトを説明。

○この結果,「断る理由は何もない。むしろ断った時のデメリットの方がはるかに大きい」という島本課長の強い賛同を得た。

○具体的な進め方としては，社会科研究会と環境教育研究会の担当指導主事を通じて研究会長に働きかけて，学校MM検討会に参画する教員を推薦してもらうこととなった。

○小学校４年生社会科の副読本『私たちの京都』に『京都の交通とまちづくり』というような別冊を附けられると，より発展が期待できるのではないかという今後の可能性が示唆された。

京都市の学校MM担当者と，島本由紀学校教育課長らが，平成 27 年度以降の京都市

学校MMの今後の展開について協議した結果，社会科研究会と連携することが望ましいとの結論となった。この摘録を以下に掲載する。

1　日　付　　平成 27 年 7 月 7 日（火）

2　協議者　　京都市教育委員会 島本由紀学校教育課長，渡邉太志学校指導課首席指導主事

京都市歩くまち京都推進室（植田課長，吉村係長）

○京都市教育委員会として，学校MMに協力できる教員を探す。

○授業内容としては社会科研究会が一番ふさわしいため，社会科研究会の教員を中心に探す。

○「歩くまち・京都」学習実践校については，まずは校長会で依頼する。応募がない場合は個別相談していって決めていくのが望ましい。

○今後，教員の選定，日程等について連絡調整を行う。

(3)　今年度の取り組み

前述の結果を踏まえて，社会科研究会から２名の教員の推薦を受け，京都市学校MM検討会に参画いただき，モデル授業の実施にあたっても，支援いただいた。（２章，３章および７章参照）

また「歩くまち・京都」学習実践校を募集し，４校の応募があり，３校を選定した。（５章参照）

５．平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定

小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのＤＶＤ等の配布物も多くあるため，過年度実施したＤＶＤの全校配布だけではMMを授業として取り上げてもらうことは難しいというのが現実である。そこで，新たな試みとして，賛同いただける教員を増やしていくとともに，学校単位で取り組んでいただけるよう，教育委員会と連携しながら，「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定を実施した。

なお選定された実践校には，平成２８年度以降にＤＶＤを活用したモデル授業の実施とともに，研究の成果として，学習指導案や参考資料，授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出するものとする。

募集の際の実施要領は以下のとおりである。

(1)　趣旨

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する（２８年度，２９年度の２ヵ年で実施）。

(2)　実施内容

- 学習実践校は，実施申請書等を作成し，それに基づいて研究・実践を深める。なお，学習活動においては，「歩くまち・京都」の理念・施策内容の知識の習得を目指す。
- 学習実践校は，２学年以上で年１回以上の公開授業を実施する。研究の成果として，学習指導案や参考資料，授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出する。また，学習指導案については，当学校のホームページでの発信のほか，京都市等のホームページにおいて，その研究成果を広く発信するよう努める。
- 学習実践の実施期間は１年とする（２年目も申請可能）。

(3)　学習実施校の選定及び経費配分

- 各学校が提出した実施申請書及び予算計画書を勘案した上で，京都市都市計画局歩くまち京都推進室が学習実践校を選定する。
- 歩くまち京都推進室は，各学校が提出した実施計画書等をもと，１校当たり 20 万円（3 校）を支給する。支払方法については，別途相談に応じる。

(4)　実施スケジュール

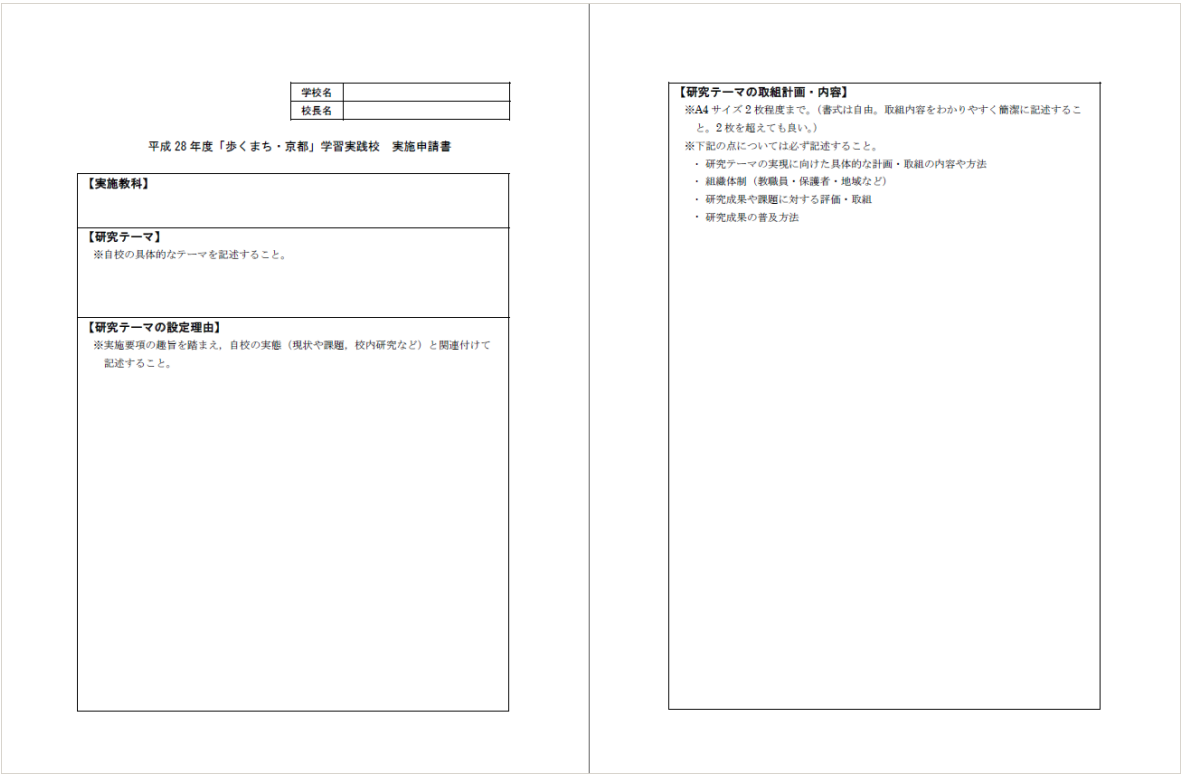
実施スケジュールは，以下のとおりである。

表　5-１４　実施スケジュール

時期	実施内容
平成２７年 ８月～１月	・　市内の小学校の総合学習の実施テーマの把握 ・　学校 MM 検討会の委員や教育委員会と連携し,「歩くまち･京都」学習実践校の募集要項等について協議・検討
平成２８年 １月１５日（金）	・　平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集開始
２月１９日（金）	・　平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集締切
３月４日（金）	・　平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校の決定通知
随時	・　実践校による公開授業実施
平成２９年 ３月中旬	・　実践校による学習指導案等の提出（予定）

(5)　提出書類

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書
平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書



学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

【研究テーマ】
※自校の具体的なテーマを記述すること。

【研究テーマの設定理由】
※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

【研究テーマの取組計画・内容】
※A4 サイズ２枚程度まで。（書式は自由。取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること。２枚を超えても良い。）
※下記の点については必ず記述すること。
・研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法
・組織体制（教職員・保護者・地域など）
・研究成果や課題に対する評価・取組
・研究成果の普及方法

図　5-１５　実施申請書

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				0

図　5-１６　予算計画書

(6)　提出期限

平成 28 年 2 月 19 日（金）【必着】

(7)　提出方法

以下の担当宛にメールにて提出

京都市都市計画局歩くまち京都推進室

担当：吉村（yosce973@city.kyoto.lg.jp），瀧（taqbb178@city.kyoto.lg.jp）

(8) 選定結果

京都市内の全小学校長が集まる会議で学習実践校の募集を行ったところ，４校から応募があった。その中から教育委員会との協議と書類審査等を経て，以下の３校を選定した。

表 5-17 平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校

学校名	実施教科	研究テーマ
京都市立 岩倉北小学校	社会科 総合的な学習の時間	「わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども」 ～京都市の地理，歴史，清治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～
京都市立 高倉小学校	総合的な学習「たかくら学習」・特別活動（安全教育）	豊かに学び，表現し，高め合う子をめざして ～共にめざす　住みやすいまちにするために～
京都市立 南太秦小学校	６年生社会科・総合的な学習（教科領域横断） ４・５年生総合的な学習の時間	「歩くまち・京都」の視点からふるさとを見つめ，自身のくらしを見直し，公共の精神に立って判断・行動する子の育成

また，各校が応募の際に提出した書類は以下のとおりである。

(ｱ) 京都市立岩倉北小学校

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

社会科　　総合的な学習の時間

【「歩くまち・京都」学習　研究テーマ】
「わたしたちの京都市のまちづくりを主体的に調べ考える子ども」
～京都市の地理，歴史，政治，伝統文化，人々のくらしの教材化の工夫～

【校内研究テーマ】

「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」

【国語科】～言語能力を育む教材開発・単元構成・学習展開の工夫～

【社会科】～社会的な見方や考え方を育む教材開発・単元構成・学習展開の工夫～

国語科・社会科を中心に研究を進めている教材開発・単元構成・学習展開の在り方を他教科の教育課程や指導方法に広げることにより，論理的思考やそれらを表現する力を学校全体で育む。

「歩くまち・京都」学習では，校内研究のテーマである子どもの技能や能力の向上に加え，望ましい社会の実現を目指そうとする子どもを育てるための教材開発の研究を進めていく。

【研究テーマの設定理由】

本校では，「自分のおもいや考えを表現し，磨き合い，育む子ども」を研究主題に，国語科・社会科を通して校内研究を７年間進めてきており，教師の授業力や児童の思考・判断・表現力の充実を図ってきている。その一方で，児童が培った力を的確に見取ったり，国語科・社会科以外の他教科に指導法を波及させたりする方策については，学校全体で十分に共有されていない。そこで来年度の校内研究では，社会の中で活用することができる論理的思考やそれらを表現する力の育成を，国語科・社会科のみならず，教育活動全体で意図的に取り組むことにより，刻々と変化する社会情勢にも通用する力を学校全体で育みたいと考えている。

選挙権は１８歳までに引き下げられた。子どもたちに身に付けさせたい力は，論理的な思考やそれらを表現する力といった技能・能力に加え，その力を発揮させる方向性，つまり「公共的な精神」を学校教育の中で育んでいくことがますます重要となってきている。そこで，社会科や総合的な学習の時間においては，教材を通して望ましい社会の実現を目指す主体者としての意識（＝公共的な精神）を高めていきたいと考えている。

「歩くまち・京都」の実践では，まずは３年生から６年生までの発達段階に応じた様々な角度から「京都のまち」の姿を深くとらえていく。そういった土台の上で，「歩くまち・京都」を題材に，これからのまちづくりのあり方について考える学習を展開したい。

４年間で学習したことを通して，京都に住んでいる住人として，あるいはこれからのまちをつくっていく主体者として，より良い京都のまちづくりへの持論を論じることができるような児童の姿を目指し，研究を推進する。

【研究テーマの取組計画・内容】

○研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

研究の計画

◆研究の方向についての提案と共通理解（４月）

・「歩くまち・京都」憲章について

・目標設定の共通理解

・教材開発の視点について

・単元構成の在り方について

・授業展開の在り方について

・目標実現状況の評価の在り方について

◆研究計画と研究仮説の構築（４月）

◆校内研究授業（５月～２月）

◆研究発表会の実施（12 月）

研究発表会で研究の成果を問い，改善点を授業実践を通して修正する。

◆国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開（未定）

◆研究の整理（１月）

・研究発表会で明らかになった課題をどのように克服するかについて

◆研究の総括（成果と課題）（３月）

教材について

◆社会科の単元との関連について

【社会科（総合）の関連可能単元】

例）３年　「京都市のまちの様子」

４年　「きょう土をひらく」

５年　「社会を変える情報」

「環境を守るわたしたち」

６年　「日本の歴史」

「わたしたちの生活と政治」

４年～６年　ジュニア京都検定

◆本研究で進めようとしている教材化の事例

・社会科の発展教材として

・総合的な学習の時間での単元として

3年

・地理的条件をいかして人々がくらしている様子を調べ理解する。

・京都のまちの伝統（古くから受け継がれてきたもの）について調べ理解する。

4年

・京都のまちづくりの発展に尽くした先人のはらたらきについて調べ理解する。

5年

・日本の中の京都市の交通・地理的条件を含む特色・役割について調べ理解する。

・京都市の環境保全の取組について調べ理解する。

6年

・京都市の歴史について調べ理解する。

・文化観光都市京都について調べ理解する。

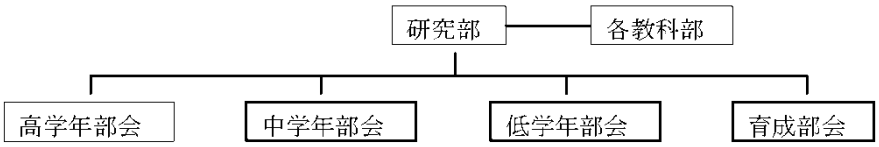
・京都のまちづくりと行政・市民のはたらきについて調べ理解する。

・これからの京都市のまちづくりについて考える。（歩くまち・京都憲章）

○組織体制

・研究部は，校長・教頭・教務主任・研究主任及び各学年１名の研究委員で構成する。

・教育関係者を指導助言者として招くなどして研究の幅を広げ充実を図る。



○研究成果や課題に対する評価・取組

・校内研究授業や研究発表会等の公開授業において参観者が研究の成果を評価する。（事後研修会やアンケート等）

・児童のノート記述を単元の最初と最後で比較することで，社会的な見方や考え方の変容を評価する。

○研究成果の普及方法

・研究発表会の授業公開と校内研究授業の冊子での公表

・国立教育研究所教育課程研究指定校事業の授業公開

表 5-18　実施申請書

学校名	京都市立岩倉北小学校
校長名	久保田　耕司

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
資料の印刷	カラー印刷インク（4色）	12,528	4	50,112
資料・指導案の印刷	マスター・インク	19,114	4	76,456
資料の印刷	A3 コピー用紙	3,669	8	29,352
	拡大コピー用紙	6,156	4	24,624
	A4 コピー用紙	2,082	8	16,656
教材提示用磁石	磁石	2,800	1	2,800
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

表 5-19　予算計画書

(イ) 京都市立高倉小学校

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

総合的な学習「たかくら学習」・特別活動（安全教育）

【研究テーマ】

豊かに学び、表現し、高め合う子をめざして

～共にめざす　住みやすいまちにするために～

【研究テーマの設定理由】

本校は、校区を東は鴨川・西は堀川通り・北は御池通り・南は四条通りと京都の中心部の市街地がすべて含まれるという立地条件にある。子どもたちは、その地域の中日常生活を行っている。登下校を含む通学路の安全については、これまでも学校はもとよりＰＴＡや地域や行政が一体となり、安全な安心な通りの復権として取り組んできた経緯がある。学校では、子どもたちに、これまで以上に自分たちも道を歩く主体者であり、まちづくりの主体者であるという意識を持たせつつ、自分たちに何ができるのか、自分たちから何が発信できるのかを考えるスタートラインにようやく乗せるせることができるようになってきている。

自分たちが積極的にまちづくりに参加していくための具体の活動として、この市街地の現状をよく知り、問題意識を持ち、そこから回りの人々共に考え、伝えていくということを学ぶことにより、人任せにするのではなく、「自分に何ができるのか」「回りの人々と何を協力すればよいのか」を理解し、将来自分が大人になったときにも自ら積極的に、地域をよりよくしようと関わることにつながるのではないかと考える。

このことは京都が大切にしてきた「まちづくりは人づくりから」の理念そのものである。

また、本校は７つの学区を含む５つの学校が統合してできた学校である、その特長として、多くの地域の人々が学校教育にも参画していただく組織として学校運営協議会「スマイル２１プラン委員会」の存在がある。子どもたちの教育には惜しみなく協力していただく基盤と、子どもたちがいつもそばに地域の方と学ぶ環境がある土壌がすでにできあがっている。この強みを生かして、本テーマにもとづき、さらなる充実した取組を推進することができるのではないかと思う。

【研究テーマの取組計画・内容】（※は研究組織と関連）

１．　安心して歩ける街にするために（全校・６年）

（１）交通安全教育の充実（５月・７月・１２月重点指導）

学校・ＰＴＡ・地域が一体となって、取り組んでいる交通安全教育をさらに充実させる。通学路安全マップの作成および独自教材「安全な登下校路にするために」（通学路体感ＤＶＤ）をもとにした発達に即した交通安全指導の具体的な指導案に基づく効果的な実践授業のまとめと指導の改善を行う。（※①）

（２）歩行者優先の安全な道にするための子どもからの提言

区役所との連携で行う交通問題プロジェクトミーティングにおいて、子ども目線の意見も取り上げていただき、子どもたちが主体となって提言できることを発信していく。（標語・チラシ・ポスターなど※②）

２．　みんなが歩いて楽しい街にするために（３年）

（１）みどころ満載　歩いて楽しい高倉タウンマップづくり

地域の名所・達人などを探索し、インタビュー活動など行い、地域を知る活動から、他の人に高倉校区を知ってもらうためのタウンマップを作成する。（※③）

（２）親子で歩こう楽しい街

子どもたちが調べたポイントをコースに分かれて、ＰＴＡや学校運営協議会・ボランティアとも連携して、啓発を兼ねて親子土曜教室で街歩きの機会を設ける。（※④）

３．　人と環境にやさしい街にするために（４年）

（１）健やかウオーキングルート

３年生での学習を生かして、散歩ウオーキングコースを考える。実際の距離や歩数や道路で子どもやお年寄りに心配な場所はないか、福祉の面からもルートをチェックして、おすすめコースを開発し、ポスター発表を行う。（※⑤）

（２）マイエコ日誌をつけよう

できるだけ、自動車や自転車を使わずに歩くことを意識づけるための、日誌をつけて自分の生活を見直す機会をつくる。家庭とも協力して、できることからはじめるきっかけを見つける。（※⑤）

４．　もしものときに備えよう　（５年）

（１）もしもの目線で街歩きをしよう

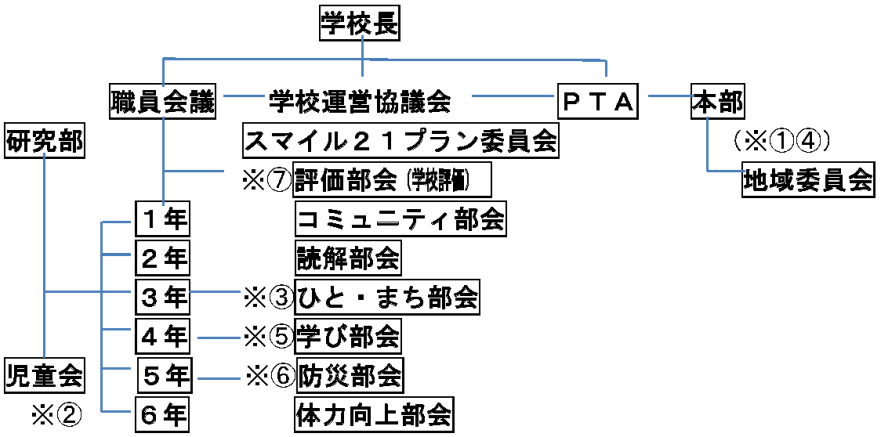
防災の視点で、建物や防災機能を確かめる。地域の自主防災とも連携し、もしものときの避難ルートの確認や避難場所を確かめる。（※⑥）

（２）スマイル高倉防災

学校運営協議会スマイル２１プラン委員会の防災部会が主体となって、高倉校区の防災プランに着手している。モデルになれば市全体にも発信したい。（※⑥）

（※は研究内容と関連）

【研究組織・体制】



【研究成果や課題に対する評価・取組】

上記の研究の取組については、各学年の指導時期があるので、研究授業の機会を設け、適宜公開授業とする。成果物については年度末までにまとめて、学校だよりやWeb上で公開し、閲覧可能なようにする。年間２回の学校評価アンケートの際に関連の項目を設定し（※⑦）、また、外部の学識経験者などを招聘し、取組の評価を改善に生かす。

【研究の普及方法について】

本事業で子どもたちが取り組んだ学習の成果は、成果物としてまとめて研究冊子あるいは、Ｗｅｂ上での発表により発信できるようにしたい。本校の取組の特徴は、前述にもあるように、学校のみならず地域やＰＴＡ組織も巻き込んだ京都のコミュニティスクールならではの研究体制がとれることである。このことは、本市であれば全小学校がコミュニティスクールとして立ち上げられていることから、地域ぐるみの取組として推進するモデルとなるであろう。また、全国的にも京都ならではの地域ぐるみの取組として発信することができると考えている。

表 5-２０　実施申請書

学校名	京都市立高倉小学校
校長名	岸田　蘭子

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
校内研修 講師謝礼	山田忠史（京都大学）	5000	6	30,000
大型ポスタープリンター用紙	エプソン	16,000	2	32,000
資料作成用　ＤＶＤ	DVD-R 120 分５０枚	2,000	4	8,000
資料作成用　SD カード	８ＧＢ　Panasonic	2,000	10	20,000
資料作成用　ＰＰＣ用紙	Ａ４マルチコピー１箱	2,500	20	50,000
成果物 冊子　印刷費		500	1000	50,000
フィールドワーク用万歩計		100	100	10,000
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

表 5-２１　予算計画書

(ｳ) 京都市立南太秦小学校

学校名	京都市立南太秦小学校
校長名	清水　淳一

平成２８年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

○　６年生　社会科・総合的な学習（教科領域横断）

『守れ地域の足～市バス７０系統～』

○　４・５年生　総合的な学習の時間

『川と共に』『てくてく南太秦』

【研究テーマ】

「歩くまち・京都」の視点からふるさとを見つめ，自身のくらしを見直し，公共の精神に立って判断・行動する子の育成

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

軽薄短小の時代と呼ばれ久しいが，今やその流れは加速し，“ファスト（FAST）”が社会生活の中でもてはやされている。しかし，その中で見失われるもの，切り捨てられるものも数多い。本校では，上記学習を通して，子どもたちに『歩けば見えてくるまちのよさ・人のつながり』に気付かせ，“ファスト（FAST）”と“スロー（SLOW）”の共存社会の担い手となる素地を育成し，京都の未来に明るい展望のもてる子を育てたいと考える。

南太秦地域は，早くより「エコ学区宣言」をし，平成２７年は最優秀実践学区として表彰を受けた。ここでは，他に先駆けた環境配慮の数多くの取組が評価されたが，中でも学区を挙げて活動されてきた「市バス７０系統」を守り育てるモビリティ・マネジメントの運動が賞賛を得ている。主要交通網へのアクセスが不便で，陸の孤島となりかねない南太秦が，地元主導で民・官・財を巻き込んだMM運動を展開し，開通当初は６０分１本であった弱小路線を１０年経ずに黒字転換・３０分１本にまで育てたことは社会全体のモデルともなり得る事例である。本校では，この「市バス７０系統」を，６年生の社会科で「政治の仕組み」「公共の在り方」を学習する際の教材として開発し，総合的な学習の時間との教科領域横断単元として町づくりやコミュニティづくりについての探究的な学習を行う。公共交通の利用促進は，自家用車の利用を抑制し，歩くまちの推進にもつながっていく。

また，南太秦地域は平成２４年に，近隣の太秦学区・嵯峨野学区と協同で「てくてく太秦」マップを完成された。ここには，歩いて発見する地域の良さが写真と地図，記事で分かりやすく語られている。他学区では，マップ完成がゴールであった。しかし，南太秦地域は続く平成２５年度・２６年度も「てくてく南太秦」として，地域住民の参加を募り歩く会を開催され続け，今後も各種団体の協力を得て継続の方針を示されている。本校でも，平成２５年からこの優れたマップを活用し，「地域ラリー」やフィールドワークの実施，「地域の見どころ」のＣＭ化，記事内容の検証などを行ってきた。今後も，４年生・５年生の総合的な学習の中では，地域に暮らしていても気付かないこと，車や自転車では通り過ぎてしまう魅力がたくさんあることを発見し，歩くまちの趣旨につながる探究的な学習に取り組む。

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ２枚程度まで。（書式は自由。取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること。２枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

- 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法
- 組織体制（教職員・保護者・地域など）
- 研究成果や課題に対する評価・取組
- 研究成果の普及方法

１　授業実践の内容

○　６年生　社会科・総合的な学習（教科領域横断）

『守れ地域の足～市バス７０系統～』

- 市バス７０系統に関する各種統計資料や広報物をもとに，その歩みに関する学習問題を設定し，探究した内容をセッション形式で発表する。
- 講師を招いてMMに関する理解を深めたり，地元住民や市バス関係者等からの聞き取り調査を行ったりして，今後の公共交通の在り方について考え，まとめ，発表する。
- 学習成果を実践に移すため，市バス７０系統を利用したラリーを実施し，その利便性や生活との密着度を検証する。

○　５年生　総合的な学習の時間

『てくてく南太秦』

- 「てくてく南太秦」マップをもとに，太秦一円のフィールドワークを行い，紹介されている町の魅力を検証，「歩いてきてください。ゆっくり立ち止まって見てください」をテーマに紹介映像（ＣＭ）を作成する。

○　４年生　総合的な学習の時間

『川と共に』

・　「てくてく南太秦」マップをもとに西高瀬川・有栖川沿いのフィールドワークを行い，川とまちの関わりや人のくらしに関する学習問題の解決に向かう。

・　西高瀬川の起源に関心をもち，京都の町づくりに貢献した角倉了以に会いに行く計画を立て，徒歩や嵐電を使って目的を達成する。

２　研究体制

・　総合的な学習主任，地域教育主任を中心に３～４名の「歩くまちプロジェクト」を立ち上げる。

（４月）年間指導計画の作成

（７月）５年生公開授業

（１０月）６年生公開授業

（１月）総括会議

・　授業実践は４年部・５年部・６年部。１～３年担任，フリー教員は各部に分かれて支援に当たる。育成学級担任は，交流学年がある場合はそこに協力，該当しない場合はフリー教員相当の動きをする。

・　外部との交渉は，教頭・教務主任を中心に行う。学校運営協議会の協力を得て，外部人材の確保に当たる。

３　研究成果や課題に対する評価・取組

・　公開授業に学校運営協議会理事を招き，外部評価を得る。

・　学校評価の際の「児童ふり返りシート」に当該学習に当事者評価ができるようにし，考察の上，取組に反映させる。

・　学習指導案や参考資料，ワークシート，児童のふり返り等を冊子にし，提供できるようにする。

４　研究成果の普及方法

・　５・６年生で公開授業を実施し，児童の学びを参観していただける機会とする。

・　本校ホームページに「歩くまち・京都」のカテゴリを設け，随時取組の様子を発信していく。

表　5-２２　実施申請書

学校名	京都市立南太秦小学校
校長名	清水　淳一

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
児童フィールドワーク費用	市バス１日乗車券	250	71	17,750
研究資料集作成	帳合・製本代	200	100	20,000
セッション・プレゼン	ワールドクラフト ハンディホワイトボード	15,000	6	90,000
企画会議用・プレゼン	コクヨフリップチャート	44,393	1	44,393
児童向け講演謝金	講師未定２名	10,000	2	20,000
児童ワークショップ	模造紙	2,500	1	2,500
〃	ポストイット	2,757	1	2,757
映像集作成	ＣＤ－Ｒ１００枚組	2,600	1	2,600
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				200,000

表 5-２３　予算計画書

6.「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策の検討

モビリティ・マネジメント教育を継続実施するための拠点として,「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策を検討した。

「歩くまち・京都」公共交通センターの概要は，以下のとおりである。

1.施設の名称　「歩くまち・京都」公共交通センター

2.運営団体　特定非営利活動法人「歩くまち・京都」フォーラム
特定非営利活動法人「歩くまち・京都」フォーラムとは、京都市が進める人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の理念や政策に賛同し、その実現に向けた取組を力強く推進するための「共汗」組織として、交通事業者、学識経験者と京都市が連携して、平成 24 年 11 月に設立した。

3.開所日　平成 24 年 7 月 14 日（土）

4.開所時間　午前 9 時～午後 4 時（年中無休　※1 月 1 日～3 日を除く）

5.主な業務　■センターの窓口において、市民や観光客のニーズに応じて、鉄道・バスを上手に組み合わせて効率的に移動できるルート等の情報を分かりやすく提供する。
■モビリティ・マネジメントをはじめ、公共交通の利用促進に資する事業を展開する。

連携方策としては,「歩くまち・京都」公共交通センターが作成・運営しているホームページにおいて，過年度作成したＤＶＤの内容をダウンロードできるようにしたり，モデル授業の実施結果を参照可能としたりする方策について検討した。

また，モデル授業に活用可能な新たな教材として，作成した「ガリバーマップ」を管理し，希望する学校に貸与する方策について検討した。しかしながら，これまで案内等を実施していたセンター職員を廃止し，今後は専属職員を配置しない方針となった。このため，連絡・調整機能については,「歩くまち・京都」公共交通センター以外での継続実施体制を検討する必要が明らかとなった。

7．資料作成

学校 MM 検討会を円滑に進めるため，資料や議事録等を作成する。

(1)　第１回検討会

第１回検討会で配布した資料と当日議事録は以下のとおりである。

①議事次第 ……79

②委員名簿 ……80

③出席者名簿 ……81

④平成２７年度学校 MM 検討会の取組 ……82

⑤教材事例 ……87

⑥平成２６年度　第３回学校 MM 検討会摘録 ……122

⑦第１回学校 MM 検討会摘録 ……125

平成 27 年度　第 1 回学校 MM 検討会

日時：平成 27 年 8 月 20 日（木）16 時 30 分～
場所：京都市役所北庁舎 2 階　都市計画局会議室（西）

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   平成 27 年度の取組について
3. 閉会

[配布資料]

委員名簿、出席者名簿

資料－1　京都市におけるモビリティ・マネジメント教育～平成 27 年の取組～

資料－2　教材紹介

平成27年度　学校MM検討会 委員名簿

所　属			
京都教育大学	教授	水山　光春	座長
京都大学大学院	教授	藤井　聡	副座長
愛媛大学大学院	教授	松村　暢彦	アドバイザー
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	渡邉　太志	
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	林　正和	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧　紀彦	
京都市立伏見板橋小学校	教諭	笹岡　法道	
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵　心理	

オブザーバー		
京都大学大学院	准教授	神田　佑亮
京都大学大学院	助教	宮川　愛由

事務局		
京都市都市計画局	歩くまち京都推進室担当課長	植田　公一
	歩くまち京都推進室担当課長補佐	吉村　仁志
	歩くまち京都推進室	瀧　明日香
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部長	加藤　信次
	交通環境対策部交通環境企画課担当課長	岡本　英晃

平成27年度 第一回 学校MM検討会 出席者名簿

所　属			
京都教育大学	教授	水山　光春	座長
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	渡邉　太志	
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	林　正和	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧　紀彦	
京都市立伏見板橋小学校	教諭	笹岡　法道	
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵　心理	
オブザーバー			
京都大学大学院	助教	宮川　愛由	
事務局			
京都市都市計画局	歩くまち京都推進室担当課長	植田　公一	
	歩くまち京都推進室担当課長補佐	吉村　仁志	
	歩くまち京都推進室	田辺　明日香	
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部長	加藤　信次	
	交通環境対策部交通環境企画課担当課長	岡本　英晃	

京都市におけるモビリティ・マネジメント教育
～平成 27 年の取組～

（1） 目的および概要

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現を目指すため，平成 22 年 1 月に，「歩くまち・京都」総合交通戦略（以下，「戦略」という）を策定するとともに，「歩くまち・京都」憲章を制定した。戦略では，「既存公共交通」の取組，「まちづくり」の取組，「ライフスタイル」の取組の3つの柱の相乗効果により，「歩くまち・京都」の実現を目指している。

このうち，「ライフスタイル」の取組では「スローライフ京都」大作戦(プロジェクト)として，市民の意識と行動に直接働きかけ，過度なクルマ利用を控え，歩くこと，公共交通等を利用することへの転換を促す取組であるコミュニケーション施策（モビリティ・マネジメント）（以下「MM」という。）を推進している。

平成 24 年度から学識者，教育委員会，教員から構成される検討会を設置し，教育現場のニーズを把握しながら，小学校低学年，中学年，高学年向けの学習指導案を作成し，各学年のモデル授業を実施した成果を取りまとめて，教員がモビリティ・マネジメント教育を実施する際に参考となるDVDを作成して平成 26 年度に京都市内小学校全校（176 校）に配布した。目下，その効果と影響について点検・考察中である。

しかしながら，小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのDVD等の配布物も多くあるため，DVDを配布しただけではMMを授業として取り上げてもらうことは難しいという現実もある。そこで，これまでの成果を無に帰さないためにも，継続的にモビリティ・マネジメント教育の実施を支援する体制の構築が不可欠である。

本事業では，平成 26 年度までのモビリティ・マネジメント教育の検討成果を京都市内に拡充し，継続的に実施するために，既存組織（「歩くまち・京都」公共交通センターを想定）との連携による継続実施体制を検討の上，再構築する。また，小学校によって市バスが使えない地域もあることを踏まえたMMの授業のバリエーションを拡充する。

（２） 平成 27 年度の実施内容

学校ＭＭ検討会（年 3 回開催予定）を設置して意見を聴取しながら，以下の内容に取り組む。

ア　京都ならではのモデル授業のバリエーション開発

○ 平成 27 年度にモデル授業（小学校低学年，中学年，高学年で 1 回ずつ（予定））を実施いただいく教員を支援する。また，京都ならではのモデル援業のバリエーションを増やすとともに，授業への取組をより容易にするために，その授業に使用する新たな教材を作成する。

○ 教員による研究会との連携方策を検討する。

「交通すごろく」「京都市内全域のガリバーマップ」等の教材を作成

・ 京都市では，平成 24 年度から学識者，教育委員会，教員から構成される学校ＭＭ検討会を設置し，教育現場のニーズを把握しながら，小学校低学年，中学年，高学年向けの学習指導案を作成し，各学年のモデル授業を実施した成果をとりまとめて，教員がモビリティ・マネジメント教育を実施する際に参考となるDVDを作成して平成 26 年度に京都市内小学校全校（176 校）に配布したところである。

・ 平成 27 年度は，前年度までにモデル授業を実施いただいた教員を引き続き支援し，小学校によって市バスが使えない地域もあることを踏まえながら，京都ならではのモデル授業のバリエーションを増やす。授業に使用する教材としては，先進事例を参考に交通すごろくや京都市内全域のガリバーマップの作成を提案する。

イ　ＭＭ研究指定校（仮称）の募集・選定と授業内容の検討

○ 平成 28 年度以降にモビリティ・マネジメント授業を実施するＭＭ研究指定校（仮称）を教育委員会と連携しながら募集・選定するとともに，より良い授業内容を検討する。

MM研究指定校の活動に財源的支援を実施

・ 小学校の教員は多忙であり，各種団体・教育機関からのDVD等の配布物も多くあるため，過年度実施したDVDを配布しただけではMMを授業として取り上げ

てもらうことは難しいという現実もある。そこで，新たな試みとして，平成 28 年度以降にDVD活用した授業を実施するＭＭ研究指定校（仮称）を教育委員会と連携しながら募集・選定し，京都市内での水平展開を図る。

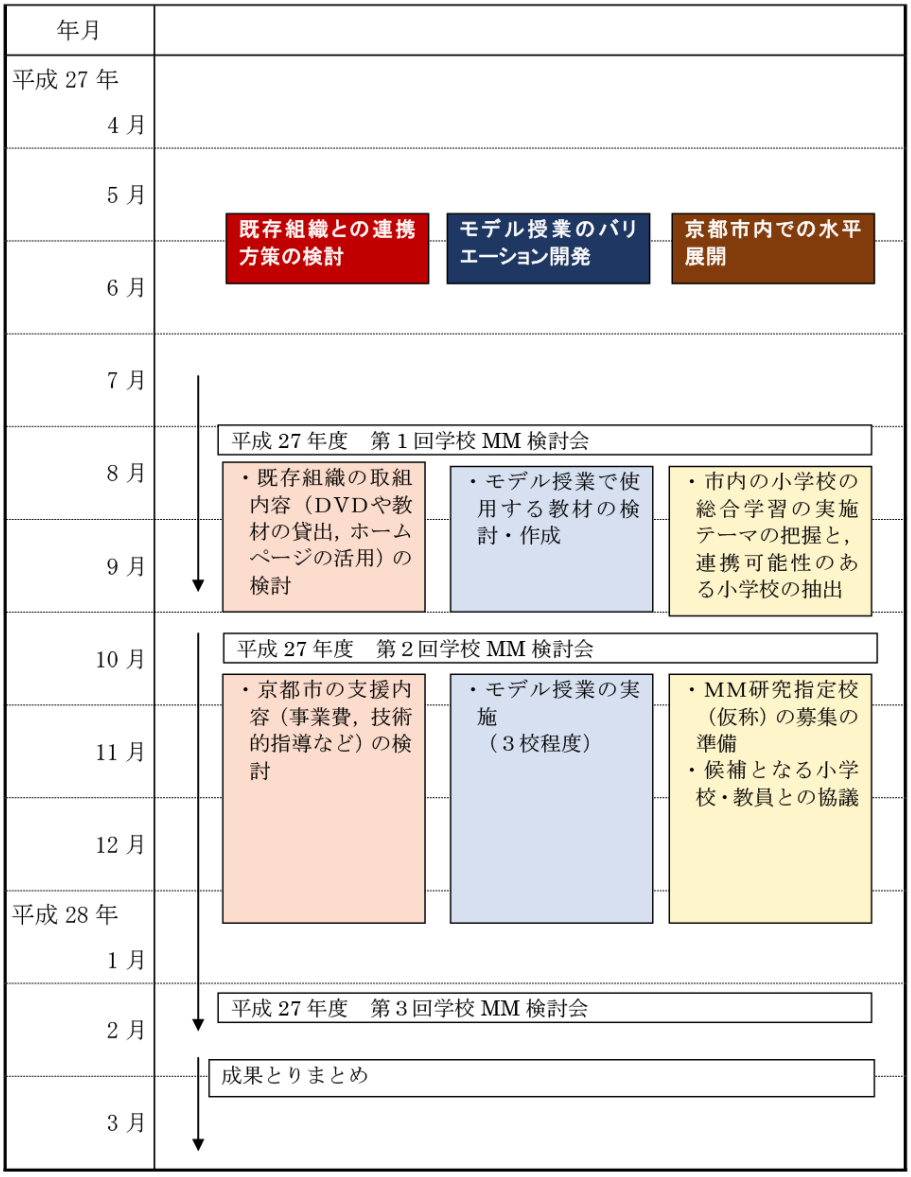
ウ　「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策の検討

○ モビリティ・マネジメント教育を継続実施するための拠点として，「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策を検討する。

DVDや教材の貸出，ホームページの活用を検討

・ 今後も継続的にモビリティ・マネジメント教育の実施を支援する体制の構築が必要であり，「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策を検討する。センターの具体的な取組内容としては，DVDや教材の貸出，ホームページの活用を検討するとともに，京都市の支援内容として，事業費，技術的指導などを検討する。

（３） 平成 27 年度のスケジュール



（4） 平成 27～29 年度の 3 カ年のスケジュール

	既存組織との連携方策の検討	モデル授業のバリエーション開発	京都市内での水平展開
H27	・既存組織の取組内容検討 ・京都市の支援内容の検討	・教材（その1）検討・作成 ・モデル授業の実施	・総合学習のテーマの把握 ・MM研究指定校(仮称)の募集
H28	・既存組織による取組試行 ・京都市との役割分担検討	・教材（その 2）検討・作成 ・モデル授業の実施	・教員による研究会との継続的な連携内容の立案
H29	・既存組織による取組改善 ・京都市の支援体制の確立	・教材（その 3）検討・作成 ・モデル授業の実施	・教員による研究会との継続的な協議体制確立

モビリティマネジメント教育事例

大阪府

	対象	テーマ	概要
1	5~6 年 社会・理科・体育	校区内の空気を調べよう	校区内の空気の汚れを調べ、その原因を考え、空気をきれいにするために何ができるかを考える。
2	4~6 年 社会	私たちのまちはどのように変わってきたのだろう	地図や航空写真をもとにまちの変遷を調べ、まちづくりや環境改善のために何ができるかを考える。
3	5~6 年 社会・理科	地球温暖化を知っていますか	地球温暖化の影響と原因を学習し、温暖化を防止するために何ができるかを考える。
4	4~6 年 社会・道徳	交通ゲーム	ゲームで電車、バス、クルマなどの利用特性を学び、望まれる交通機関利用のあり方を考える。
5	5~6 年 社会・理科	かしこいクルマの使い方を考える	CO2 排出量の削減などを目的として、日常の生活の中でクルマの使い方を工夫して実践する。
6	5~6 年 社会・理科	くらしの中で CO2 を減らそう	CO2 排出量の削減などを目的として、日常の生活の中でさまざまな工夫を計画して実践する。
7	4~6 年 社会・理科・体育	みんなが使う「電車・バスマップ」をつくろう	「電車・バスマップ」を作成し、利用してもらう喜びを実感すると共に、公共交通利用の習慣を形成する。
8	5~6 年 社会・理科	電車・バスはみんなの乗り物	電車・バスに乗車し、地域社会とのコミュニケーションを通じて、公共交通を親しみ、体験する。
9	3~6 年 社会・理科	おでかけ日記	外出行動を記録して，結果をフィードバックすることでふだんのくらしでの課題とできることを議論する．
10	5~6 年 社会・家庭	買い物ゲーム	ふだんの食卓を対象に買い物をゲームで再現することで，モータリゼーションによるライフスタイルの変化に気づかせる．

札幌市

	対象	テーマ	概要
11	３年社会	もっと知りたい みんなのまち	市内の公共施設が地下鉄沿線に多いことに着目し、徒歩や自家用車との比較を通して、公共交通機関の利点やその役割について学ぶ授業.
12	３年社会	わたしたちの 市のようす	札幌市に公共交通（地下鉄・バス）があることのよさを考える活動を通して、札幌市の公共交通は自分たちの生活の足となっていることを学ぶ授業.
13	３年社会	昔の道具とくらし	地下鉄の開通による市民生活の変化を考える活動を通して、地下鉄が果たしてきた役割に気づき、40 年にわたって公共交通機関が充実している札幌市のよさを学ぶ授業.
14	５年社会	くらしを支える情報	「さっぽろ・えきバス・ナビ」（乗継検索 Web サービス）を通して、情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて学ぶ授業.
15	６年社会	暮らしの中の政治	札幌市がバス事業の維持に税金を使っている意味を考える活動を通して、「バス事業を支えることが市民の生活を守っている」ことに気付き、市民一人ひとりの暮らしに租税が大切な役割を果たしていること学ぶ授業.
16	４年社会	身近なバスと私たちのくらし	札幌市の公共交通が抱えている問題点を関連付けて考える事で未来へ向けて自分たちの考えを深めることができるようなテキストを作成し、未来へ持続的につなげることのできる授業.
17	４年総合	わたしたちのくらしと市電	電車事業所が新型低床車両をほぼ毎日運行させている理由を追究する活動を通して、市民の期待に応え、新型低床車両のよさを広めようとする電車事業所の人の願いを学ぶ授業.
18	４年総合	わたしたちのくらしと公共交通	札幌市が赤字バス路線に対し補助金を出して、路線を維持しようとしていることの意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方を学ぶ授業.
19	５年総合	環境について 考えよう	交通日記を用いて日常の移動による二酸化炭素の排出の状況を調べ、一人ひとりの交通行動が地球温暖化に与える影響について考える授業
20	１年道徳	でんしゃのトーリー	でんしゃのトーリーやお客さんのために働く係の人の思いについて考え、お世話になっている人々に感謝の気持ちを表すこと学ぶ

富山市

	対象	テーマ	概要
21	３年社会	くしとだんごのまちづくり	富山市の「くしとだんごのまちづくり」について座学を１時限行い、貸切バスで富山駅北へ移動の後、「くし」の１つであるポートラムの乗車体験と車両基地見学等を実施.
22	３年社会	富山市のいろいろな乗り物	富山市にはいろいろな公共交通があることを知り、公共交通と土地利用が結びついていることや、「くし」のひとつであるポートラムについて学習しながら、地域や公共交通への愛着が深まることを目的にした授業.
23	４年社会	「富山の交通とくらし」～富山市のおでかけバスって知ってる？	富山県の交通の現状とその解決策について話し合い、バスを中心にした公共交通のよさに気付くことができることをねらいとした授業.
24	４年社会	富山県の交通の様子	鉄道の大切さについて考えるとともに、富山県の鉄道の様子について、市街地の分布と関連付けて理解することを学習目的とした授業.
25	４年総合	おでかけ定期券って何だろう？	富山市が発行している「おでかけ定期券」の目的を調べる活動を通して、バス交通がお年寄りにも使いやすく整備されていることに気づくことをねらいとした授業.
26	６年社会	富山市の新しいまちづくり　～まちを元気にするライトレール」	ライトレールを使った富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べ、これからの富山市について自分なりの考えをもつことを学習目的とした授業.
27	６年総合	環境にやさしい交通機関の使い方を考えよう	交通機関の環境に与える影響を考え、自分たちの交通機関の使い方と、富山市が進めている環境にやさしいまちづくりと関連させながら、これからの交通機関の利用についての理解を深めることを目的とした授業.

3.2 【実践編】に収載する教材事例の概要

教材事例 1　　私たちの校区の空気を調べよう　　**課題発見型**

目的　校区内の空気の汚れなどを調査することによって、地球温暖化や大気汚染などは違う世界で起こっているのではなく、私たちがくらしている地域でも影響を受けていることを実感し、自分たちができる課題を見出す。

目標
- 空気の汚れという問題に対して興味を持ち、疑問解決に主体的に取り組む態度を養成する。
- 空気を調べるという命題に対して、計画、準備、調査実施、評価、検証するプロセスを実行する。
- 調査結果から、何らかの解決方法を見出す態度を養成する。

対象学年　５年、６年

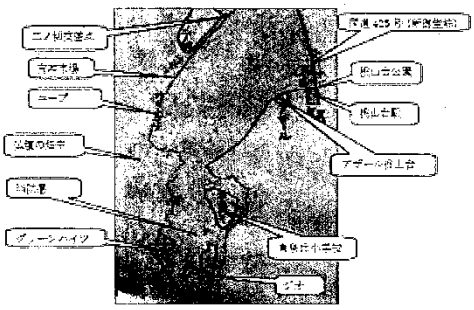
実施教科　総合的な学習の時間、社会、理科、クラブ活動

標準校時　3～5 校時

学習構成

1.(導入)	クイズを通して校区の大気汚染という問題に興味を持つ。
↓ 2.校区内の空気を調べる計画を立てよう	調査項目、場所、調査方法を考えて、計画する。
↓ 3.校区内の空気の汚れを調べよう(調査)	調査器具を正しく使って、調査を実施する。
↓ 4.調査結果を整理して考えよう	調査結果を集計、整理して検証する。
↓ 5.地球温暖化を防ぐ方法を考えよう	空気の汚れの原因物質と私たちのくらしのつながりを考える。

大気汚染(NOx)調査キット



校区地図に調査結果を記録します

教材事例 2　　私たちのまちはどのように変わってきたのだろう　　課題発見型

目的　航空写真、地図を活用して、昔と今の校区の土地利用を比較し、何が増えて何が減ったかを確認することで、これからのまちづくりや環境にやさしい実践への動機を活性化する。

目標
- 私たちがくらす地域の今と昔を比較し、将来の望ましいまちづくりやくらしを形成しようという動機を醸成する。
- 航空写真、地図を読み取る力を養成する。
- 地図から問題意識を生成する能力を養成する。

対象学年　4年、5年、6年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、クラブ活動

標準校時　1～3校時

学習構成

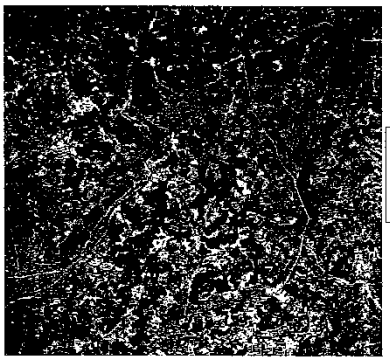
1.私たちのまちの昔と今を地図で比較しよう
今と昔の航空写真を見て、増えたものの減ったものは何かを調べよう。

↓

2.増えたもの、減ったものを確認しよう
航空写真から、白地図に増えたものと減ったものを色塗りで確認しよう。

↓

3.私たちのまちの未来は？
過去から今への変化を通して、私たちのまちの未来をどうしていけばよいか課題を提案しよう。



空中写真：昔（お父さんが子どもの頃）

今

出典：国土地理院空中写真閲覧サービス（http://mapbrowse.gsi.go.jp/airphoto/index.html）

教材事例 3　　地球温暖化を知っていますか　　課題発見型

目的　地球温暖化の現状と影響を学び、CO_2 排出量削減の必要性と方法を考え、わたしたちができる課題を実践に移す動機を活性化する。

目標
- 地球温暖化の現状と影響、および原因を理解する。
- 地球温暖化防止のために私たちができることを考え、実践に移す動機を形成する。

対象学年　5年、6年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、理科、クラブ活動

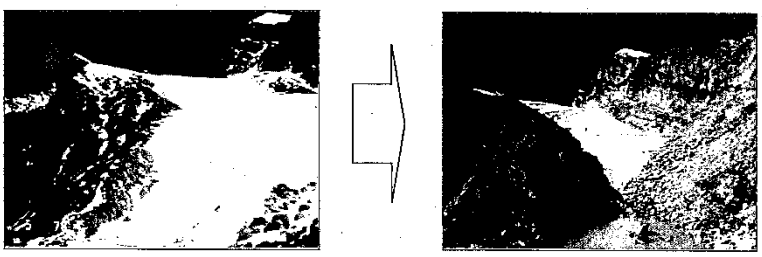
標準校時　1～2校時

学習構成

1.地球温暖化の現状と影響を知ろう　→　地球温暖化の現状と影響を学習する。

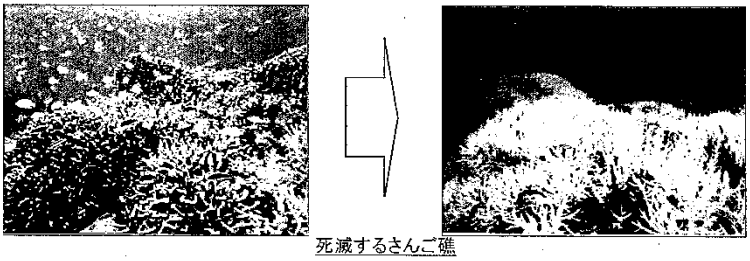
↓

2.CO_2 を減らすために　→　地球温暖化の原因と構造を知り、CO_2 を減らすための方法を考える。



後退するヒマラヤの氷河

（写真：名古屋大学「雪氷圏変動研究グループのページ http://snowman.ihas.nagoya-u.ac.jp/index-jpn.html）



死滅するさんご礁

（写真：サンゴの白化情報　http://coral.s5.com/sango.htm）

教材事例 4　　交通ゲーム　　課題発見型

目的　クルマと鉄道利用の特徴を学び、社会的効率性の概念の理解を深める。

目標
- 自分だけが早く到着すればよいというのではなく、グループ全員（社会）が早く到着することが望ましいという考え方を理解する。
- 地方はクルマを使った方が効率的、都市は鉄道を使った方が効率的であることを理解する。

対象学年　4年、5年、6年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、道徳、クラブ活動

標準校時　1～2校時

学習構成

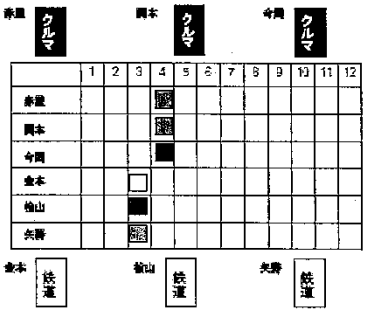
1.グループ分け
↓
2.ルールの説明
↓
3.ゲーム開始/終了
↓
4.結果の集計と考察
↓
*.追加ルールに基づくゲームの実施

6人のグループを構成する。人数が同じグループをなるべく一つは構成する。

全グループが終了するまで待つ。

結果を集計して発表し、考察します。

交通ゲームの様子
（枚方市立平野小学校（2005年））



交通ゲームのスコア・シート
（大阪大学大学院　松村暢彦助教授提供）

教材事例 5　　かしこいクルマの使い方を考える　　**実 践 型**

目的　地球環境問題を理解して、交通に着目した CO2 削減に向けた利用の仕方を考え、実践と評価を通して環境改善に貢献する喜びを醸成する。

目標
- 地球環境問題の現状と影響、および原因を理解し、解決のための方法を考える。
- CO2 削減のために、クルマに起因する CO2 を削減することの必要性と動機を形成する。
- クルマでの外出状況および予定を記述して、使い方の工夫を考える。
- クルマの使い方の工夫を家族と一緒に実践して、評価する。

対象学年　5 年、6 年

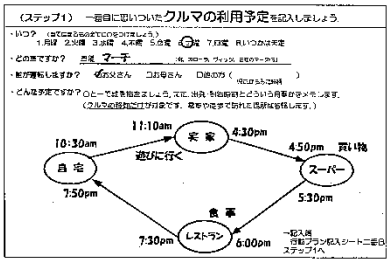
実施教科　総合的な学習の時間、社会、理科、クラブ活動

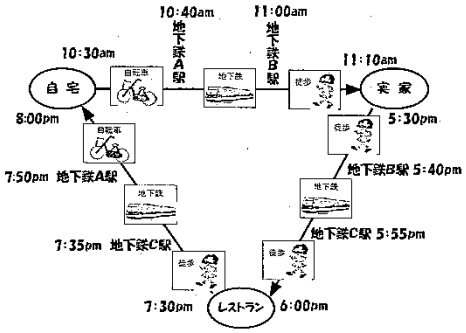
標準校時　6～10 校時

学習構成

1.導入 :(地球温暖化を知っていますか？)	交通・環境問題の現状と原因を理解する。
↓	
2.現況交通ダイアリー調査	家族のクルマによる外出行動を記録する。
↓	
3.CO2 を削減するための方法を考える	現況のクルマによる外出行動に基づいて、CO2 を削減するためのクルマ利用の仕方を考える。
↓	
4.行動プラン策定	家族の外出予定に対して、クルマ利用の仕方の工夫を計画する。
↓	
5.第 2 回交通ダイアリー調査	行動プランを家族といっしょに考え、実践して記録する。
↓	
6.CO2 排出量削減の評価とまとめ	現況と第 2 回交通ダイアリーを比較して、CO2 削減を評価する。

行動プラン記入シート　*記入例1*





行動プラン記入例

教材事例 6　　ふだんのくらしのなかでCO_2をへらそう　　実践型

目的　普段のくらしのなかでCO_2を減らす行動力を醸成し、環境にやさしい生活を習慣づける。なかでも、クルマ利用での削減が合理的であることを認識し、クルマ利用の工夫が重要であることを意識付ける。

目標
- くらしの中でCO_2排出量を削減するための方法を考え、自らがCO_2排出量を削減するための計画と目標を設定する。
- 計画と目標に基づいて、CO_2排出量削減のための実践をする行動力を身につける。
- 実践結果を評価して、行動の結果が社会的に貢献できることを実感するとともに、クルマ利用の工夫による削減が合理的であることを認識する。

対象学年　5年、6年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、理科、クラブ活動

標準校時　3～5校時

学習構成

1.CO_2をへらすために私ができることは？
↓
2.くらしの中での CO2 削減プランを立てよう
↓
3.CO_2削減プランを実践しよう
↓
4.実践の結果は？
↓
5.みんなで取り組めば地球を救える！

CO_2排出原因を確認し、くらしの中でへらすための方法を列挙する。

家庭のふだんのくらしでできることを抽出して、実践計画と目標を設定する。

自ら決めたプランを家庭で実践する。

実践結果からCO_2排出削減量を計算し、評価する。

実践結果をみんなに知らせる。

ワークシート②-1：私と家族の CO2 へらした記録

テーマ：自分たちにできること

クラス：A　出席番号　氏名：

実践項目	10月12日 金曜日	10月14日 土曜日	10月15日 日曜日	10月16日 月曜日	10月17日 火曜日	10月18日 水曜日	10月19日 木曜日	1週間 合計(ア)	CO2 原単位 kg(イ)	ふだんくらしでCO2削減量 (アxイ)
水を出しっぱなしにしない	○	○	○	○	○	○	○	7	0.012	0.084 kg
電気の無駄なともしをなくす	○	○	○	○	○	×	○	6	0.011	0.066 kg
かしをいかて身にする	○	×	○	×	×	○	×	3	0.010	0.03 kg
TVを見すぎない	×	○	○	×	×	×	×	2	0.036	0.072 kg
車をつかわないで(歩き)学校へ行く	×	×	○	○	○	○	○	5	0.282	1.41 kg
お風呂にふたをする	○	○	×	○	×	○	○	5	0.220	1.1 kg
										kg
										kg
合計										2.762 kg

「私と家族のCO_2減らした記録」ワークシートの例

教材事例 7　　みんなが使う「電車・バスマップ」をつくろう　　実践型

目的　環境にやさしい交通手段の利用の仕方を学び、地域のみんなが使う「電車・バスマップ」を作成して、みんなに使ってもらう喜びを実感するとともに、公共交通機関利用の習慣を形成する。

目標
- クルマを利用するよりも、電車・バスを利用する方が環境面などでは望ましいことを認識する。
- 目的地までの電車・バスでの行き方を、自分たちで調べる。
- みんなが使う「電車・バスマップ」として、相談しながら合意形成して作り上げていく。
- 作成したマップを家族や地域の方に使っていただいて、評価していただくなどのコミュニケーションを実践する。

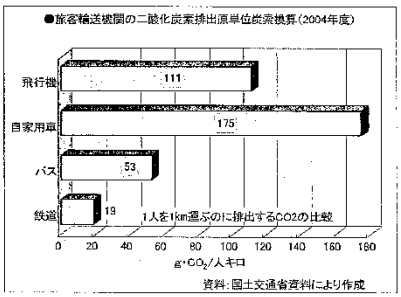
対象学年　4年、5年、6年

実施教科　総合的な学習の時間、社会、クラブ活動

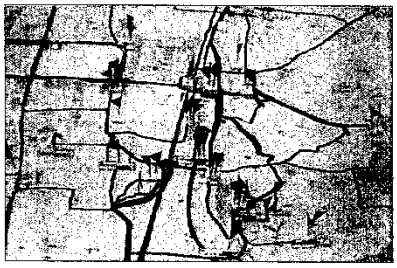
標準校時　4～6校時

学習構成

1. 導入：環境にやさしい交通手段は何？　クルマを使うよりも電車・バスを使う方が、環境にやさしい。
2. ふだんみんながよく行くところは？　校区から、どこにどれくらいの人が行っているのかを確認して、生活圏を認識する。
3. 電車・バスでの行き方を調べよう　校区から主要な場所への電車・バスでの行き方を調べる。
4. 私たちのまちの「電車・バスマップ」を作ろ　みんなに使っていただくための「電車・バス」情報を作成する。
5. みんなに使っていただこう　家族に使ってもらった感想は？



一人 1Kmを運ぶのに排出するCO_2の比較



みんなが良く行く場所と経路を記録します

教材事例 8　　電車・バスはみんなの乗り物　　実 践 型

目的　公共交通乗車を通して多様な（マイカー、自転車以外の）「交通」を体験し、「交通ー環境」問題の発見と対応を考えて提言を発信することにより、社会貢献の喜びを実感する。

目標
- 公共交通に体験乗車をすることにより、その利用方法を習得するとともに、バス利用の楽しさ・意義を実感する。
- バス体験乗車時の観察やコミュニケーションを通して、新しい発見や問題点を発掘する。
- みんなに使ってもらう工夫を考えて提案、発信することにより、社会貢献の喜びを実感する。

対象学年　４年、５年

実施教科　総合的な学習の時間、社会

標準校時　4～６校時

学習構成

1.導入：環境にやさしい乗り物、電車・バス　→　電車・バスは、クルマよりも環境にやさしいことを認識する。

↓

2.バス乗車体験(校外授業)　→　バスの利用方法を習得し、実際に使ってみよう。どんな新しい発見があるかしら？

↓

3.電車・バス利用体験報告会　→　体験乗車での新しい発見を意見交換し、問題提起する。

↓

4.みんなに利用してもらうためには？　→　みんなに使っていただくためには、どうすればよいかを提言する。

出前講座：「バス体験乗車」の風景
（和泉市立鶴山台北小学校、平成 18 年度）

おでかけ日記（トラベル・フィードバック・プログラム）

1 概要

目的	子どもたちの交通行動に着目して、子どもたちが自らの外出行動を記録して、その結果をフィードバックすることで、一日の交通行動における交通手段利用を把握するとともに、一人ひとりのエネルギー消費量や CO_2 排出量を元に、環境、健康やエネルギーと交通の相互影響を考えて、ふだんのくらしでの課題とできることを議論する。 また、他の小学校や海外の子どもたちとの比較をすることで自分たちの交通行動や健康などについて考える。		
目標	・ 健康とエネルギーが交通とどのようにかかわっているかを学習する。 ・ 自分たちの行動と他の小学校や海外の子どもたちとどれほど違いがあるかを確認する。 ・ ふだんのくらしのなかで環境に配慮する行動を考え、実践する大切さを学ぶ。		
対象学年	3年、4年、5年、6年	学習のタイプ	実践型学習
実施教科	総合的な学習の時間、社会、理科	連携教科	社会、理科
標準校時	3～4校時	学習場所	教室、家庭
準備	・交通手段のイメージ調査票 ・おでかけ日記記録用シート ・筆記用具		
支援・連携	・ 家庭：おでかけ日記の記録支援、報告会への参加 ・ 行政団体、チューター：出前講座、テキスト・ワークシートなどの提供、おでかけ日記の説明・集計 ・ 学識経験者：出前講座、教材、ワークシート（おでかけ日記など）作成		
学習構成	1.導入：交通の問題について → いろんな交通手段、交通の問題、まちとクルマの関係、そしてその解決策を知る。 ↓ 2.お出かけ日記の記録 → いつも自分たちはどんな行動をしているのかしら？ ↓ 3.お出かけ日記の結果発表 → 一人ひとりのおでかけの結果を見て、良いところ、悪いところを考え評価し、どうすればよいかを考える。 ↓ 4.今後、自分たちでできることはなんだろう？ → もっと、環境にやさしく、健康であるために、どのようにすればよいかみんなで考え、提言する。		

買い物ゲーム（フードマイレージ）

1 概要

目的	ふだんの食卓を対象として食材の買い物をゲームで再現することで、エネルギー消費と環境負荷との関係、食材の変遷、旬の喪失、食料自給率の変化、モータリゼーションの進展によるライフスタイルの変化に気づかせます。小学校高学年から大人まで、フードマイレージの学習を通して、「買物と環境問題」が理解でき、「やさしい暮らしづくり」の実践を進めていきます。		
目標	・1970 年と現在の物価の違いや 1970 年には季節によって手に入らない食材があったことに気づく。 ・1970 年と現在とでは、買物先や交通手段に変化が生じていることに気づく。 ・買物で食材の選択する場合、近場の食材を選択することで環境負荷が減ることに気づく。 ・買物先と交通手段の変化を知り、これらがもたらす影響を考える。		
対象学年	5 年、6 年	学習のタイプ	実践型学習
実施教科	総合的な学習の時間、社会科、家庭科	連携教材	社会科、理科、家庭科
標準校時	6~8 校時	学習場所	教室
準備	・買い物カード　・地図（日本地図または世界地図：産地元をプロットする） ・お店選択カード　・筆記用具（マジック、色鉛筆、クレヨン、模造紙など） ・交通手段カード　・電卓		
支援・連携	・家庭：報告会への参加等 ・行政団体：教材、ワークシート等の提供、チューター支援 ・学識経験者：出前講座、教材、ワークシートの作成		
学習構成	**1.食事の献立を考えよう**：各クラスで、1970 年グループと現在グループに分かれる。各クラスで、食事の献立を考え、必要な食材を話し合う。 ↓ **2.食材を買いに行こう**：必要な食材をどのお店に、どのような交通手段で行くか決めて、必要な食材を買う。 ↓ **3.食事をつくろう**：選んだ買い物カードを基に、自分たちで考えた献立を絵に書く。 ↓ **4.フードマイレージを計算しよう**：選んだ買い物カードの裏側を見て、原産地を地図に書き、原産地から私たちの家まで運んでくる交通手段の CO_2 排出量を計算する。 ↓ **5.発表しよう**：各グループで計算した CO_2 排出量を発表する。		

3. 本時の目標と学習展開

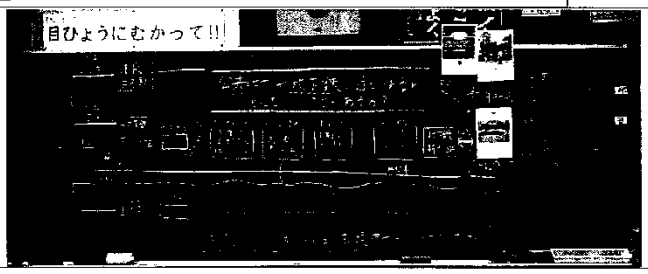
●目標

・地下鉄沿線に公共施設が多いという事実から問いをもち、地下鉄やバスのよさと公共施設の働きを、徒歩や自動車と結びつけて考える。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 札幌市全体の特徴、主な公共施設の場所などを学んでいる。札幌市の公共交通機関について学んでいる。 南北線、東西線、東豊線→ 札幌市地図 地下鉄路線図 公共施設位置 ← 公共施設 公共施設は、地下鉄の近くにたくさんあるよ。 **公共施設が地下鉄の近くにあったら、どんないいことがあるのかな？** 円山動物園 ← 本通小学校 地下鉄だったら・・・ はやい ・歩いたら３時間 ・地下鉄なら 15 分 楽 ・座ったままでつく ・歩かなくていい だれでも ・子どももお年寄りも ・車のない人も 自動車でもいいんじゃない？ みんながいっぺんに自動車で来ると・・・ ・駐車場が混んでしまう ・じゅうたいする ・排気ガスがいっぱい出る みんなが利用する公共施設だからこそ **公共施設が地下鉄の近くにあったら、みんなが利用しやすいんだね。** でも、さとらんどや芸術の森は、地下鉄から遠いよ・・・ 札幌市地図 地下鉄路線図 公共施設位置 &バス路線図 バスで行けるよ！ 公共交通機関で札幌市内ほとんどのところへ行ける！	・ＩＣＴを活用する。 ・地下鉄路線図と公共施設の位置を重ねることで、問いを生む。 ・具体的に考えられるように、子どもたちがよく利用する「円山動物園」を例に考える。 ・徒歩との比較を通して、地下鉄のよさに気付かせる。 ・視覚的な板書を工夫する。 ・公共施設へ行く際の地下鉄のよさをまとめた上で、「自動車も同じでは？」と発問する。自動車のよさも認めつつ、マイナス面について検討する ・他の公共施設に目を向け、一般化を図る。 ・地下鉄駅から遠い公共施設を取り上げる。 ・バス路線図を提示し、バスを使えば、札幌市内どこへでも行けることを押さえる。

板書計画



3. 本時の目標と学習展開

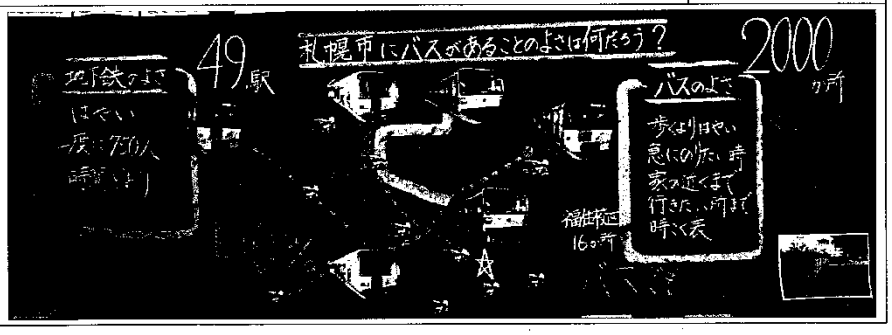
●目標

・札幌市に公共交通（地下鉄・バス）があることのよさを考える活動を通して、札幌市の公共交通は自分たちの生活の足となっていることを考えることができる。（思考・判断・表現）

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） **前時までの学習　札幌市のようすをさぐろう** その①土地のつくり　南西は山！北東は平ら！豊平川が流れてる！ その②区ごとのようす　区によってとくちょうがちがった！ その③公共しせつ　地下鉄のそばにあって利用しやすい！ 	・公共交通とは何かを振り返る。 ・地下鉄のよさを想起していく。 ・子どもがあまり利用しないバスのよさを考えるようにする。 ・福住小学校校区にある地下鉄駅の数とバス停の数を数え、バス停の数の多さに気付かせる。 ・停留所にある行き先や時刻表を用いて、具体的な経路を視覚的に分かるようにしていく。 ・地下鉄でもバスでも同じ場所に行けることのよさを考えていく。 ・公共交通で札幌市のほぼ 100%カバーされていることに気付くようにする。

板書計画



3. 本時の目標と学習展開

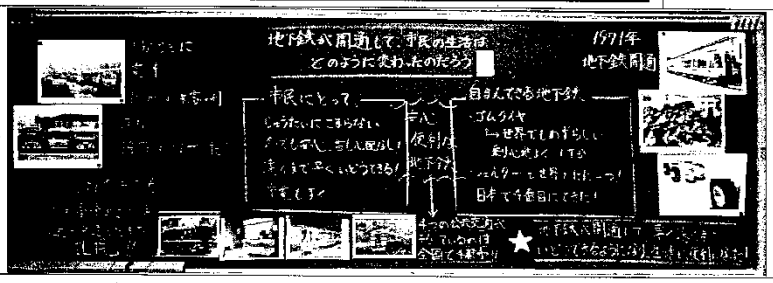
●目標

・地下鉄の開通による市民生活の変化を考える活動を通して、札幌市営地下鉄の価値に気付き、４０年にわたって公共交通機関が充実している札幌市のよさを適切に表現することができる。（思考・判断・表現）

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） １９６０年代に入り交通渋滞が大問題になったこと、市民の足であった市電は、通勤ラッシュ時に１００ｍもの乗客の列ができて大混雑していた様子を学んでいる。	・前時をふりかえりながら、1960 年代の状況を確認する。
１分ごとに電車が来て、電車も大渋滞していたよ。 市電やバスだけでは、市民を運べなくなってきたよ。 人口100万人の都市に全国で４番目となる地下鉄が誕生 １９７１年、オリンピックの前年に南北線北２４条～真駒内開通！！	・地下鉄が開通した状況や様子を教える。
地下鉄が開通したことによって、市民の生活はどのように変わったのだろう。	・地下鉄と市民生活とのかかわりを考えるようにする。
札幌市民にとって ・渋滞に困らず移動できる。 ・冬でも安心。雪も心配なし。 ・遠くまで早く移動できる。 ・東西線ができ益々便利に。 ・車を使わなくてもいい。 ＝ 雪の心配もなく、早く遠くまで移動ができる地下鉄 ＝ 市民が自慢できる地下鉄 ・車輪ではなくゴムタイヤ→「札幌式」と呼ばれ、世界にも知られる。 ・シェルターも世界唯一。 ・乗り心地も最高！ **市民の暮らしが豊かに**　**世界にも誇れる乗り物**	・市民生活と地下鉄のよさを分類し黒板にまとめる。
今も全部残っているなぁ。 地下鉄の開通によって、札幌市内の公共交通機関は… 地下鉄　バス　市電　JR 乗り物がたくさんあるまちなんだ…。 ４つの公共交通機関がそろっている都市は札幌・東京・京都・大阪の４都市しかない！！ 札幌市民 190 万人が利用できる大事な乗り物になっているんだ！ 行く場所によって使い分けるととっても便利だね！ これからも続くようにみんなで協力することが大切だね！ 札幌市は世界にも自慢できるまちなんだね！	・札幌で走る公共交通機関を子どもと確認する。 ・４つの交通機関がそろう札幌の価値を考えることで、マイレール意識を高める。
地下鉄が開通して、市民の生活が豊かになり、公共交通機関がそろったまちになった。	

板書計画

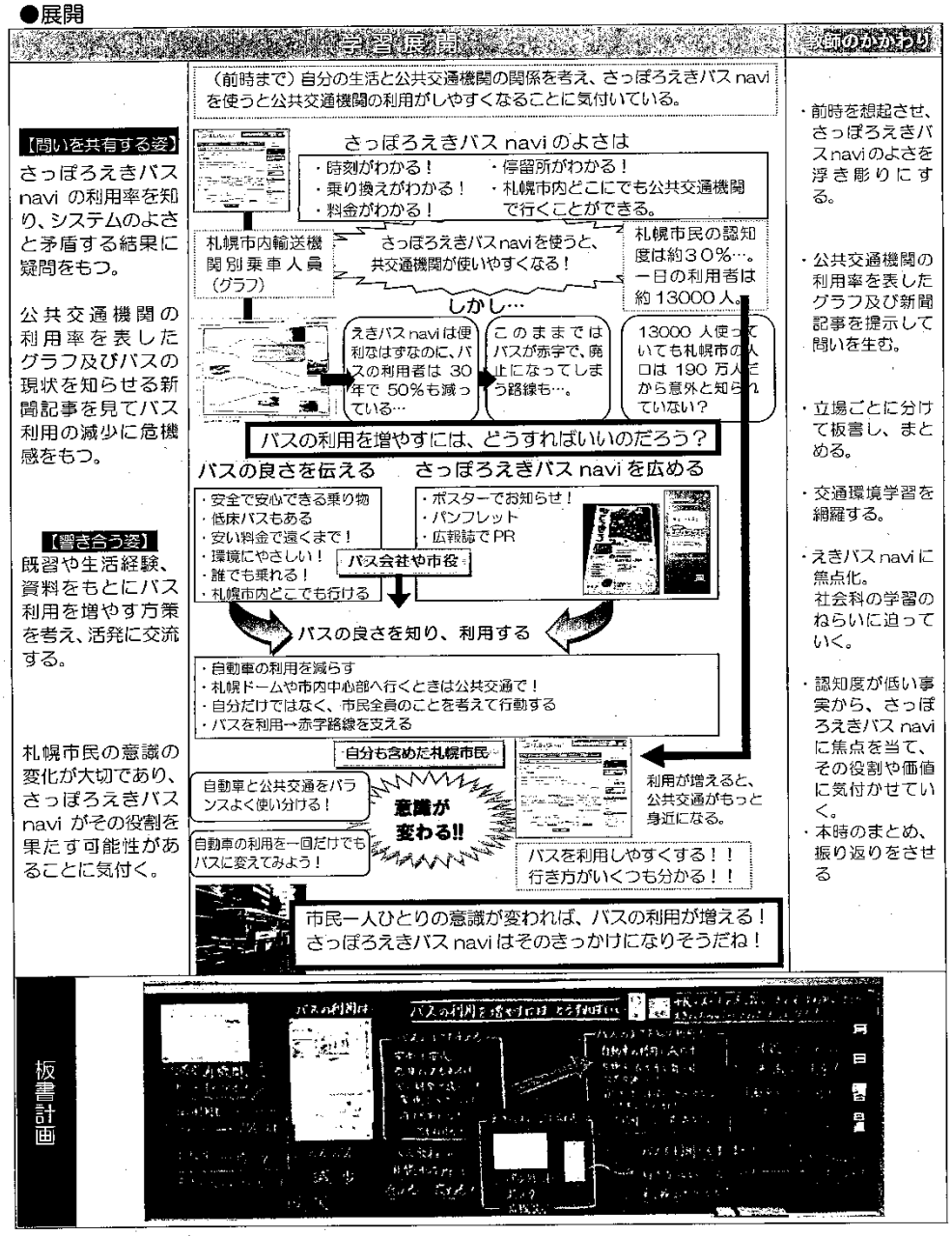


3. 本時の目標と学習展開

●目標

・さっぽろえきバス navi を通して、情報ネットワークの働きと国民生活とのかかわりについて考え、情報化の進展によって人々の生活の向上が図られていることがわかる。

●展開



3. 本時の目標と学習展開

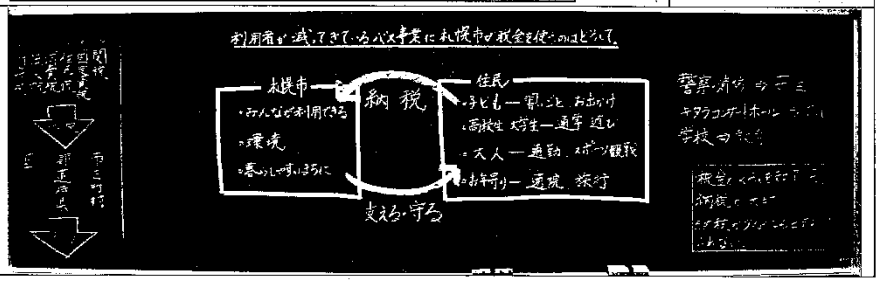
●目標

・札幌市がバス事業の維持に税金を使っている意味を考える活動を通して、「バス事業を支えることが市民の生活を守っている」ことに気付き、市民一人ひとりの暮らしに租税が大切な役割を果たしていることについて考え、適切に表現することができる。（思考・判断・表現）

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 教科書の東京都世田谷区の事例をもとに、「住民の願いをきき、誰もが暮らしやすい社会をつくることが政治の大切な仕事であること」、「誰もが暮らしやすい社会をつくるには住民の政治参加が必要であること」を学んでいる。 ○国や地方公共団体の仕事の費用はどこから出ているのだろう ・所得税 ・法人税 ・消費税 ・住民税 ・固定資産税 納める ・国に ・都道府県に ・市区町村に 使う バスの利用者数の減少のグラフ 平成24年度 約6.5億円 利用者が減ってきているバス事業に札幌市が税金を使うのはどうしてだろう 札幌市にとって ・誰もが利用できる移動手段を確保 ・公共交通を使ってもらい環境を守る ・都市を活性化 ・みんなが暮らしやすいまちづくり 納税 市民の暮らしを守る 住民にとって ・学校に通えない ・通勤に困る ・車がない人は移動できない ・地下鉄駅からタクシーを利用するしかなくなる ○その他にはどんなところに税金が使われているのかな 警察・消防 ⇨ 安全で健康な暮らしを守る キタラコンサートホール ⇨ 文化的な生活を送る 学校 ⇨ 平等に教育を受けられるようにする 小学生一人にも、一年間で約100万円の税金が使われている みんながどこかで同じように恩恵を受けている 税金が私たちの暮らしを支えてくれている。納税は大切なんだね。	・教科書を使い税金の集められ方や使われ方を確認する。 ・札幌市の税金の使い方の事例としてバス事業を取り上げ、利用者が減ってきているバスに毎年億円の税金を使っている事実から問いを生む。 ・利用者が減ってきているけれどもバスが無くなると困る人が多くいることや困る中には自分も含まれていることから税金の役割を浮き彫りにする。 ・身の回りで使われている税金について考えることで税金の大切さを実感させる。

板書計画



3. 本時の目標と学習展開

●目標

・バスの乗車人数がどんどんへり、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしている事の意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考える事ができる。

学習展開と児童の発言の例	教材のとらえ方
前時までに子どもたちは札幌市の公共交通についての歴史について調べ、バスが、札幌市民の足として古くから利用されていたことを理解している。 札幌市全体のバス乗車人数 札幌市全体のバス走行キロ数 ・バスに乗る人がどんどん減っている。 ・路線はそんなに変わっていないね。 **札幌市では毎年６億４千万円も損をしているのにバス路線を残している** バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう 【だ れ で も】 ◆小・中学生や高校生でも ◆おとしよりにも ◆体が不自由な人でも 全ての札幌市民のために 【い つ で も】 ◆映画を見るときは ◆お父さんの出張の時に ◆時刻表があれば ◆一時間に何本も **札幌市のほぼ100%の場所に公共の交通機関で行くことが可能** 【どこへでも】 ◆さとらんどもホリデーリングで ◆札幌ドームやおじいちゃんの家まで ○このままだとどんどん路線がなくなり続けるのでは？ 【い つ ま で も】 札幌市全体のバス乗車人数と自動車保有台数 **どうなることが自分たちの未来にとって一番いいのだろう** 札幌市はだれでも、いつでも、いつまでも利用できるように バス路線を考えているんだね	○子どもたちが問いを持つ事ができるように、札幌市全体のバスの乗車人数が年々減ってきている事実の提示とその一方で、路線のキロ数に大きな変動のない事実の提示をあわせてする。 ○札幌市が赤字路線に６億円超の補助金を出している事実の提示から問題意識を醸成する。 ○子どもの考えを「だれでも」、という視点と「いつでも」、「どこへでも」という視点に分けて引き出し、板書に類分けする。 ○「だれでも」、「いつでも」、「どこへでも」の見方や考え方を確かにするために子どもの考えを切り返し、ゆさぶっていく。 ○「市街化区域における公共交通機関へのアクセス状況」のグラフの提示から、公共交通機関で札幌市内で人が生活している場所のほぼ100%の場所に行くことができる事実を押さえる。 ○「バス乗車人数と自動車保有台数」のグラフの提示から、未来の札幌市にとってどうしたらよいか考える場の構成をする。

板書計画

バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、
バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう

【だ れ で も】
◆小学生でも
◆おじいちゃんでも

みんなが利用できる

【ど こ へ で も】
◆札幌ドームへ

【い つ で も】
◆時刻表があれば
◆一時間に何本も

【い つ ま で も】

札幌市はだれでも、いつでも、どこへでも、そして、いつまでも利用できるようにバス路線を考えているんだね

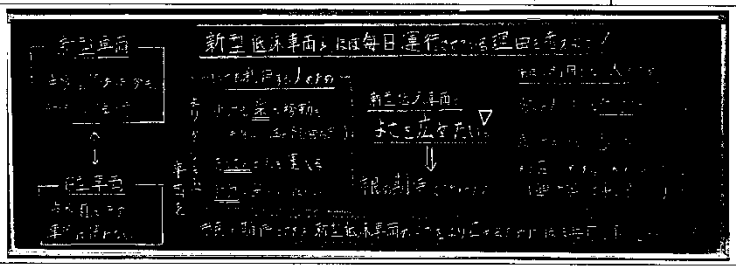
3. 本時の目標と学習展開

●目標

・電車事業所が新型低床車両をほぼ毎日運行させている理由を追究する活動を通して、市民の期待に応え、さらに新型底床車両のよさを広めようとする電車事業所の人の願いを考えることができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで） 電車事業所見学や聞き取り調査などの活動を通して、市電の運行に様々な人が携わっていることや、路線や乗客者数の減少が続く市電の問題点について理解している。	・点検後の車両の使い方を比較し、問題意識を生む。 ・左記の事実はあくまでも原則であることを子どもに伝える。（乗客者数や点検の状況によって、変更する事も有り得る。）
旧型の車両 →月６回程度の点検の日は、その車両は使わない 新型低床車両は、ほぼ毎日運行させている 新型低床車両 →点検の日も、点検終了後、午後から運行 **新型低床車両を、ほぼ毎日運行させている理由を考えよう！**	・車両を運行させている電車事業所の立場で、子どもたちの思考を整理する。
普段から利用する人たちのために ・広い窓で景色を楽しんでほしい ・お年寄りや体の不自由な人に、快適に移動してもらいたい ・広い車両でたくさんの人を運べるように **快適な車両を** 広めるために！ まだ乗ったことがない人のために ・多くの人に、新型車両に乗ってもらいたい ・その日しかいない観光客にも乗ってもらうため ・見てもらうだけでも、新型低床車両の存在が伝わるから **一人でも多くの人に** **新型低床車両のよさを、より多くの人に広めたい！**	
実は、新型車両が運行してからほぼ毎日… （新型低床車両が走る時刻についての問い合わせが、電車事業所に届いている。） 新型車両に興味のある人がそれだけ多いのだと思うよ。 市民の期待 まだ乗ったことがない市民も大勢いるのではないかな。 **市民の期待にこたえるために！** **多くの市民の期待を背負った新型底床車両だからこそ、ほぼ毎日運行させて、多くの人によさを広めようとしているんだね！**	・問い合わせの電話が続いている事実を市民の立場で考えることで、新型車両に対する期待感に気づかせる。
板書計画	

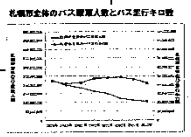
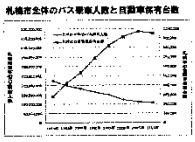
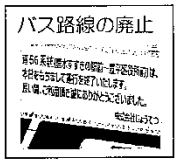


3. 本時の目標と学習展開

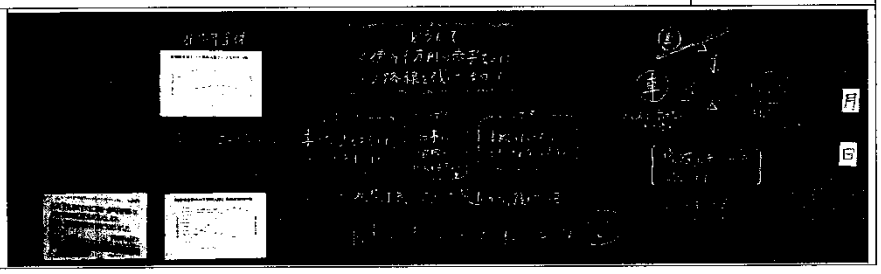
●目標

・バスの乗車人数がどんどん減り、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしていることの意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考えることができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
（前時まで）家族の交通行動について調べ、家族の移動手段が、目的や行き先によって違っていること、バス路線があることが、自家用車を持たない者にとっても、持つ者にとっても大切であることを理解している。 バス路線「白２４」  「白２４」には、去年、５８０万円の補助金を出している！ バスが走れば走るほど、損をする！ 札幌市全体でも、似たようなところがたくさんあるね。 **去年は、補助金６億４０００万円！** **どうして、６億4000万円も損をしているのに、バス路線を残しているのだろう。** だ れ で も ・自家用車を持たない人でも ・運転できなくなった人も ・体が不自由な人も **札幌市民の大切な「足」だからこそ** い つ で も ・便数がたくさん ・乗り遅れても次の便に ・ ど こ へ で も ・仕事にも ・学校にも ・札幌市のほとんどのところへ行ける  お出かけ調べでは･･･ バスの利用者が少ない！ このままだと、路線が減っていってしまう！ どうしたらよいのかな。 車とバスを使い分ける！ お家の人に知らせる！　自分でも バス路線の廃止  **札幌市は、市民みんなが、いつでも、どこへでも行けるように、バス路線を残しているんだね。未来に残せるかどうかは、自分たちの行動次第だね。**	○バス路線「白２４」が必要性を振り返った後、昨年度 580 万円の補助金を出している事実を提示し、その意味を問う。 ○札幌市全体のデータを示すことで、身近なことが札幌市全体の問題であることに気付かせ、問題意識を高める。 ○子どもの考えを「だれでも」「いつでも」「どこへでも」という視点に分けて引き出す。 ○既習の「交通日記」とつなげ、身近な問題として考えられるようにする。 ○子どもの見方や考え方を確かにするために、必要な資料を提示したり、切り返しの発問をしたりする。 ○バス乗車人数と自動車保有台数とお出かけ調べの結果を関連づけ、未来の公共交通のために、自分自身がどうしたらよいか考えるようにする。

板書計画

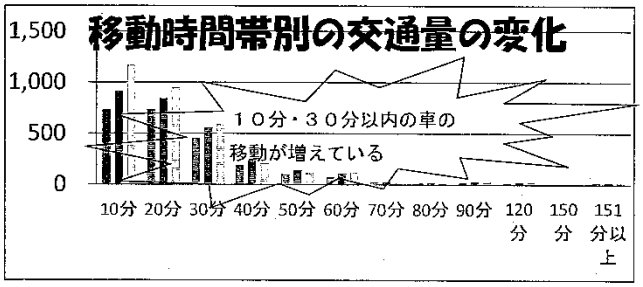


3. 本時の目標と学習展開

●目標

・自分の生活の問題点と札幌市の問題点とをつなげ自分や家族の生活の改善点を考えるとともに、これからの公共交通のあり方への関心を高める。

●展開

子どもの意識と学習活動	教師のかかわり
前時までの子どもの姿 地球温暖化の影響が北海道でも起こっていることを知り、自分にできることを考えている。 CO_2の排出量を減らすためにはどうしたらいいのかな ゲームを30分我慢する / 近所への買い物は歩いて / お風呂の時間を短くする ○札幌市の現状  CO_2の排出量を減らすためにはどうしたらいいのかな 自分：歩く・近くの店に買い物に行くときは、歩いたらいいんじゃない お父さん：自転車を使う・少し離れた場所でも自転車を使えばいいんだね 自分：バスを使う・習い事に行くときにはバスを使う方がいいんだね 車の利用をちょっと控えるだけでずいぶんとCO_2を減らすことができそうだ 自家用車に頼りすぎることで環境以外にも困ったことが起こりそうだね	○テレビを１時間見ないよりも車を 10 分間使用しない方がはるかに効果があることから交通行動に焦点化していく。 ○札幌市民の交通行動のグラフから問いを生む ○誰がどのように行動を変えればよいのか、その可能性はどれぐらいあるのかで類分けを行う。 ○新聞記事を提示し、これからの公共交通を考えるきっかけにする。

2. 本時の目標と学習展開

●目標

・トーリーやお客さんのために働く係の人の思いについて考え、お世話になっている人々に感謝の気持ちを表すことができる。

●展開

学習展開	教師のかかわり
みんなは普段、どんな乗り物に乗っているかな 家の車　飛行機　バス　電車 いろいろな乗り物があるよ ○でんしゃのトーリーを読む トーリーを点検したり、きれいにしたりする人がいるよ ・しらべる ・ぴかぴかに ・とりかえる 点検や掃除をする人 よなかじゅうこうじをすることもある たいへんだ！ 係の人は、どうして毎日点検して、トーリーをぴかぴかにしているの？ トーリー ・うれしい ・楽しい ・気持ちが良い ・もっと走りたい 点検や掃除をする人 トーリー、そしてわたしたちのために わたしたち お客さん ・気持ちが良い ・安心 ・安全 ・もっと乗りたい 係の人は、トーリーやお客さんたちが気持ち良く乗ることができるように毎日整備してくれているんだね。 ○お客さんになって係の人たちに手紙を書く きれいにしてくれるから、きもちよくのることができています。 てんけんをして、あんぜんをまもってくれて、ありがとうございます。 みんなの安全を守るために働いている人のことがわかったね。	○写真を提示し、イメージをもてるようにする。 ○整備されていないトーリーを提示し、副読本の記述に注目できるようにする。 ○係の人が行っていることに線を引かせ、副読本の読み取りを深めていく。 ○きれいに整備されたトーリーに乗る経験をさせ、お客さんの視点からも考えられるようにする。 期待させる道徳的価値 物語の登場人物になりきって、整備をしてくれる人々に感謝の手紙を書くことができる。

板書計画

おうみ てつどう
近江鉄道のヒミツ
いろいろな電車
近江鉄道700系
近江鉄道800系
近江鉄道900系
思い出してみよう！
近江鉄道にのって
どこに行きましたか？
電車にはどんな人が
のっていましたか？
いくつきえら
れるかな？
近江鉄道のヒミツ
クイズ！
えきの名前をいえるかな？
ひこね
あまご
ひこね
せりかわ
こよさど
たかみや
えちがわ
ひこねぐち
ごかしょう
かわべのもり
近江鉄道はいつから走っている？
1622年
1898年
1931年
近江鉄道は一日
何回おうふくしている？
10往復
30往復
100往復
彦根駅は一日
何人が利用している？
100人くらい
500人くらい
1500人くらい

近江鉄道に自転車をのせられる？
のせられる
のせられない
電車のしくみ
電車はどうやって動くのかな？
でん力会社
電車
鉄道へんでんしょ
電車にかかわるしごと①
運転士さん
•信号やそくどなどを確認しながら，あんぜんに目的地まで電車を走らせるお仕事
電車にかかわるしごと②
車しょうさん
•電車が動き出すときの安全確認やドアの開閉など、あんぜん・かいてきに電車を利用できるようにするお仕事
近江鉄道は運転士さんと車しょうさんのお仕事を1人でやっているよ
電車にかかわるしごと③
せいびしさん
•電車に問題がないか，点けんしてしゅう理をするお仕事
えきの中には何がある？
エレベーター
時こくひょう
かいさつ（のりばの出入口）には何がある？
けんばいき
ホーム（電車を待つ場所）には何がある？

マナーをまなぼう
電車にのるときのマナー
おばあさんがおりようとしてる
待たずに先にのる
電車にのるときのマナー
友だちとの約束に遅れそう！
走って電車にとびのる
電車の中でのマナー
だれがこまっている？
電車の中でのマナー
だれがこまっている？
電車をおりるときのマナー
だれがこまっている？
かんがえてみよう
電車はだれのもの？
電車は
みんなのもの
電車はだれとのる？

「でん車に乗ってでかけよう」
事前学習指導案

本時のねらい

近江鉄道の乗車体験の前に，近江鉄道について知り，興味をもたせる．電車のマナーを学び，クルマとは違い，電車は「公共の乗り物」であることを知らせる。

本時の展開

プロセス	学習活動と発問	教材と進め方	
近江鉄道の思い出 【10分】	**近江鉄道に乗った経験を発表する** *「近江鉄道に乗ったことがある人は？」* *「どんなところに行きましたか？」* **どんな人が乗っていたか思い出そう** *「電車にはどんな人が乗っていましたか？」*	【スライド2～4】 電車の思い出を発表する．	
近江鉄道を知る 【20分】	**「河辺いきものの森」までの駅名を覚えよう** *「近江鉄道はどこを走っているか知っていますか？地図を使って，今度出かける河辺の森までの駅名ををみんなで覚えましょう」* **近江鉄道のヒミツクイズ！** *「みんながどれくらい近江鉄道のヒミツを知っているか，クイズをしましょう」* ・先ほど勉強した駅名を言える？ ・近江鉄道はいつから走ってる？ ・近江鉄道は一日に何回往復してる？ ・彦根駅は一日に何人くらいが利用してる？ ・近江鉄道に自転車を載せられる？ **電車のしくみを学ぼう** *「では，電車はどうやって動いているか，どんな人が電車に関わるお仕事をしているか，見てみましょう」* ・電車はどうやって動く？ ・電車はどんな人が動かしている？ （運転士，車掌，整備士） ・駅，改札，ホームには何がある？	【マップ】 黒板に張った地図を使って駅名を覚える． 【スライド5～10】 グーチョキパーでクイズに答える． 【スライド11～18】 駅見学で聞きたいことを考える． スライドの写真を見せながら，駅から改札までの動きをシミュレーションする．	
マナーを学ぶ 【10分】	**電車のマナーを学ぼう** *「電車を安全に気持ちよく乗るために，みんなに守ってほしいことがあります．」* ・降りる人を待たずに乗るのは？ ・約束に遅れそうだからと言って走って乗るのは？ ・電車の中で走ったり騒いだりすると．．． ・荷物などで席をふさいでしまうと．．． ・電車の出口でかたまっていると．．．	【スライド19～24】 スライドを見せながら，電車のマナーを知らせる．	
まとめ 【5分】	**考えてみよう．電車はだれのもの？** *「最後にクルマと電車の違いを考えみましょう．」* ・クルマを持っていない人や免許を持っていない人，通勤・通学で使っている人などみんなもの	【スライド25～26】 クルマとは違い，電車はみんなのもの（公共の乗り物）であることを知らせる．	

(3) CO2 排出量を考慮した交通すごろく

2007 年に北海道運輸局は恵庭市のコミュニティバス路線をイメージした交通すごろくを作成した。この交通すごろくの特徴としては、交通機関カードを選び、その交通機関カードの性質に応じたサイコロ個数を振りコマを進める点と、各交通機関には、排出する CO2 量が定められており、ゴールの順位と CO2 量の順位により、最終順位を決定する点が挙げられる。

2007 年以後、北海道開発局札幌開発建設部により札幌市版、北海道運輸局により登別市版、当別町地域公共交通活性化協議会により当別版等が作成されている。

図 2-6　恵庭市の交通すごろく（北海道運輸局）

① ミッションカードをめくる
② 『スタート』からミッション達成をめざす。
③ 交通カードを選び、サイコロをふって進む
④ ミッションの場所に着いたら、1回、STOP！！
⑤『ゴール』へ向い、着いたら終了

■注意点
低学年の使用交通カードは、徒歩・バス・JR
高学年の使用交通カードは、徒歩・バス・JR・クルマ

⑥交通カードの枚数からCO2排出量を計算（計算シート有り）

	徒歩	JR	バス	クルマ
ふる サイコロ数	1個	1個 (線路を進める)	2個	3個
CO2排出量 (1枚当り)	0kg	1kg	3kg	10kg

⑦『ゴール』到着の順位
（ゴール到着が一番早いひとが1位）
＋
CO2排出量の順位
（CO2排出量が一番少ないひとが1位）
→ 最終順位決定
2つの順位をたして、その値が小さいと勝ち

図 2-7　交通すごろくのルール

図 2-8　交通すごろく（北海道開発局札幌開発建設部）

図 2-9　登別市の交通すごろく（北海道運輸局）

歩・歩・笑み京都観光プラン

京都駅

行き方

アクセス早見表から乗継情報を記入

分　分　分　分

アクセス早見表から所要時間を記入.（早見表には渋滞時を想定したクルマの所用時間を記載しておく）

観光地のイラストを記入

みどころ

ガイド本を参考にみどころを記入

行き方

分　分　分　分

みどころ

行き方

分　分　分　分

みどころ

行き方

分　分　分　分

京都駅

テーマ

季節とテーマを設定

CO_2を比べてみよう！

VS

の合計＝____分×0．01＝①_____kg

の合計＝____分×0．05＝②_____kg

の合計＝____分×0．09＝③_____kg

歩・歩・笑みプランの場合　①＋②＝_____kg

マイカー観光の場合　③　＝_____kg

だから、歩・歩・笑みプランは_____kgもエコ！

健康にいいのはどっち？

VS

の合計＝____分×2．18＝①_____kcal

の合計＝____分×3．30＝②_____kcal

の合計＝____分×1．68＝③_____kcal

歩・歩・笑みプランの場合 ①＋②＝_____kcal

マイカー観光の場合　③　＝_____kcal

だから、歩・歩・笑みプランは_____kcalも消費！

満足ポイント

予め観光地毎のポイントを設定（世界遺産は高いなど）

＋

エコポイント

予めマイカー観光との差に応じてポイントを設定

＋

健康ポイント

予めマイカー観光との差に応じてポイントを設定

＝

歩・歩・笑みポイント

歩・歩・笑みプランをおすすめする理由

環境，健康面以外に，マイカー観光よりもよいところを記入

秦野市における新たな交通スリム化教育の取り組みについて
～本町小学校におけるガリバーマップを用いた授業～

１　秦野市における小学生を対象とした交通環境学習の取り組み

秦野市では、朝の通勤時間帯の交通渋滞の緩和等を目的に、平成１７年度から５か年間、「はだの交通スリム化プロジェクト」として、自動車の効率的な利用や公共交通への転換などを呼び掛ける交通需要マネジメント（ＴＤＭ）施策を実施し、その施策のひとつとして、『交通スリム化教育（ＴＤＭ教育）』を実施してきました。

『交通スリム化教育』は半日程度の授業と関連するアンケート調査などを通じて、環境にやさしい交通利用意識を身につけるきっかけの場とするものであり、筑波大学大学院システム情報工学研究科　谷口綾子准教授に監修いただきながら、教育委員会教育指導課と公共交通所管課が連携して取り組んできました。各小学校の先生方の協力のもと、平成１７～２１年度の５か年で市内全１３小学校にて交通スリム化教育を実施しました。

また、平成２２年度以降も継続して交通スリム化教育を実施しており、平成２５年度で２巡目の取組みが終了しました。

秦野市では、『交通スリム化教育』を定着させるため、小学校主体の取組みへの移行を検討してきました。その一環として、平成２２年度からは夏休みの期間中に小学校の担任の先生を対象に有識者の講演、模擬授業などからなる研修会を実施してきました。その結果、学校の先生が一貫して授業を担当できるようになりました。また、本町小学校、鶴巻小学校をモデル校とし、複数年に１回の取組みではなく、通常の授業の中で毎年『交通スリム化教育』を実施するための仕組みづくりを検討しました。

本町小学校では今年度新たにガリバーマップを用いた授業（ガリバーマップを用いた学習、座学、行動プランの作成からなる授業）を試行しました。この授業は、交通エコロジー・モビリティ財団の「モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）にかかわる学校支援制度」の支援を受けるとともに、筑波大学大学院公共心理研究室（谷口綾子研究室）にガリバーマップの制作、授業支援などの御協力をいただき、実施しました。

（交通スリム化教育の目的）

ア　小学生に交通スリム化教育を実施する目的

・将来において車だけに頼り過ぎない交通利用意識のきっかけをつくる

・同居のご家族などにも、車の利用を考えてもらうきっかけとする（波及効果を期待）

イ　地域に根ざした継続的な教育とするための実務面からの目的

・外部講師主体型から、現場の先生主体型カリキュラムの定着を図る

・標準教材、副教材を用いた実施の確立を図る

２　本町小学校における新たな取組み（ガリバーマップを用いた授業）

ガリバーマップを用いた学習と座学、行動プランの作成を通して、市内の公共交通機関について学習し、かしこいクルマの使い方を考える機会とします。

まず、ガリバーマップ上を歩き回りながら秦野市を眺めることで地域の公共交通機関や道路網など身近なまちについて興味・関心を高揚させます。また、主な施設に移動する際に利用する手段別に色ブロックを積み上げ、自らの行動を振り返るとともに、地域の交通問題について考えます。そして、パワーポイントでクルマの良い点と悪い点について学び、かしこいクルマの使い方について考えます。

次に行動プラン作成を通して、市内の目的地を移動する際にどのような交通手段があるのかを知り、ＴＰＯにあわせて交通手段を選ぶことを学びます。最後にもう一度ガリバーマップ上に交通手段別の色ブロックを積み上げることにより、授業で学んだことを踏まえて、交通手段を選択するということを自分のこととして再認識する機会にします。

※ガリバーマップとは
４m四方の布に市内の道路や公共施設などをプリントしたもの。
地図上を歩き回ることで、ガリバーになった気分でまちを高いところから眺めることができる。（筑波大学公共心理研究室が作成・寄贈）。

３　授業内容

①授業構成
１日４時限を使った授業をクラスごとに実施します。授業はガリバーマップとパワーポイントを使った座学を２時間、行動プランを作成する授業を２時間実施します。

	時間割	授業内容
１時限目	８：45～９：30	ガリバーマップ+座学
２時限目	９：35～10：20	ガリバーマップ+座学
３時限目	10：40～11：25	行動プラン
４時限目	11：30～12：15	行動プラン

②授業内容

ア　ガリバーマップを使った授業と座学

・児童が自由に地図の上を歩き回りながら、人が多く集まる場所を探し、発表します（発表した場所にシールを貼る）。

・人が多く集まる場所にどのような交通手段で移動するか考え、手段ごとに色分けしたブロックを積み重ねます（図①）。

・何色のブロック（どの交通手段）が多いか尋ねます。児童は、なぜみんなクルマ（赤色ブロック）で移動するか考えます。

・児童に「クルマは便利」と「クルマが全てではない」の間で、どのあたりにいるかを考えさせます。（図②）。

・パワーポイントを用いて、クルマに関するお金、健康、環境に関する話をクイズ形式で学びます（図③）。

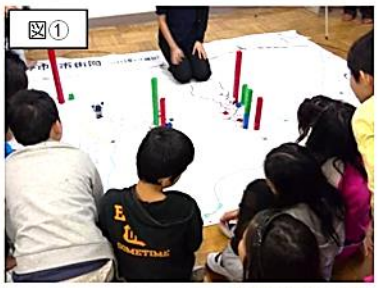
・クイズで学んだことを踏まえて、もう一度「クルマは便利」と「クルマが全てではない」の間で、どのあたりにいるかを考えさせます。（図④）。

・意見を変えた児童、変えなかった児童に理由を聞き講評します。

・授業を踏まえ、今日からできることを班で話し合って、発表します（図⑤）。

・今すぐできることとして、パワーポイントを用いて、「今すぐお家でできる『かしこいクルマの使い方』」を学びます。

図①



図②

図③

図④

図⑤

イ　行動プランの作成

- 作成方法は大判の図面等を使用し、担任の先生から説明します（図⑥）。
- 小学校を起点に市内２箇所を移動するプラン（交通手段）を作成します（図⑦⑧）。
- 交通手段の偏りを防いだり、児童に TPO にあわせた移動手段を考えてもらうため、くじ引きを行い、グループごとに移動の条件を決めます（条件の例：おじいちゃん、おばあちゃんや小さな子ども一緒に移動するなど）。
- 個人（もしくは２人１組）で行動プランを作成したら、班で話し合いを行い、各班で良いと思った案を選び発表します（図⑨）。
- もう一度ガリバーマップを広げ、授業で学んだことを踏まえて、もう一度、交通手段を選びます。交通手段を選択するということを自分のこととして再認識する機会になります（図⑩）。
- 最後に担任の先生から講評を行います。

図⑥

図⑦

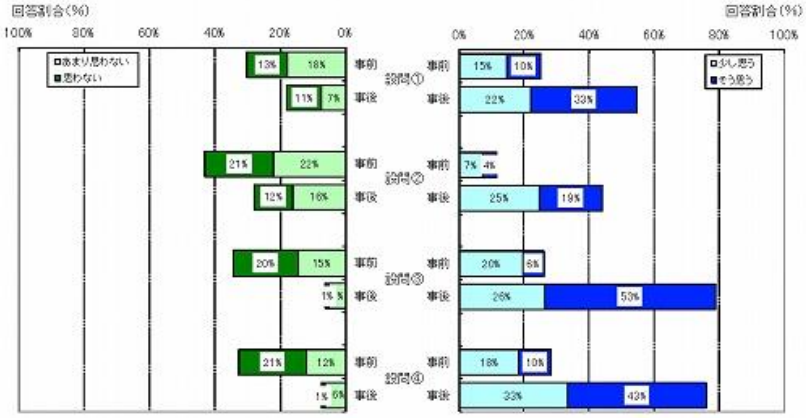
図⑧

図⑨

図⑩

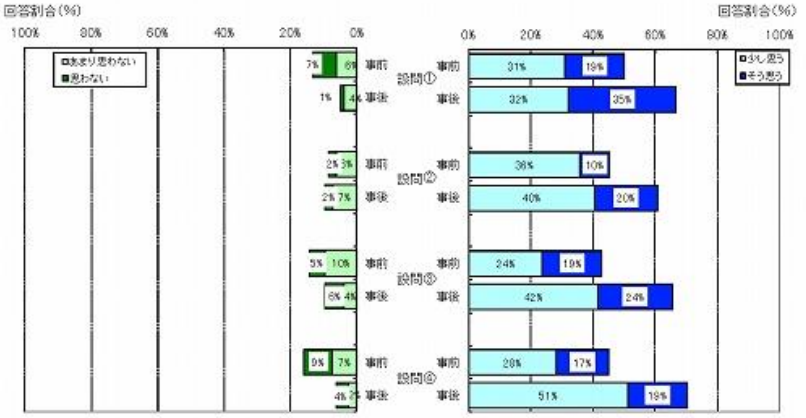
4　授業の効果

児童、保護者に対するアンケート調査の結果、授業の実施により、児童、保護者の公共交通や交通環境に対する意識が向上しました。



① もっと良いまちにするためには、よいバス、鉄道が必要
② まちの環境を良くするためには、バス、鉄道をもっと使うことが必要だ
③ できるだけ、クルマの利用を控えなければならないと思いますか？
④ 「できるだけクルマ利用を控えよう」と思いますか？

図　児童の意識の変化（主要な項目）

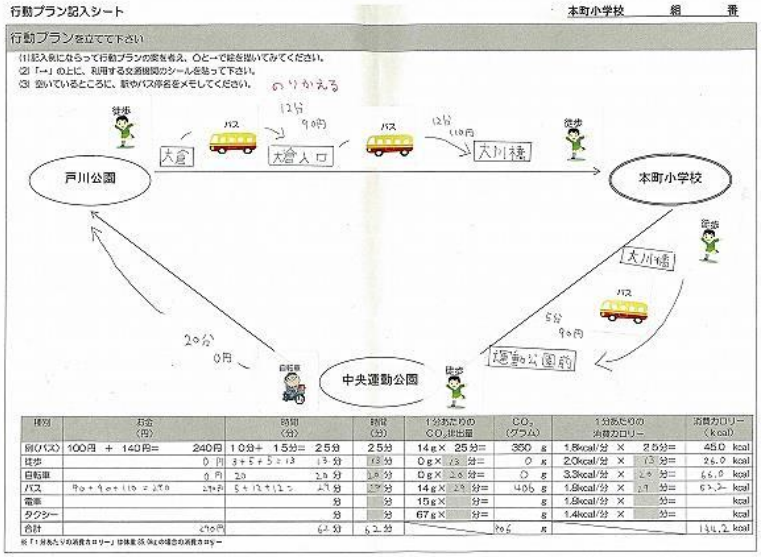


① もっと良いまちにするためには、よいバス、鉄道が必要
② まちの環境を良くするためには、バス、鉄道をもっと使うことが必要だ
③ できるだけ、クルマの利用を控えなければならないと思いますか？
④ 「できるだけクルマ利用を控えよう」と思いますか？

図　保護者の意識の変化（主要な項目）

※保護者に対しては、児童に副読本を配布し、帰宅後に家庭で交通スリム化教育の授業の話をしてもらうようお願いしており、それらの効果として、意識が改善していると想定される。

（参考）　児童が作成した行動プランの例



行動プラン記入シート　　本町小学校　　組　　番

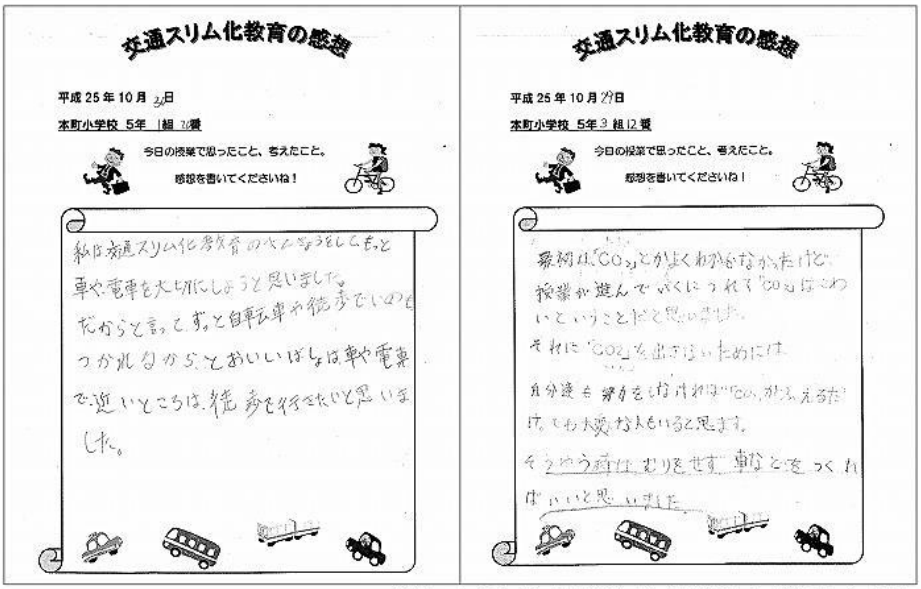
行動プランを立てて下さい

(1)記入例にならって行動プランの案を考え、○と→で絵を描いてみてください。
(2)「→」の上に、利用する交通機関のシールを貼って下さい。
(3)空いているところに、駅やバス停名をメモしてください。

種別	お金（円）	時間（分）	時間（分）	1分あたりの CO_2 排出量	CO_2（グラム）	1分あたりの消費カロリー	消費カロリー（kcal）
列(バス)	100円 ＋ 140円＝ 240円	10分＋ 15分＝ 25分	25分	14g× 25分＝	350 g	1.8kcal/分 × 25分＝	45.0 kcal
徒歩	0 円	3＋5＋5＝13 13分	13分	0g× 13分＝	0 g	2.0kcal/分 × 13分＝	26.0 kcal
自転車	0 円	20 20分	20分	0g× 20分＝	0 g	3.3kcal/分 × 20分＝	66.0 kcal
バス	90＋90＋110＝290 290円	5＋12＋12＝ 29分	29分	14g× 29分＝	406 g	1.8kcal/分 × 29分＝	52.2 kcal
電車		分	分	15g× 分＝	g	1.8kcal/分 × 分＝	kcal
タクシー		分	分	67g× 分＝	g	1.4kcal/分 × 分＝	kcal
合計	270円	62 分	62分		756 g		184.2 kcal

※「1分あたりの消費カロリー」は体重55kgの場合の消費カロリー

（参考）　児童の感想文の例



交通スリム化教育の感想

平成25年10月24日
本町小学校 5年 1組 7番

今日の授業で思ったこと、考えたこと。
感想を書いてくださいね！

私は交通スリム化教育のべんきょうをしてもっと車や電車を大切にしようと思いました。だからと言ってずっと自転車や徒歩でいのつかれるからとおいいばしょは車や電車で近いところは徒歩をすればいいと思いました。

交通スリム化教育の感想

平成25年10月29日
本町小学校 5年3組12番

今日の授業で思ったこと、考えたこと。
感想を書いてくださいね！

最初はCO_2とかよくわかるなかったけど授業が進んでいくにつれてCO_2はこわいということだと思いました。
それにCO_2を出さないためには自分達も努力をしなければCO_2かえるだけでも大変なんもいると思います。
そうゆう時はむりをせず車などをつくればいいと思いました。

発行　秦野市都市部公共交通推進課　平成26年2月

京都クエスト

京のまちに現れた怪物を倒し平和を取り戻せ！

KYOTO QUEST

タイトル制作中

STORY 観光客でにぎわう京都 ―

そこに魔王「クル・マーシカ=ノラナーイ」が現れた。
クル・マーシカの攻撃で、まちには渋滞や事故が頻発し、立ち込める排気ガスが空気を汚していた。
まちの状況を見かねた勇者「ア・ルーク」は一人クル・マーシカに戦いを挑んだ！各観光名所にはびこる怪物を退治し、京都をさらに魅力的な都市へと変える為に…。

001 勇者の剣「ドラゴンソード」を手にすべく、まずは嵐山へ。観光客でいっぱいの嵐山は、もちろん人混みを避けてクルマでスイスイと移動

コマンド
はい→14　いいえ→07

イラスト

002 京都駅に戻ると、僧侶が突然話しかけてきた。「なんでも祇園に癒しの魔法を使う舞妓がおるそうな。仲間に加えてみてはどうか？」

コマンド
→08

イラスト

003 鞍馬寺でカラス天狗が待っていた。「お主、クルマを使わない1日（A）とクルマを1時間使う1日（B）、排出するCO_2の重さの違いを知っておるか？」

コマンド
Bが1.5倍多い→16
Bが2倍多い→09

イラスト

004 舞妓に焼き鮎を渡すと、「焼き鮎、ウチの大好物どすねん。嬉しいわ。仲間になってもよろしおす。」仲間も増えたので、次の目的地、清水寺までマイカーで行くとする。

コマンド
はい→06　いいえ→10

イラスト

005 突然、天から声が鳴り響いた。「京都では歩くと発見がある。それを安易にクルマで移動するとは愚かな。それに移動に時間がとられて行ける場所が減るであろう！…最初からやり直せい」

コマンド
最初に戻る→01

006 「清水さんは八坂さん通って円山公園、高台寺ぬけたらすぐどすえ。あんさんもまだまだどすな。初めからやり直したらどうどす？」

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

007 天龍寺で癒しの魔法「カーシェアリング」を手に入れた！渡月橋から徒歩10分嵯峨嵐山駅からJR山陰本線で20分で京都に戻る。

コマンド
はい→02
クルマで京都に戻る→05

イラスト

008 一見さんお断りのお茶屋に無理やり入り舞妓を仲間にしようとしたが「ウチ無粋な人は好きやおへん。鞍馬で修行してきなはれ。」と追い返された。

コマンド
→03

009 「なかなか見どころのある奴じゃ。これを持っていけい。」カラス天狗から焼き鮎をもらった。折角なのでパワースポットの鞍馬から貴船まで1時間半歩く。

コマンド
→04

イラスト

010 清水寺に着くと住職から怪物の力を弱める魔法「パーク・アンド・ライド」と「ロードプライシング」を授かった。住職が魔法の説明をしてくれると言う。

コマンド
→11

011 パーク・アンド・ライド
渋滞緩和を目的として途中で駅周辺の駐車場にクルマを停めてもらいバスや電車などの交通機関への乗り継ぎを促す魔法。

コマンド
→12

イラスト

012 ロードプライシング
交通渋滞や大気環境の改善を図るため、特定の地域に進入、または通行するクルマから料金を徴収する魔法。

コマンド
→13

イラスト

013 清水寺から四条に戻ると、2人ほど仲間入りを志願している。どちらかを仲間にして冒険を続けよう。
01）タクシー乗り「タク・シィ」
02）自転車乗り「チャーリー」

コマンド
→15

イラスト

014 「観光シーズン嵐山は京都からクルマで行けば1時間以上かかるが、電車だと16分。わざわざクルマを選ぶとは馬鹿な奴よ…」背後から怪物に襲われ、ア・ルークは散った…

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

015 「ア・ルークはん。噂で聞いたんどすが、銀閣寺に敵の直属の精鋭クル・マチュー・シーン部隊が集結しているそうです。急いで向かいましょう。」

コマンド
バスで移動する→17
タクシーで移動する→18

016 「まだまだ修行不足のようじゃ。このサイトを見て勉強せい」
↓
http://www.jcomm.or.jp/info/index.html

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

イラスト

017 「よく来たな。勇者ア・ルーク。我が攻撃を受けてみよ！」と、いきなりクル・マチュー・シーンが襲いかかってきた。攻撃を受けたア・ルークは瀕死の重傷を負った。

コマンド
→19

イラスト

018 「四条から銀閣寺までタクシー代なんぼかかると思うてはんの？！四条にはバス停もぎょうさんあるんやし、勉強不足やわ！」と舞妓に愛想つかされた。

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

019 ア・ルークを助けるため舞妓の癒しの魔法が発動した！ただ、自動車分担率を減らさないと魔法は成功しない。どれだけ減らす？

コマンド
28%を20%以下に→26
18%を10%以下に→28

イラスト

020 敵の精鋭を破ったア・ルーク一行は敵の本拠地を探るためいったん京なかに戻った。しかし、そこには強力な結界が張り巡らされていて出ることができない！

コマンド
→21

イラスト

021 「この結界を取り去るには…」

コマンド
以前、入った仲間が
「タク・シィ」の場合→24
「チャーリー」の場合→27

イラスト

022 路地裏に自転車を置き始めたことで大量の自転車が京なかにあふれるようになった。勇者ア・ルークは勇者の称号を剥奪された。。。

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

（分担率：すべての「移動」の割合に占める、クルマの移動の割合）

イラスト

023 聞く所によるとクル・マーシカ・ノラナーイは本拠地を金閣寺に定めているらしい。

コマンド
LRTやBRTで移動する→25
バスで移動する→29

LRT…次世代型路面電車
BRT…環境にやさしい高機能バスシステム

024 「タクシーは乗合タクシーなどとても便利なのですが、大量の空車タクシーの走行などはクル・マーシカを逆に元気づけてしまいます。今回はお役に立てません。」

コマンド
最初に戻る→01

025 LRTやBRTはまだ投入されていない。将来を担う公共交通システムだが今はバスを使うがよい。

コマンド
→23

イラスト

026 ア・ルークは復活。クル・マチュー・シーンに反撃！「無念…クル・マ王国バンザーイ！」クル・マチュー・シーンから秘剣「歩歩笑み（ほほえみ）」を手に入れた。

コマンド
→20

027 仲間のチャーリーの攻撃が結界を破った。しかし、これからは徒歩で戦いに臨まなければいけない。自転車は？

コマンド
路地裏に置いておく→22
京なかにたくさんある
駐輪場に置いておく→23

028 京都市と同規模の世界の他都市でも自動車の依存率は2割程度。京都も同じ。10%以下は残念ながらこれからの話。魔法は失敗に終わり、ア・ルークは散った…

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

029 ついに最終決戦の地、金閣寺へとたどり着いた。その前に徒歩圏内にある近隣の龍安寺や妙心寺、仁和寺を巡り英気を養おう。

コマンド
→30

イラスト

030

「勇者ア・ルークとその仲間よ。よくぞたどり着いた。しかし、これまでだ！」どこからともなく、クル・マーシカの声が聴こえるが姿が見えない！どうする？

コマンド
以前覚えた呪文
「パーク・アンド・ライド」を唱える→31
「ロードプライシング」を唱える→32

031 「ワシの魔力の源、クルマの交通量が京都南インターの近くに実験的に設置された駐車場のせいで減っていく！」クル・マーシカは苦しみ出した！

コマンド
トドメをさす→33
癒しの魔法を使う→34

032 「なぜそのような未来魔法を知っている？！しかし、残念だったな。現在その魔法はまだ発動しておらん！自らの不運を嘆くがよい！」勇者一行はあえなく破れ去った。

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

033 「ワシだけが滅びると思うなよ！」クル・マーシカは辺り一帯を巻き込んで自爆した。勇者一行は全滅した。

コマンド
最初に戻る→01

イラスト

034 「この癒しの魔法は「カーシェアリング」ではないか！」クル・マーシカは驚き涙を浮かべた。「予め登録した会員だけに対して自動車を貸し出す合理的なシステム…。もはやクルマに頼りすぎるワシの時代は終わった。」

FIN

こうして「クル・マーシカ・ノラナーイ」は悔い改め、勇者ア・ルークのもたらした魔法で京都のまちは「人が主役の魅力あるまち」へと生まれ変わったのであった。

イラスト　イラスト

メリット その1 歩くと… 健康にいい！
クルマの移動は力カリー消費量が低く、肥満になりやすくなります。歩くことで肥満を防止しやすくなります。

メリット その2 歩くと… 環境にいい！
クルマの利用時間を減らすことで地球温暖化ガスであるCO2の排出を減らすことができます。

メリット その3 歩くと… まちが賑わう！
まちを歩くことで、まちなかで買い物や外食をするようになり、結果的にまちが少よりもちょと賑わいます。

京都市都市計画局
歩くまち京都推進室　〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地　電話：075-222-3483

平成 26 年度 第３回学校ＭＭ検討会　摘録

１　日　時　　平成 27 年 1 月 19 日（月）　午後 6 時 05 分～午後 7 時 40 分

２　場　所　　システム科学研究所　大会議室

３　出席者　　別紙出席者名簿

４　議事内容

● 今後の進め方について

（水山座長）

○　ＤＶＤの配布と一緒に配布するアンケートについて、普通に配布するだけでは、回答してもらえないのではないか。環境研の先生に必ず観てくださいというように、依頼した方が良い。

（岡本教諭）

○　環境研で活発に活動している教諭は６名程度。活動をあまりしていない教諭を含めると 30 名程度。

（藤井教授）

○　全校配布と、環境研の先生と、両方とも実施するということは可能ではないか。

（水山座長）

○　ＤＶＤは京都市内全校配布とした上で、環境研を通じて、アンケートに回答いただける研の先生に追加配布するものとする。

○　アンケートについて、「歩くまち京都」は●●ですが、イメージできますか？といった具合に、設問の中で情報提供をする形式に修正してはどうか。

（藤井教授）

○　アンケートのタイトルは、モビリティ・マネジメント教育という言葉は使わずに、「歩くまち京都」学習とした方が、分かりやすい。

● 小学校におけるモビリティ・マネジメント教育の普及に向けて支援事業について

（京都市　吉村）

○ ＤＶＤの配布がゴールではないので、来年度以降もモビリティ・マネジメント教育の普及に向けて、取り組んでいく必要があると認識している。

（水山座長）

○ 支援対象は、小学校だけとなっているが、今後、中学校にも拡大可能か確認したい。

○ 事務局として、教育委員会が参加していることが要件となっているので、本検討会のメンバーとして申請書の記載をお認めいただきたい。

○ あともう一歩で、達成するということが、伝わるように申請書を工夫する。

（藤井教授）

○ 支援事業の採択にあたって、これまでの実績と支援事業終了後に継続することをアピールすべき。

（宮川）

○ これまでの実績としては、副読本の作成も記載しておいた方が良い。

● 来年度以降の進め方

（林主事）

○ 環境研など既存の組織と連携していかないと拡大することは難しい。

○ MMの授業の時間を確保するには、単発の授業だけでなく、総合学習の単元パッケージ（8 時間／15 時間）として用意したい。ただし、既存のカリキュラムと入れ替える必要がある。

○ 教育委員会の総合担当の指導主事（ツジモト先生）は、各学校の総合学習の単元内容を把握されている。

（水山座長）

○ 環境研の西田先生に、この検討会に一度来てもらってはどうか。

（岡本教諭）

○ 環境研は小さい組織であるが、まずはモビリティ・マネジメント教育について、知ってもらうことが重要。環境研のメンバーには、MM教育のモデル授業は浸透している。

○ 学校の年間計画は決まっており、何かをやめて代わりにMMを実施することはハードルが高い。

（水山座長）

○　どの単元で、授業時間の確保ができそうかを検討するために、現在実施されている総合学習の単元を、来年度調査する。

（飯野教諭）

○　環境教育を教科の中にどのように組み込んで行くかというスタンスで、環境教育スタンダードを作成した。五年生の社会の自動車産業・エコカーの部分にはMM教育が組み込み易い。

（藤井教授）

○　中学年の総合で「京都のまちづくり」を単元としている学校を対象としてMM教育の授業を組み込んでもらえないか説明に行くという方法が考えられる。

（水山座長）

○　面（私立小学校や京都府）での広げ方とともに、縦（中学校や高校）への広げ方も問題意識として持っている。

（藤井教授）

○　京都市民の実践しているまちづくりと連携した授業が展開できれば、全国でも例のないMM教育が実践できる。

以上

平成 27 年度 第 1 回学校ＭＭ検討会　摘録

１　日　時　　平成 27 年 8 月 20 日（木）　午後 16 時 30 分～午後 17 時 50 分

２　場　所　　京都市役所北庁舎２階 都市計画局会議室（西）

３　出席者　　別紙出席者名簿

４　議事内容

● モデル授業のバリエーションについて

（水山座長）

○ モデル授業のバリエーション開発のスケジュールについては，どういう授業ができるかを 10 月の検討会で提案いただいて，2 月の検討会では実施した結果を報告いただきたい。

（渡邉主事）

○ 実施する単元は，社会科に限らず，総合学習でも良いし，社会科の立場から交通に対する授業をするとしたらという提案でも良いのではないか。

（林主事）

○ 三年生の「京都市内の地域を知る」という単元との連携が考えられるのではないか。厳密に社会科にはあてはまらないが，総合学習の時間も活用することになるのではないか。
「交通すごろく」について，実際の路線図と同じでも良いし，共通の盤面で駅名だけ変えるという方法もある。

（水山座長）

○ 地域学習につながるような「交通すごろく」は考えられないだろうか。昨年度まで以上に，どの単元のどこで適用できるかということを考えていきたい。

（岡本課長）

○ 「交通すごろく」も「ガリバーマップ」の方が応用方法のバリエーションが多いので，中学年の「京都市内の地域を知る」の単元においてガリバーマップを活用することを手始めに検討してはどうか。

（渡邉主事）

○ 確かに，布製の大きな地図があれば，色々な授業に使えておもしろいと思う。

（林主事）
○　授業の目的は，公共交通利用促進に繋がることが必要か？

（水山座長）
○　もっと幅広くとらえて良いと考えている。「歩く・まち京都」につながるのであれば良い。

（林主事）
○　そうすると，例えば疎水沿いの道の整備が歩くことを大事にするまちづくりに繋がるといったことも含められるので，工夫のしがいがある。

●　研究指定校の募集について

（渡邉主事）
○　研究指定校でどのようなことをしたいという企画書（募集要領　Ａ４版２枚程度）を事務局で作成いただいて，教育委員会から来年度の研究指定校は１月くらいの支部校長会で募集する。応募する学校は計画書・予算書を提出する。示す。

●「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策の検討について

（水山座長）
○　本件については，次回以降に継続検討としたい。

以上

(2) 第２回検討会

第２回検討会で配布した資料と当日議事録は以下のとおりである。

①議事次第 ……127

②委員名簿 ……128

③出席者名簿 ……129

④各学校 MM 指導案 ……130

⑤「歩くまち・京都」学習実践校募集要項（案） ……136

⑥ガリバーマップ印刷範囲（案） ……141

⑥第１回学校 MM 検討会摘録 ……145

⑦第２回学校 MM 検討会摘録 ……147

平成 27 年度　第２回学校 MM 検討会

日時：平成 27 年 10 月 26 日（月）17 時 30 分～
場所：一般社団法人システム科学研究所会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   モデル授業について
   「歩くまち・京都」学習実践校の募集について
3. 閉会

［配布資料］

出席者名簿

資料－１　地図（六畳サイズにした時の縮尺イメージ）

資料－２　平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集について

第 1 回学校 MM 検討会摘録

平成27年度 学校MM検討会 委員名簿

所属			
京都教育大学	教授	水山 光春	座長
京都大学大学院	教授	藤井 聡	副座長
愛媛大学大学院	教授	松村 暢彦	アドバイザー
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	渡邉 太志	
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	林 正和	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧 紀彦	
京都市立伏見板橋小学校	教諭	笹岡 法道	
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵 心理	

オブザーバー		
京都大学大学院	准教授	神田 佑亮
京都大学大学院	助教	宮川 愛由

事務局		
京都市都市計画局	歩くまち京都推進室担当課長	植田 公一
	歩くまち京都推進室担当課長補佐	吉村 仁志
	歩くまち京都推進室	瀧 明日香
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部長	加藤 信次
	交通環境対策部交通環境企画課担当課長	岡本 英晃

平成27年度 第二回 学校MM検討会 出席者名簿

所　属			
京都教育大学	教授	水山　光春	座長
京都大学大学院	教授	藤井　聡	副座長
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	林　正和	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧　紀彦	
京都市立伏見板橋小学校	教諭	笹岡　法道	
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵　心理	
オブザーバー			
京都大学大学院	助教	宮川　愛由	
事務局			
京都市都市計画局	歩くまち京都推進室担当課長	植田　公一	
	歩くまち京都推進室担当課長補佐	吉村　仁志	
	歩くまち京都推進室	瀧　明日香	
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部交通環境企画課担当課長	岡本　英晃	

第２回学校 MM 検討会

京都市立岩倉北小学校　牧　紀彦

単元構想図

６年生（総合）　わたしたちのくらしと交通（７時間）

であう・つかむ（1時間）

①出かけるときにはクルマか公共交通機関かどちらがよいか話し合う

クルマがよい
- 家から乗ったまま目的地に着ける
- 荷物がたくさん積める
- 公共交通機関よりも早い
- 自分だけの空間がもてる
- **目的地までどのくらい時間がかかるのかな④**

公共交通機関がよい
- 運転しなくていいから楽
- 友達とみんなで乗ることができる
- 電車や地下鉄だと渋滞に巻き込まれない
- クルマだと環境によくない
- **環境面でどのくらい違いがあるのかな④**

クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう

調べる（5時間）

②③遠足で行く市内巡りコースを計画する
- 歴史で学んだ場所に行ってみたい
- 行きたい場所の全てを周るのは不可能だ
- できるだけ効率よく周ることが大事だ
- 所要時間を調べて計画しなければいけない
- クルマで周れたらもっと早いのに
- **目的地までどのくらい時間がかかるか調べよう④**

④クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
- 公共交通機関のほうが早いことがある
- C02 の排出量は公共交通機関のほうがかなり少ない
- 歩くことでカロリーが消費できる
- １台に多くの人が乗れるから渋滞緩和につながる
- 市バスの利用者数はずっと減ってきたのに近年増えている
- **京都市交通局は乗客を増やすためにどんな工夫をしているのだろう⑤**

⑤京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
- 観光地や駅へ向かうバスが増便された
- 夜遅くまで運行するようになった
- 地下鉄の駅にお店が入った
- １０種類もの IC カードが使える
- HP で乗り継ぎ案内が調べられる
- ポケロケのアプリでバスの接近状況がわかる
- 京都市が公共交通機関の利用を進めているそうだ
- **京都市ではどんな取り組みをしているのだろう⑥**

⑥京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
- 「歩くまち・京都」憲章が出された
- パークアンドライドが設けられた
- 歩くことで市民の健康づくりにも役立つそうだ
- 京都らしいまちづくりを進めているそうだ
- 観光客が多いまちだから，よいことかもしれない
- でも不便になることはないかな
- **クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう⑦**

問いかける（1時間）

⑦クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのか話し合う
- いつでもどこでも行くことができるクルマはやはり私たちの暮らしを豊かにしてくれる
- 公共交通機関は環境面でも走路事情においてもよい影響があり，よいのではないか
- 京都は歴史のまちだから，歩くまちのほうが似合っているように思う
- **公共交通機関のよさはわかるけど，登校するときでさえ歩くのがしんどいと思うことがあるから，自信がないな**
- **どんなときでもクルマを使うのではなく，公共交通機関を上手に使っていくことが大事だと思う**
- **歩くまち・京都をみんなで進めていくには，京都にとってなにが大切かをみんなで話し合っていくことが大事だね**

クルマは便利で快適な暮らしをもたらしてきた。一方公共交通機関は，環境面でも道路事情においても見直されてきている。京都に暮らす私たちにとって，どのような社会が豊かなのか，一人一人が未来の京都の姿をえがいていく必要がある。

20151026 深蔵

学校MM指導案

教科：社会科
学年：六年生
単元：歴史学習の単元間

ガリバーマップについて
地域：京都市全域
内容：　（1）重要文化財，国宝，（歴史スポット）を大きく書き込む
（教科書に出てくるもの中心）
（2）各場所間の交通機関を書き込む
（3）（2）に排出 CO2，消費カロリー，時間，を書き込む

授業展開

	学習活動	留意点
導入	1　歴史の学習で登場した京都にある建造部や文化財をガリバーマップで探す。	
展　開1	2　建造物や文化財の特徴を整理する。	・時代，関係する人物，出来事など，一覧表にまとめられるようにする。
展　開2	3　各建造物や文化財への訪問コース，移動方法，コース名を考える。 （例）室町コース 金閣寺→銀閣寺→応仁の乱勃発の地	・色々なルールを決めて移動方法を考える。（例：代金，時間，訪問する数，排出 CO２など） ・市バス一日乗車券や地下鉄乗車券を用いることも考えられる。 ・個人やグループなど実態に応じて変える。 ・縮尺を用いて距離を計算することもできる。 ・建造物や文化財の理解を深めるために，特徴を捉えたコース名を考えられるようにする。
ま　とめ	4　全コースを一冊のパンフレットに仕上げる。	・各グループの提案をコンテスト方式で選ぶことや，国語の授業とクロスで行うこともできる。

1 単 元　環境を守るわたしたち（7時間）

1 目　　標　身の回りの生活環境や公害に関心をもって調べ，公害とわたしたちの生活や産業とのかかわりについて思考・判断して，公害から国民の健康や生活環境を守るためには，行政や企業，そして国民一人一人の努力と協力が必要であることを理解し，表現する。

2 指導計画　（1）京都市の水資源や鴨川の汚れの変化に関心をもち，学習問題をつくり，予想や計画を立てられるようにする。（2時間）

（2）きれいな鴨川を取り戻すための取組を，昔の状況と関連付けて説明できるようにする。（1時間）

（3）鴨川のきれいな環境を守るための取組について理解できるようにする。（1時間）

（4）京都の環境を守るための市や市民の取組や地球温暖化の現状を調べ，これから大切なことを考えられるようにする。（2時間）

（5）それぞれの立場の取り組みをまとめ，学習問題に対するこたえを説明できるようにする。（1時間）

3 展開例

（4）京都の環境を守るための市や市民の取組や地球環境の現状を調べ，これから大切なことを考えられるようにする。（2/2時間）

本時の目標　環境を守るために，京都市がどのような取組をしているのかを調べ，これから大切なことを考えている。

学　習　内　容	留　意　点	資　料
○前時までの学習を想起して，学習問題を確認する。 ・京都市では２０２０年までに二酸化炭素の排出量を減らしたいと考えている。	・前時の学習を想起することで，二酸化炭素を減らそうとしていることを確認する。	資料1 京都市の二酸化炭素の排出量がわかるグラフ
学習問題：京都市ではどのようにして二酸化炭素の量を減らそうとしているのだろう。		
○学習問題について予想する。 ・二酸化炭素量を減らすために，公共交通機関を使って移動するように，京都市民に呼びかけたんじゃないかな。 ・エコカーを利用するように呼びかけたんじゃないかな。 ・京都市は，工場から出る二酸化炭素量を減らすきまりを作ったんじゃないかな。	・京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組に着目して話し合うことで，環境を良くする取組を予想することができるようにする。	

○京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組について調べる。 ・「歩くまち・京都」憲章をつくり，環境について呼びかけている。 ・京都市民に，公共交通機関を利用したり，歩いたりすることを進めて，環境を良くしようとしている。 ・天ぷら油を使った市バスなどが京都市内を走っている。 ・エアコンの使用量を減らすように呼びかけたり，再生可能エネルギーの普及をひろげたりしている。 ・木材の魅力を発信し，木材を積極的に使用してもらうことを呼びかけている。 ○学習を通して考えたことをまとめる。 ・京都市が二酸化炭素を減らすために「歩くまち・京都」憲章をしていることがわかった。このことから，車は便利だけど，環境のことを考えると公共交通機関でいけるところは，なるべく利用していきたいと考えた。 ・京都市は「歩くまち・京都」憲章を定め，環境にやさしいまちづくりを目指しているので，良いと思う。みんながそれを意識して，市バスや地下鉄を利用したり，歩いたりするなど，市民一人一人ができることから取り組んでいけば良いと思う。 ・京都市では，環境をよくするために様々な取組をしていることがわかった。このことから，京都市民が協力して環境にやさしい取組を積極的にする必要があると考えた。	◇資料を提示することで，京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組について理解できるようにする。 ◇二酸化炭素の量を理解するために公共交通機関と自動車の二酸化炭素量を比較することができる資料を提示する。	資料2 二酸化炭素排出量を減らすための京都市の取組がわかる資料 資料3 二酸化炭素の排出量を示したグラフ 評価 【観察・資料活用の技能】 京都市の環境を守るための取組について資料などから読み取っている。 （発言・ノート）

4　板書例

京都市ではどのようにして二酸化炭素の量を減らそうとしているのだろう。

予想

・市バスや地下鉄などの公共交通機関を使って移動することを呼びかけている
・エコカーを利用することを呼びかけている
・工場から出る二酸化炭素量を減らすきまりを出している

調べ　京都市の取組

・「歩くまち・京都」憲章をつくって，市民に呼びかけている。
・公共交通機関を利用したり，歩いたりすることを進めている。
・天ぷら油を使った市バスなどが京都市内に走っている。
・エアコンの使用量を減らすために節電を呼びかけている。
・京都市内で生産された木材を積極的に使用することを呼びかけている。

↓

・環境のことを考えて公共交通機関を積極的に利用する。
・京都市は「歩くまち・京都」憲章を意識して，市民一人一人ができることから取り組んでいくことを期待している。
・環境を良くするために，京都市民が協力して環境を良くする取組を積極的に取り組む必要がある。

（文章番号 XXXXXX）
平成 27 年●月●日

京都市立小学校長各位

京都市都市計画局
歩くまち京都推進室
（担当　吉村，瀧　222-3483）

平成 28 年度　「歩くまち・京都」学習実践校の募集について

京都市が推進する「歩くまち・京都」によるまちづくりと交通に関する政策を題材として，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」を学ぶことを目指した「歩くまち・京都」学習を実践し，その成果を共有する「歩くまち・京都」学習実践校を，別紙実施要項により実施します。

つきましては，平成 28 年度の学習実践校を公募しますので，希望される学校は，下記のとおり，必要書類を作成のうえ，御提出ください。

記

1　提出書類
【様式 1】平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書
【様式 2】平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

2　提出期限
平成 28 年 3 月 7 日（月）【必着】

3　提出方法
FAX により，歩くまち京都推進室宛に提出

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校実施要領（小学校）

1　趣旨

京都市では，「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。この「歩くまち・京都」によるまちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」学習を実践する。

【「歩くまち・京都」の理念・施策内容については，別添のリーフレット参照】

★過年度の冊子とＤＶＤについて言及？サーバーに PDF と動画をアップ？

2　実施内容

（1）学習実践校は，次の公募課題について実施計画を作成し，それに基づいて研究・実践を深める。なお，学習活動においては，「歩くまち・京都」の理念・施策内容の知識の習得のみならず，学校カリキュラムとして系統的な位置づけをめざすことを重視する。

【公募課題】
①教科・領域等についての研究
社会，理科，生活・総合的な学習の時間，特別活動
②教育課題についての実践研究
交通教育，環境教育，公共の精神，社会との関わり，規範意識，生き方探究教育

（2）学習実践校は，年１回以上・２学年以上の公開授業を実施し，研究の成果として指導案等を提出する。また選定された学習実践校が集まって成果発表会を実施するとともに本市のホームページでの発信等によって，研究成果を広く発信するよう努める。

（3）学習実践の実施期間は１年又は２年とする。

3　学習実施校の選定及び経費配分

（1）各学校が提出した実施申請書及び予算計画書を勘案した上で，京都市都市計画局歩くまち京都推進室が学習実践校を選定する。

（2）歩くまち京都推進室は，各学校が提出した実施計画書等をもと，一校あたり 15 万円を上限として，配分金額・費目を決定し，学校経常運営費として配分する。

4　実施スケジュール

平成 28 年 3 月 7 日（月）	実施申請書締切
平成 28 年 3 月末	研究推進校決定通知
平成 28 年 5 月初旬	実施計画書提出
平成 28 年 6 月当初(予定)	学校経常運営費として経費配分
随時	公開授業実施，指導案提出
平成 29 年 3 月	実施報告書提出

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【公募課題】	【研究実施期間】
【研究テーマ】 ※上記公募課題における自校の具体的なテーマを記述すること。	
【研究テーマの設定理由】 ※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。	

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 1 校まで。書式は自由（取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること）。

※下記の点については必ず記述すること。

・ 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

・ 組織体制（教職員・保護者・地域など）

・ 研究成果や課題に対する評価・取組

・ 研究成果の普及方法

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

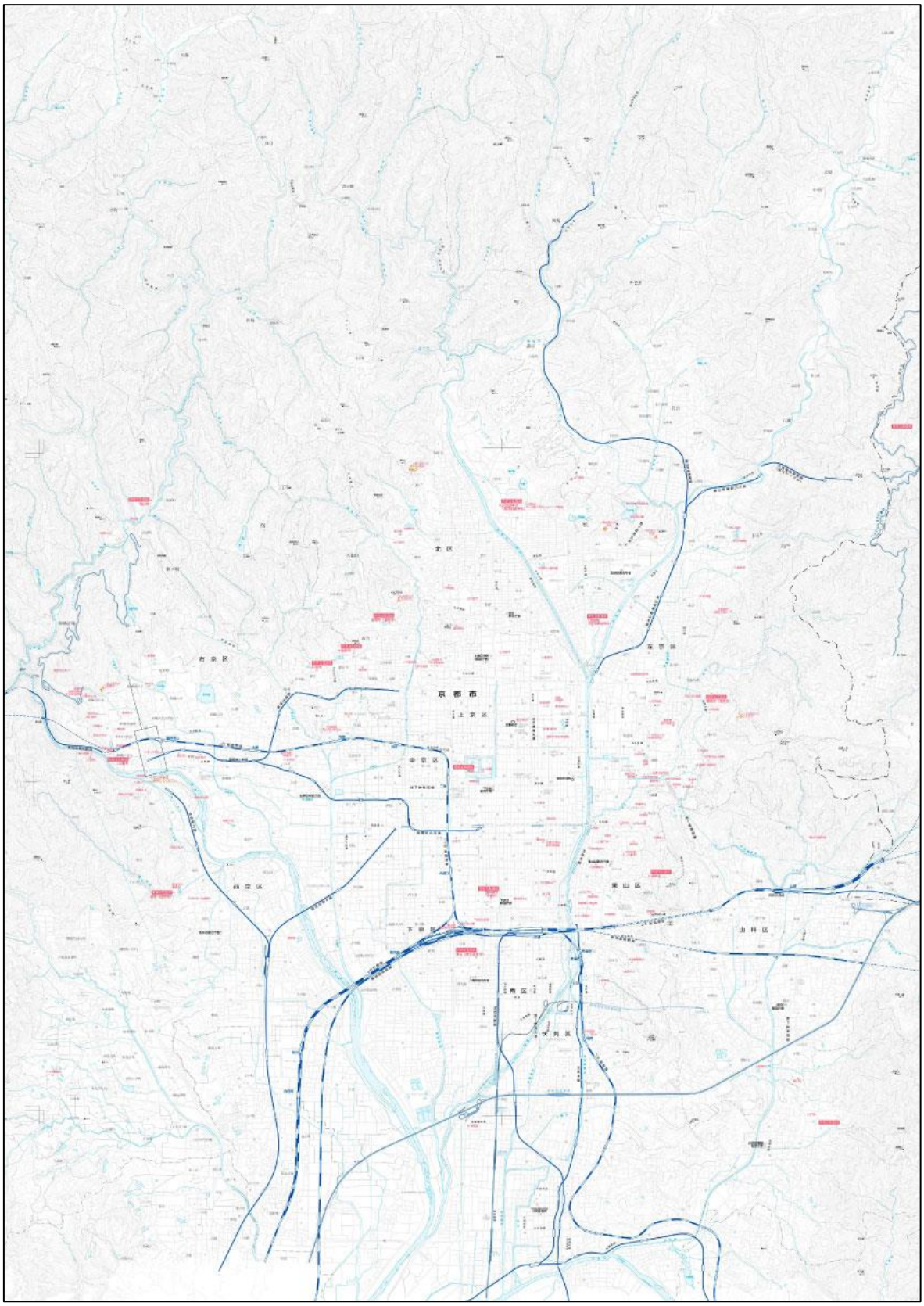
学校名	

※ロの欄は自動計算されます。

費目	使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計	費目合計
報償費					0	0
					0	
					0	
需用費					0	0
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
使用料及び賃借料					0	0
					0	
					0	
					0	
					0	
					0	
備品購入費					0	0
					0	
					0	
					0	
合計						¥0

滋賀県
京都府
大阪府
南丹市
亀岡市
京都市
左京区
北区
右京区
西京区
上京区
中京区
下京区
東山区
山科区
南区
伏見区
向日市
長岡京市
大山崎町
久御山町
八幡市
高槻市
宇治市
城陽市
宇治田原町
茨木市
大津市
草津市
琵琶湖
高島市

西賀茂
京都GC舟山C
釈迦谷山
▲291.2
尺八池
大宮
紫竹
大北山
大文字山
鷹峯
今宮神社
大徳寺
原谷乾町
金閣寺
衣笠
船岡山
▲111.9
龍安寺
衣笠山
福王子
龍安寺
千本釈迦堂
平野
仁和寺
北野
等持院
北野天満宮
御室
▲116.2
妙心寺
千本通
雙ヶ岡
聚楽廻
38
双ヶ岡
181
二条城
山内御池通
上賀
上京


京都市
北区
右京区
中京区
上京区
左京区
西京区
東山区
下京区
山科区
南区
伏見区

今宮神社
▲大文字山
231
五山送り火
左大文字
佛教大
北大路通
世界文化遺産
金閣寺（鹿苑寺）
▲111.7
船岡山
建勲神社
平野
小松原
平野神社
大報恩寺
（千本釈迦堂）
北野天満宮
今出川通
持院
北野
上京署
京　都　市
大将軍
千本通
上　京
府立体育館

平成 27 年度 第 1 回学校ＭＭ検討会　摘録

１　日　時　　平成 27 年 8 月 20 日（木）　午後 16 時 30 分～午後 17 時 50 分

２　場　所　　京都市役所北庁舎２階 都市計画局会議室（西）

３　出席者　　別紙出席者名簿

４　議事内容

● モデル授業のバリエーションについて

（水山座長）

○ モデル授業のバリエーション開発のスケジュールについては，どういう授業ができるかを 10 月の検討会で提案いただいて，2 月の検討会では実施した結果を報告いただきたい。

（渡邉主事）

○ 実施する単元は，社会科に限らず，総合学習でも良いし，社会科の立場から交通に対する授業をするとしたらという提案でも良いのではないか。

（林主事）

○ 三年生の「京都市内の地域を知る」という単元との連携が考えられるのではないか。厳密に社会科にはあてはまらないが，総合学習の時間も活用することになるのではないか。
「交通すごろく」について，実際の路線図と同じでも良いし，共通の盤面で駅名だけ変えるという方法もある。

（水山座長）

○ 地域学習につながるような「交通すごろく」は考えられないだろうか。昨年度まで以上に，どの単元のどこで適用できるかということを考えていきたい。

（岡本課長）

○ 「交通すごろく」も「ガリバーマップ」の方が応用方法のバリエーションが多いので，中学年の「京都市内の地域を知る」の単元においてガリバーマップを活用することを手始めに検討してはどうか。

（渡邉主事）

○ 確かに，布製の大きな地図があれば，色々な授業に使えておもしろいと思う。

（林主事）
○　授業の目的は，公共交通利用促進に繋がることが必要か？

（水山座長）
○　もっと幅広くとらえて良いと考えている。「歩く・まち京都」につながるのであれば良い。

（林主事）
○　そうすると，例えば疎水沿いの道の整備が歩くことを大事にするまちづくりに繋がるといったことも含められるので，工夫のしがいがある。

●　研究指定校の募集について

（渡邉主事）
○　研究指定校でどのようなことをしたいという企画書（募集要領　Ａ４版２枚程度）を事務局で作成いただいて，教育委員会から来年度の研究指定校は１月くらいの支部校長会で募集する。応募する学校は計画書・予算書を提出する。示す。

●「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策の検討について

（水山座長）
○　本件については，次回以降に継続検討としたい。

以上

平成 27 年度 第２回学校ＭＭ検討会　摘録

１　日　時　　平成 27 年 10 月 26 日（月）　午後 17 時 30 分～午後 19 時 20 分

２　場　所　　一般社団法人システム科学研究所　会議室

３　出席者　　別紙出席者名簿

４　議事内容

● モデル授業のバリエーションについて

（水山座長）

○ 先生方から考えていただいたモデル授業についてご紹介ください。

（牧教諭）

【資料説明】

○ ５年生の社会における環境の取組の後に「歩くまちの取組」を取り上げると，自分もできる事として入れるのは意義がある。

（水山座長）

○ 児童が他都市や海外の事例を調べて（知って）考えることが有効ではないか。
現在の歩くまち京都を推進する上での検討内容や苦労を紹介すると意義があるのではないか。

（牧教諭）

○ 交通局の苦労した人の話が聞ければ（出前授業）インパクトが大きく違う。

（水山座長）

○ 他校でも展開できるように普遍性があった方が良い。

（植田課長）

○ バスロケについて，従来のパタパタ式は 200 万円／機であったが，バス停での WiFi の設置に合わせてインターネット経由の表示では 60 万円／機と安価にできる。サークルＫサンクスで表示することも開始した。

（牧教諭）

○ バスロケについては，情報ネットワークの単元の中で，取り上げることもできるかもしれない。

（植田課長）
○　運行管理システムは，パソコンが１台あるだけであるがリアルタイムの配車や過去の記録は残っている。

（深蔵教諭）
【資料説明】

（水山座長）
○　モデル授業を今年度内に開催することは可能か？

（牧教諭）
○　公開ではなく，試しで実施するといことであれば，充分可能である。

（深蔵教諭）
○　今年度の実施は難しい。

（笹倉教諭）
○　モデル授業は２月に実施予定。

（藤井副座長）
○　２種類程度で，全校に配布可能か検討する。

● モデル授業のバリエーションについて
（林主事）
○　全学年とするのは，ハードルが高い。２学年程度としてはどうか。

（水山座長）
○　15 万円程度でも充分有り難いので，もう少し上限を下げて，四校程度採用できるような予算配分にしてはどうか。また選定された学校が集まっての発表会を実施してはどうか。発表会のプレゼン資料を集めて成果物にするとともに市のホームページで公表するといった仕組みを構築されると良い。

（藤井副座長）
○　現場の先生方の協力があって，こその取組であるので，是非ご尽力いただきたい。

（水山座長）
○　研究実施校の募集要領について、渡辺主事とご調整の上、進めていただきたい。

○　次回は２月 22 日　17 時半に実施するものとした。

以上

(3) 第３回検討会

第３回検討会で配布した資料と当日議事録は以下のとおりである。

①議事次第 ……151

②委員名簿 ……152

③出席者名簿 ……153

④モデル授業資料一式（岩倉北小学校） ……154

⑤モデル授業資料一式（伏見板橋小学校） ……162

⑥「歩くまち・京都」学習実践校募集要項 ……170

⑥第２回学校 MM 検討会摘録 ……175

⑦第３回学校 MM 検討会摘録 ……177

平成 27 年度　第３回学校 MM 検討会

日時：平成 28 年３月４日（金）17 時 30 分～
場所：一般社団法人システム科学研究所会議室

議 事 次 第

1. 開会
2. 議事
   モデル授業について
   「歩くまち・京都」学習実践校の募集について
3. 閉会

［配布資料］

出席者名簿
資料－１　平成 27 年度モデル授業資料一式（岩倉北小学校）
資料－２　平成 27 年度モデル授業資料一式（伏見板橋小学校）
資料－３　平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校募集要項
第２回学校 MM 検討会摘録

平成27年度 学校MM検討会 委員名簿

所属			
京都教育大学	教授	水山 光春	座長
京都大学大学院	教授	藤井 聡	副座長
愛媛大学大学院	教授	松村 暢彦	アドバイザー
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	渡邉 太志	
京都市教育委員会	総合教育センター指導主事	林 正和	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧 紀彦	
京都市立伏見板橋小学校	教諭	笹岡 法道	
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵 心理	

オブザーバー		
京都大学大学院	准教授	神田 佑亮
京都大学大学院	助教	宮川 愛由

事務局		
京都市都市計画局	歩くまち京都推進室担当課長	植田 公一
	歩くまち京都推進室担当課長補佐	吉村 仁志
	歩くまち京都推進室	瀧 明日香
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部長	加藤 信次
	交通環境対策部交通環境企画課担当課長	岡本 英晃

平成27年度　第三回 学校MM検討会 出席者名簿

所　属			
京都教育大学	教授	水山　光春	座長
京都市教育委員会	学校指導課首席指導主事	渡邉　太志	
京都市立岩倉北小学校	教諭	牧　紀彦	
京都教育大学附属京都小中学校	教諭	深蔵　心理	
事務局			
京都市都市計画局	歩くまち京都推進室担当課長	植田　公一	
	歩くまち京都推進室	瀧　明日香	
公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団	交通環境対策部長	加藤　信次	
	交通環境対策部交通環境企画課担当課長	岡本　英晃	

第２回学校 MM 検討会

京都市立岩倉北小学校　牧　紀彦

単元構想図

６年生（総合）　わたしたちのくらしと交通（７時間）

であう・つかむ（1時間）

①出かけるときにはクルマか公共交通機関かどちらがよいか話し合う

クルマがよい
- 家から乗ったまま目的地に着ける
- 荷物がたくさん積める
- 公共交通機関よりも早い
- 自分だけの空間がもてる
- **目的地までどのくらい時間がかかるのかな④**

公共交通機関がよい
- 運転しなくていいから楽
- 友達とみんなで乗ることができる
- 電車や地下鉄だと渋滞に巻き込まれない
- クルマだと環境によくない
- **環境面でどのくらい違いがあるのかな④**

クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう

調べる（5時間）

②③遠足で行く市内巡りコースを計画する
- 歴史で学んだ場所に行ってみたい
- 行きたい場所の全てを周るのは不可能だ
- できるだけ効率よく周ることが大事だ
- 所要時間を調べて計画しなければいけない
- クルマで周れたらもっと早いのに
- **目的地までどのくらい時間がかかるか調べよう④**

④クルマと公共交通機関での目的地までの所要時間を調べる
- 公共交通機関のほうが早いことがある
- C02 の排出量は公共交通機関のほうがかなり少ない
- 歩くことでカロリーが消費できる
- １台に多くの人が乗れるから渋滞緩和につながる
- 市バスの利用者数はずっと減ってきたのに近年増えている
- **京都市交通局は乗客を増やすためにどんな工夫をしているのだろう⑤**

⑤京都市交通局の乗客を増やす取組を調べる
- 観光地や駅へ向かうバスが増便された
- 夜遅くまで運行するようになった
- 地下鉄の駅にお店が入った
- １０種類もの IC カードが使える
- HP で乗り継ぎ案内が調べられる
- ポケロケのアプリでバスの接近状況がわかる
- 京都市が公共交通機関の利用を進めているそうだ
- **京都市ではどんな取り組みをしているのだろう⑥**

⑥京都市の公共交通機関の利用を増やすための取組を調べる
- 「歩くまち・京都」憲章が出された
- パークアンドライドが設けられた
- 歩くことで市民の健康づくりにも役立つそうだ
- 京都らしいまちづくりを進めているそうだ
- 観光客が多いまちだから，よいことかもしれない
- でも不便になることはないかな
- **クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのだろう⑦**

問いかける（1時間）

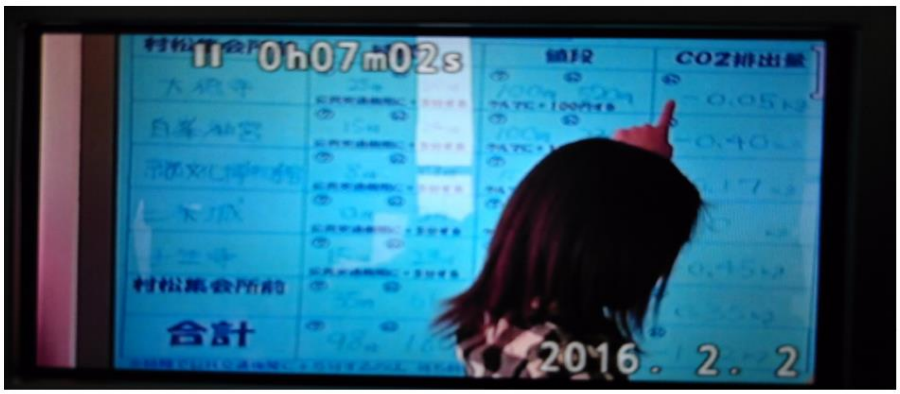
⑦クルマと公共交通機関では，どちらが豊かな暮らしをもたらしてくれるのか話し合う
- いつでもどこでも行くことができるクルマはやはり私たちの暮らしを豊かにしてくれる
- 公共交通機関は環境面でも走路事情においてもよい影響があり，よいのではないか
- 京都は歴史のまちだから，歩くまちのほうが似合っているように思う
- **公共交通機関のよさはわかるけど，登校するときでさえ歩くのがしんどいと思うことがあるから，自信がないな**
- **どんなときでもクルマを使うのではなく，公共交通機関を上手に使っていくことが大事だと思う**
- **歩くまち・京都をみんなで進めていくには，京都にとってなにが大切かをみんなで話し合っていくことが大事だね**

クルマは便利で快適な暮らしをもたらしてきた。一方公共交通機関は，環境面でも道路事情においても見直されてきている。京都に暮らす私たちにとって，どのような社会が豊かなのか，一人一人が未来の京都の姿をえがいていく必要がある。

160202 MM授業

日　時：　平成 28 年 2 月 2 日（14:40～15:25）
主　題：　総合学習
学　級：　京都市立岩倉北小学校 6 年 2 組
授業者　　柱谷〇〇教諭

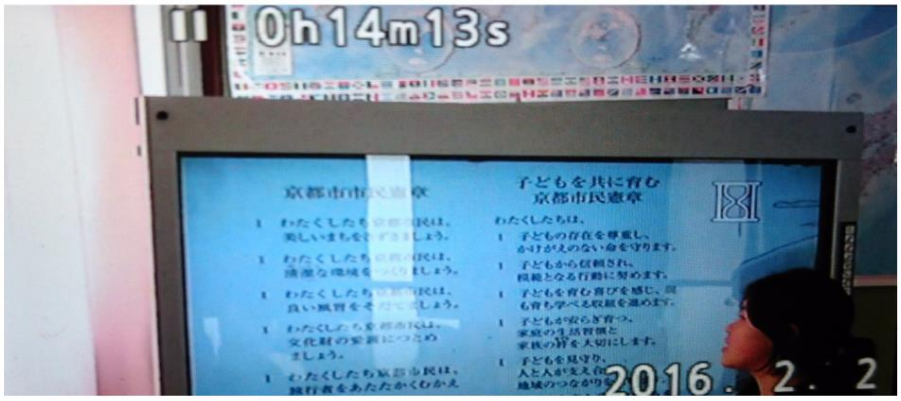
授業記録（総合学習 7/7 時間目）
(〇＝教諭の発言、・＝児童の発言)
〇これまでの振り返りをしましょう。最初はクルマか公共交通かどちらがよいか，圧倒的にクルマでしたね。21 対 1 でした。その後，市内巡りなどをして京都市はどういう工夫をしていたのかを見てきました。今日のテーマは何でしたか？
〇京都市と自分と両方の立場に立って，両面から見てもらいます。
〇ではみなさんの意見を聞きたいと思います。発表できる人？
・僕は公共交通機関の方が豊かだ（生活が豊かになる）と思います。なぜなら，バスの本数も増えたし，環境にもよいと思います。
・僕も公共交通機関が豊かな暮らしをもたらしてくれると思います。そのわけは，環境にいいからです。
・私も公共交通です。なぜなら，他県や海外に行くときに早く行けるし，クルマだと CO_2 もたくさん出ます。
・定員別一人あたりの走る距離では，クルマがバスよりも低いのでクルマの方が豊かです。
・京都市は秋の紅葉シーズンなど観光客のクルマでいっぱいになる。そのときに，地下鉄など公共交通機関の方が豊かな暮らしをもたらしてくれる。
・前，勉強したとき，時間と値段は圧倒的にクルマの方が便利だけれど，CO_2 の排出量は公共交通機関の方が少ないし，バスではハイブリッドのバスとかが最近出てきたし，待ち時間もわかりやすく示してくれるので，公共交通機関の方が豊かな暮らしをもたらしてくれると思います。(以前、学習した数値やまとめた用紙を提示しながら)



・環境では公共交通機関だと思うけど，お年寄りへの便利さではクルマだと思います。
・水素や電気で走るクルマもあるし，クルマも CO_2 の問題は解消しつつあります。
・質問です。水素で走るクルマは爆発の可能性もあると言っていました。安全性では公共交通機関だと思うのですが，どうですか。(質問に対する応答なし)
・私は公共交通機関です。クルマは速くて安くて自分の好きなところへ行けるけど，今，日本

にはたくさんの観光客が来ていて，その人たちには公共交通機関が便利です。また，クルマは知っている人としか乗らないが，公共交通はいろんな人が乗るので，交流することができます。

・僕は公共交通機関です。理由は，豊かさとは個人の問題なので，そのために CO_2 をはき出すと，動物や植物にも影響を与えるし，CO_2 排出量は，バス 1 台で 20 人運べるが，クルマだと 1 台で 5 人なので，公共交通の方が豊かな暮らしになると思います。
・公共交通はクルマに比べて CO_2 を出さないから，いいと思います。
・京都市民憲章に「わたしたち京都市民は美しい町を築きましょう」と書いてあって，そのためには公共交通の方がよいと思います。クルマだと，渋滞にあったりして，環境に悪いと思います。(京都市民憲章を提示しながら)



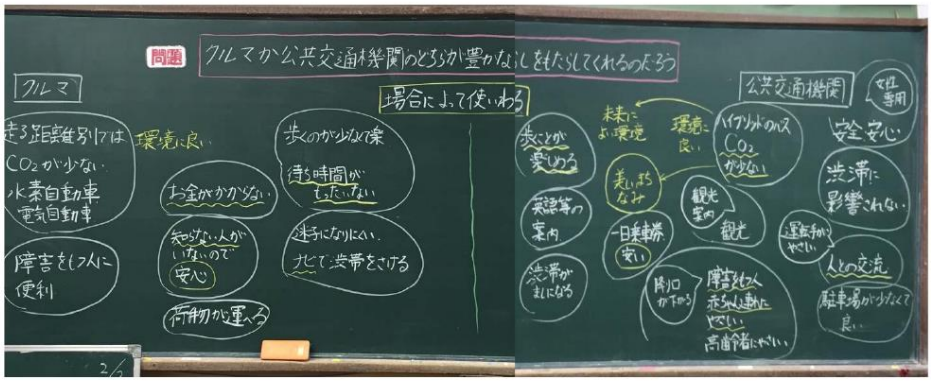
・僕はクルマの方がよいと思う。なぜならクルマの方が，あまりお金がかからないからです。
・環境では公共交通。CO_2 の排出が少ない，でも急いでいるときはクルマ。だから場合によるとおもいます。
・公共交通，わけは高齢者や障害のある人などは運転が難しいが，公共交通ならその人たちは事故を起こさないし、家族も安心だと思うからです。
・前の意見に付け足して，障害者の人や体の不自由な人だけではなく，バスのなかで座席の横に縄があって，ベビーカーとかがつなげるようになっていて，赤ちゃんをつれたお母さんにも便利。
・公共交通。CO_2 が少ないのみならず，「夜バス」があることもわかりました。遅い時間に帰る人にもうれしいバスがある。市内巡りをするときも，京都バスと市バスと地下鉄が一日乗り放題になる。環境にもやさしい。
・公共交通は知らない人がたくさんいるが，クルマの方が知らない人はないので，豊かな暮らしをもたらしてくれる。
・公共だと，ものがあたったりして迷惑だけど，クルマはあたったりしないので，クルマの方がいい。
・公共交通だと，市内巡りのときに，クルマいすの人に板などを設置して，降りている人を見た。クルマには優先席もある。体の不自由な人にもすぐに対応してくれる。
・公共交通は環境にも，体の不自由な人にもいいから，市内巡りのとき，地下鉄の駅で，ホームに人が落ちない工夫があった。
・地下鉄に乗ったとき，「女性専用車両」というのがあって，夜に女性が安心して乗れる工夫ができている。
・公共交通，理由は CO_2 を減らしたり，自分が地球のためにできることを考える機会になった

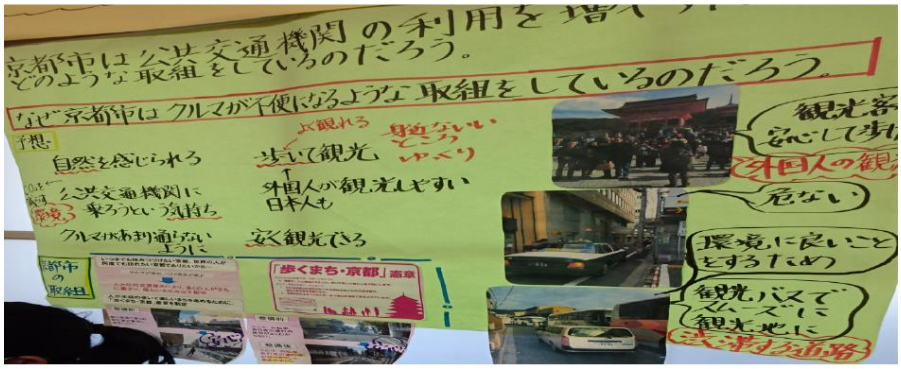
りするからです。
・ハイブリッドのバスというのがあるけれど，みんながみんな電気を使うと，電気料金も上がるし，電気がどこから来るかというと，原子力発電もしてるけど，まだ完全には普及していないし，火力発電だと CO_2 をたくさん出す。同じように CO_2 を出すなら公共交通を使った方がよいと思います。
・クルマだと，お店の周りとか，いっぱい駐車場をつくらないといけないけれど，バスだと，その一台だけで，広い場所をとらなくてよい。
・地下鉄ややバスは安全だけど，バス停から遠くても歩いていかないといけないけれど，クルマだと，目の前に止まるので，その点に関してはクルマの方が便利だと思います。
・その意見に反対で，バスだとバス停で降ろしてもらえて店にいけるけれど，クルマだとまず駐車場を探して，そこから歩かないといけない。
・市内巡りのときにバスがなくて待たなくてはいけなかった。
・市内巡りのときに，バスが乗る人の方に傾いて，乗りやすそうだった。クルマにもそのような設備を搭載したクルマもあるけれど,お年寄りは運転できないので,公共交通機関が良い。
・バス停で反対側で待っていて，乗り過ごしてしまったが，近くの人に次にどのバスに乗ればいいか教えてもらえた。クルマだと個人だけれど，公共交通だといろんな人にふれあえる。
・北野天満宮に行ったときに，バスだと運転手さんがこちらに何がありますよとか，教えてくれる。
・公共交通の方がよい。なぜなら CO_2 をあまり出さないからです。
・公共交通だとバスが止まるときに，このあたりに〇〇がありますといったアナウンスをしてくれる。
・これは前の市内巡りのとき，公共交通の時は，バス停を探し回って迷子になった。その点ではクルマの方が便利だと想う。
・外国語で（表示が）書いてあるので便利。
・クルマだと，他の人がいないので，よい。
・クルマだと増えると渋滞するけれど，公共交通だと渋滞がましになる。
・公共交通，理由は，バスは一日乗車券が使えるし，CO_2 も出さないので豊かな暮らしをすることができるから。
・クルマの方が豊かな暮らしができる。なぜなら，電気や水で走るクルマもあるし，渋滞はナビとかで避けることができる，これから普及していけば豊かな暮らしになると思う。
・クルマとかが増えると，今の京都らしい町並みを壊してしまうが，公共交通はそれひかえているので，公共交通がよい。
・公共の方が京都にとってよいというけれど，観光バスとかの路駐とかが多いので，どちらも同じだと思う。
・今ではクルマにナビを搭載していて，目的地を登録すれば目的地につけるので，クルマ。
・公共交通のデメリットで，公共交通は利用してない席があるが，たくさんの人が座るので，誰かが座るとそこから菌が移って，病気になることがあるかもしれない。
〇ありがとうございます。たくさん意見を出してくれました。それを見て，今日の学習の感想を３分ぐらいで書いてもらおうと思います。
〇想ったことや考えたこと，これからの自分にとってなど，途中でも良いので話してくれる人はいますか？
・私は話し合いをしても，公共交通の方がよい。お年寄りや地球にやさしく，京都の美しい町並みを守るには公共交通だと思います。(拍手)
・今回の学習を終えて，どちらにもよいところと悪いところがあって，そのときによって使い分けていかなければいけないと思いました。これからは悪いところをどう改善するかが課題だとおもいます。(拍手)
・最初は公共交通がよいと思っていたが，全部が全部よいわけではない。クルマは行きたいところにすきなところに行けるのもよいなと思う。使い分けるのが良い。未来のことを考える

と，CO_2で自然や京都の観光地がなくなるのも困る。
○まだ書けてなくてもいいですよ
・公共交通の方がよいと思ったけれど，クルマが安全で CO2 を排出せず，渋滞に影響されないようになってくれば，クルマの良いかもしれないと思いました。
○それでは、これで授業を終わります。ありがとうございました。

（検討会）
◎ はじめは断然，クルマ　→　公共交通に対する信頼は低い地域
◎ 歩くまち京都，歩くまち憲章を知っている人が 5 割と多い
◎ 発表のとき，どちらになるかは子どもしだい(公共交通機関を選ばせようとの意図はない)
◎ 地域性を意識した授業づくりを
◎ 議論を行うには知識が少なく、

（今後，検討すべき話題）
＊ 司会の設定のしかた（設定してあるが意味があまりないのでは）。
＊ ＫＪ法などを用いれば，もっと要領よく整理することができるのではないか。
＊ 同じカテゴリーでも意見が対立しているが，その整理はどうするのか。「楽」「障害を持つ人に便利」「やすい」etc





平成 27 年度 学校ＭＭ検討会　モデル授業ふりかえりの摘録

１　日　時　　平成 28 年 2 月 2 日（火）　午後 15 時 30 分～

２　場　所　　岩倉北小学校

３　出席者　　京都教育大学　水山光春　他２名
岩倉北小学校　牧紀彦
（公財）交通エコロジー・モビリティ財団　岡本英晃
京都市　吉村仁志
（一社）システム科学研究所　東徹、山口嘉子

４　意見概要

○ 歴史の話があったのは京都らしいと感じた。
○ 「歩くまち・京都」憲章の認知度が４～５割あったのが嬉しかった。
○ 最初の授業ではクルマの方が良いという児童が圧倒的に多かった。その後、交通局の取組などを学んでいった。
○ 「公共交通の方が、他の人と交流があるから良い」といった児童の意見は、学んだ成果。
○ この授業だけでは全体が分かりにくい。記録を残す場合には、意見が変わっていくプロセスを記録しておきたい。
○ クルマと公共交通の比較の意見で「楽さ」「安さ」という評価項目は両方に出てきていた。
その違いの内容の整理がなかったので、もったいない。
○ クルマの方が安いという意見に対して、発言しなかったが「クルマは買うのが高い」と言っていた児童がいた。
○ 地方部ではクルマの方が適している状況も多い。一概に公共交通が良いとは言い切れない。
○ 公共交通が良いという結論に落とすのか、どちらも良いという結論に落とすのか、ねらいがはっきりしていなかったので、児童も迷っているように感じた。
○ ＫＪ法的に、意見を紙に書いて黒板に貼れば、意見集約の時間を短縮して、もっと議論を深められたのではないか。
○ できるだけ児童にまかせるのが本校の基本スタンス。
深い知識がないと議論にならないので、この短期集中のカリキュラムでは難しいと考えた。
○ 発表する時に結論を先に言ったり、うまく発言出来ない子がいたら周囲の子が、その子に質問したりする所は、日頃の訓練の成果と感じた。
○ 豊かな暮らしの定義については「自分の立場」でも良いし「京都のために」でも良いとした。
○ 六年生は正義感・建前重視の時期であるので、もっと公共交通一辺倒になるかと思った。
○ 小学校で、どちらが良いのかという授業をすると、一方の方が良いという意見に偏りがちであるが、そうしなかったことが良いと感じた。

○ 岩倉北は公共交通が不便な地域であるという地域性がある。
○ 地域性について、バスに誰も乗らなくなったら、バスが失くなってしまう。そうしたらどうなるかという問いかけがあっても良かったのではないか。
○ 結論が曖昧だったので、このままでは、消化不良になるのではないかと感じた。
○ 最後にふりかえって、論点を整理した方が良かった。

以上

■学校 MM 研究授業記録（６年生）
■日　時　平成 28 年２月２日
■場　所　京都市立岩倉北小学校
■指導者　柱谷元紀
■授業を終えての感想

総合的な学習の時間を用い，「クルマか公共交通機関のどちらが豊かなくらしをもたらしてくれるだろう」という単元目標のもと，京都市交通局の工夫や「歩くまち京都」の取組といった，これからの社会のあり方を模索している事実を「市内めぐり」の遠足と絡めて学習することで，価値観の変容をねらった。

学習前にはクラス２２名中２１名までもが「クルマの方が豊かなくらしをもたらしてくれる」と判断していたが，学習の最後には半数から３分の２程度の児童が「公共交通機関の方が豊かなくらしをもたらしてくれる」と判断した。また中には，「どちらも必要で，状況に応じて使い分けることが大切だ」という意見も見られた。

このような学習前と学習後の児童の意識の変容の理由としては，社会的な事実と出会うことで，児童の目線が個人的なもの（～自分にとって）から社会的なもの（～社会にとって）へと高まったことが考えられる。

今回の学習では，児童をある一定の価値観に導くのではなく，事実と出会わせることで自ら判断できる力を付けていくことを目標にした。今後とも社会を多面的にとらえ，より良い判断をすることができる力を育んでいきたいと考えている。

1 単 元　環境を守るわたしたち（7時間）

1 目　　標　身の回りの生活環境や公害に関心をもって調べ，公害とわたしたちの生活や産業とのかかわりについて思考・判断して，公害から国民の健康や生活環境を守るためには，行政や企業，そして国民一人一人の努力と協力が必要であることを理解し，表現する。

2 指導計画　（1）京都市の水資源や鴨川の汚れの変化に関心をもち，学習問題をつくり，予想や計画を立てられるようにする。（2時間）

（2）きれいな鴨川を取り戻すための取組を，昔の状況と関連付けて説明できるようにする。（1時間）

（3）鴨川のきれいな環境を守るための取組について理解できるようにする。（1時間）

（4）京都の環境を守るための市や市民の取組や地球温暖化の現状を調べ，これから大切なことを考えられるようにする。（2時間）

（5）それぞれの立場の取り組みをまとめ，学習問題に対するこたえを説明できるようにする。（1時間）

3 展開例

（4）京都の環境を守るための市や市民の取組や地球環境の現状を調べ，これから大切なことを考えられるようにする。（2/2時間）

本時の目標　環境を守るために，京都市がどのような取組をしているのかを調べ，これから大切なことを考えている。

学　習　内　容	留　意　点	資　料
○前時までの学習を想起して，学習問題を確認する。 ・京都市では２０２０年までに二酸化炭素の排出量を減らしたいと考えている。	・前時の学習を想起することで，二酸化炭素を減らそうとしていることを確認する。	資料1 京都市の二酸化炭素の排出量がわかるグラフ
学習問題：京都市ではどのようにして二酸化炭素の量を減らそうとしているのだろう。		
○学習問題について予想する。 ・二酸化炭素量を減らすために，公共交通機関を使って移動するように，京都市民に呼びかけたんじゃないかな。 ・エコカーを利用するように呼びかけたんじゃないかな。 ・京都市は，工場から出る二酸化炭素量を減らすきまりを作ったんじゃないかな。	・京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組に着目して話し合うことで，環境を良くする取組を予想することができるようにする。	

○京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組について調べる。 ・「歩くまち・京都」憲章をつくり，環境について呼びかけている。 ・京都市民に，公共交通機関を利用したり，歩いたりすることを進めて，環境を良くしようとしている。 ・天ぷら油を使った市バスなどが京都市内を走っている。 ・エアコンの使用量を減らすように呼びかけたり，再生可能エネルギーの普及をひろげたりしている。 ・木材の魅力を発信し，木材を積極的に使用してもらうことを呼びかけている。 ○学習を通して考えたことをまとめる。 ・京都市が二酸化炭素を減らすために「歩くまち・京都」憲章をしていることがわかった。このことから，車は便利だけど，環境のことを考えると公共交通機関でいけるところは，なるべく利用していきたいと考えた。 ・京都市は「歩くまち・京都」憲章を定め，環境にやさしいまちづくりを目指しているので，良いと思う。みんながそれを意識して，市バスや地下鉄を利用したり，歩いたりするなど，市民一人一人ができることから取り組んでいけば良いと思う。 ・京都市では，環境をよくするために様々な取組をしていることがわかった。このことから，京都市民が協力して環境にやさしい取組を積極的にする必要があると考えた。	◇資料を提示することで，京都市が二酸化炭素を減らすために行っている取組について理解できるようにする。 ◇二酸化炭素の量を理解するために公共交通機関と自動車の二酸化炭素量を比較することができる資料を提示する。	資料2 二酸化炭素排出量を減らすための京都市の取組がわかる資料 資料3 二酸化炭素の排出量を示したグラフ 評価 【観察・資料活用の技能】 京都市の環境を守るための取組について資料などから読み取っている。 （発言・ノート）

4　板書例

京都市ではどのようにして二酸化炭素の量を減らそうとしているのだろう。

予想

・市バスや地下鉄などの公共交通機関を使って移動することを呼びかけている
・エコカーを利用することを呼びかけている
・工場から出る二酸化炭素量を減らすきまりを出している

調べ　京都市の取組

・「歩くまち・京都」憲章をつくって，市民に呼びかけている。
・公共交通機関を利用したり，歩いたりすることを進めている。
・天ぷら油を使った市バスなどが京都市内に走っている。
・エアコンの使用量を減らすために節電を呼びかけている。
・京都市内で生産された木材を積極的に使用することを呼びかけている。

↓

・環境のことを考えて公共交通機関を積極的に利用する。
・京都市は「歩くまち・京都」憲章を意識して，市民一人一人ができることから取り組んでいくことを期待している。
・環境を良くするために，京都市民が協力して環境を良くする取組を積極的に取り組む必要がある。

160223 MM授業

日　時：　平成 28 年 2 月 2 3 日（14:40～15:25）
主　題：　社会科　「環境を守るわたしたち」
学　級：　京都市立伏見板橋小学校 5 年 2 組
授業者　　岡田〇〇教諭

授業記録（社会科 6/7 時間目）
(〇＝教諭の発言、・＝児童の発言)
〇前の時間から環境問題について勉強して、ＣＯ2 の排出グラフをみました。学習問題は何でしたか？
・「京都市ではどのようにして二酸化炭素の量を減らそうとしているのか」です。
〇どのように減らそうとしていると予想しましたか。
・使用済みの天ぷら油を集めてどうするのかお父さんに訊いたらバスの燃料にすると言っていたので、燃料を減らそうとしていると思います。
・バスに乗って合言葉を言うと無料になった。クルマを使うＣＯ2 を減らそうとしていると思う。
・遠距離の移動手段をクルマから電車に変えてもらおうとしている。昔はクルマが少なかったので、温暖化は進んでいなかったので、クルマを使う一人ひとりが電車に変えたら良い。
・近い所に行くには、歩いたり自転車に変えたりすると良い。
・トラックの後ろに、ＣＯ2 を減らすためにゆっくり発進・ゆっくり加速と書いてあった。市役所の人がステッカーを配ったりして、呼びかけていると思う。
・水力発電や風力発電を増やすと良いと思う。
・林業の授業をしたときに、林業に関係のない飲み物の会社が協力していたので、いろんな会社が協力している。
・太陽光パネルの発電などＣＯ2 が出ない発電をしている。
・工場で機械をあまり使わずに手作業でＣＯ2 を減らしている。
・早く一緒に帰って節電するようにしている。
・木造住宅を作ることによってＣＯ2 を減らすことができるので、京都市の家を木造にすると良いと思う。
・再生可能エネルギーを使うにはたくさんのお金がかかるので、税金で集めようとしている。
・地元の物を食べると、運ぶための自動車を使う量が減って、ＣＯ2 が減ると思う。
・家庭でも風力発電のような再生可能エネルギーを使う。
・家庭ではゴミをあまり出さないようにすると、ゴミを焼却する時のＣＯ2 を減らせられると思う。

〇京都市が、どのように減らそうとしているのか先生が調べてきた事をプリントにしたので配ります。これを読んで分かったこと、考えたことを書いてください。
【７分】
〇それでは、グループで話し合ってください。

〇ではまず、資料から分かった事実は何ですか？
・余分な油を燃料に使っている。
・「歩くまち・京都」憲章で、公共交通機関の利用を呼びかけている。クリアファイルにして小学生に配られている。
・四条通の歩道を広げて、子供からお年寄りまで、みんなが通りやすい道にしている。
・DO YOU KYOTO という合言葉を広めている。
外国の人にも広まるように英語にしていると思う。

・子供に配布しているのは、未来につながるからだと思う。
・天ぷら油をもう一度燃料に使うことでＣＯ2 が減ると思う。これまでは森林と川としか知らなかったけれど、手段が増えると早く環境が良くなると思う。
・スチューデントシティで、未来に持続可能な社会につなげられると思う。
・油の再利用などを通じて、持続可能な社会が実現できると思う。
揚げ物をした時に出るＣＯ2 の分をクルマで油を使うことで挽回できると思う。
・クールスポットという活動は、四季のある日本に相応しい。他の国にも広げると良い。
いろんなところで使うのではなくて、1 つのところで集まって使うことで節約できると思う。
・日本は小さい国なので、ロシアなどの大きな国につなげるともっと効果が大きいと思う。
・節電を呼びかけるのが、なんで夏と冬だけなのかなと思った。
→　暑い時と寒い時は、冷暖房で電気をたくさん使うからだと思います。

○つまり？
・京都市では、ひとりひとりが努力することでＣＯ2 を減らそうとしています。
・京都市では、環境がよくなるように、みんなで協力しています。
・小学生から大人まで、みんなに呼びかけて取組をしています。

○「歩くまち・京都」の事を、詳しく聞いてきました。
「歩くまち・京都」憲章のポスター、１人１km 運ぶ時の交通手段別のＣＯ2 排出量のグラフを提示。さて、2020 年のＣＯ2 の目標は達成しそうでしょうか？
・１人ひとりが、たくさんの努力をしているので、続ければ達成できると思う。
・もっと工夫しないと、ちょっと無理じゃないかと思いました。
・減らないかもしれないけど、増えることはないと思いました。
・みんなが頑張れば、惜しいところまでは行くと思う。

○今日の学習結果を踏まえて、自分の考えを書いてください。
・一人ひとりが努力することが大切だと分かりました。一部の人が努力しても、みんながしないと、未来の環境が良くならないと思います。京都市全体の目標は大変だけど、一人ひとりの目標は達成できそうだからです。
・たくさんの人が努力して環境をよくしようとしていることが分かりました。なるほどと思った事は、良い環境を未来につなげることで、未来の人も安心・安全に住めるということです。今の自分にできることは、必要のない電気を消したり、１つの部屋に集まったりすることでできると思います。
・今日の学習で、たくさんの人がたくさんの方法で努力していることが分かりました。「歩くまち・京都」のキャッチ・フレーズを作ったり、森林を守ったりしていることです。キャッチ・フレーズにすることで、覚えやすくなって、みんなが取り組めるようになると思います。今の自分にできることは、京都市の一員として、「歩くまち・京都」のルールーを守っていこうと思います。

平成 27 年度 学校ＭＭ検討会　モデル授業ふりかえりの摘録

１　日　時　　平成 28 年 2 月 23 日（火）　午後 15 時 40 分～

２　場　所　　伏見板橋小学校

３　出席者　　京都教育大学　２名
伏見板橋小学校　笹岡、岡田
社会科研究会　３名
京都市教育委員会　林正和
京都市　瀧明日香
（一社）システム科学研究所　東徹、山口嘉子

４　意見概要

○ 社会科学習の中にどういう風に入れ込んでいくのかが悩ましかった。「環境を守るわたしたち」という単元に取り入れたので、「歩くまち・京都」の健康に関する部分などは入れ込めなかった。
「歩くまち・京都」の内容が少ないと感じられたのではないかと懸念しているが、単元のねらいを考えると「歩くまち・京都」だけに特化するのは厳しいと考えた。

○ 時間配分が少しオーバーしてしまったことを反省している。最初の予想の時間を短縮して、調べの時間を長くとる方向に改善したい。単元の前半の鴨川の話を受けて、京都市の取組に展開するにあたって、１時間では短いと考えて、２時間に分けた。

○ 昨年度までの授業は１時間だったので、今年度は前回の岩倉北も複数時間を使った展開をしていただいて有り難い。一方で、今日だけの見学だと、全体の流れが分かりにくかった。

○ ＣO2 の排出元としては交通手段だけでなく企業・工場などの産業部門の占める割合が大きいが、削減の可能性について産業部門の圧縮の困難さを考慮すると、「歩くまち・京都」にもっと注目されたのではないか。

○ 社会科学習では、学習問題が提示されて、それ対して予想して、調べて、分かった事、考えた事を発表するというのがオーソドックスな学習展開であり、本日の授業は社会科的には良い授業であった。

○ 社会科の単元で取り入れてもらったのは、可能性を感じる。スチューデント・シティにも京都市として携わっており、感謝している。

○ 一連の授業を通じて児童の視野も広がっており「おでかけの際はバス・地下鉄で」と書いてあるのを見つけて、報告してくれたりした。

○ 京都市の取組について、市役所の人に話をしてもらう過程があっても良いのではと思った。
1980 年代、70 年代のＣO2 排出量や、削減目標の設定理由がわかると面白い。

○ 児童の発言が、きちんとルールーを待っていた。最後のまとめで、目標達成ができると思う

か？という質問が必要か疑問に思った。

○ 最後の質問は、入れるかどうか悩んだ箇所でもある。どちらの結論であっても、理由が言えれば良いと考えた。

○ 発言者の顔をみて聞くとか、発言の際に理由を一緒に述べる点に、日頃の訓練の成果を感じた。最初の発言（予想）は、自分の考えなのか、先の授業で調べた結果なのか。

○ 生活経験や、これまでの授業の中から、自分で選択して発言している。

以上

教員授業後の感想提出待ち

平成２８年１月１５日

京都市立小学校長様

京 都 市 都 市 計 画 局
歩 く ま ち 京 都 推 進 室
(担当　吉村，瀧　222-3483)

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校の募集について

平素は「歩くまち・京都」の推進に御協力いただき，ありがとうございます。

京都市が推進している「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策を題材として，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」を学ぶことを通して「歩くまち・京都」の実現を図ってまいりたいと考えております。

つきましては，「歩くまち・京都」に係る学習を実践する平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校を，別紙実施要領により公募しますので，希望される学校は，下記のとおり，必要書類を作成のうえ，御提出ください。

なお，申請にあたってのご相談は，常時受付けておりますので，担当の吉村，瀧までお問い合わせください。

記

1　提出書類

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書
平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

2　提出期限

平成 28 年 2 月 19 日(金)【必着】

3　提出方法

以下の担当宛にメールにて提出
京都市都市計画局歩くまち京都推進室
担当：吉村（yosce973@city.kyoto.lg.jp），瀧（taqbb178@city.kyoto.lg.jp）

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校実施要領

1　趣旨

京都市では,「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進し，人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を推進している。「歩くまち・京都」憲章に基づき，まちづくりと交通に関する政策に関して，子どもの発達段階を踏まえつつ学ぶことにより，望ましい社会の実現を目指す「公共の精神」の学習につなげることを目指した「歩くまち・京都」に係る学習を実践する（２８年度，２９年度の２ヵ年で実施)。

【「歩くまち・京都」の理念・施策内容については，別添のリーフレットを参照】

2　実施内容

（1）学習実践校は，実施申請書等を作成し，それに基づいて研究・実践を深める。なお，学習活動においては，「歩くまち・京都」の理念・施策内容の知識の習得を目指す。

（2）学習実践校は，２学年以上で年１回以上の公開授業を実施する。研究の成果として，学習指導案や参考資料，授業で作成した物（授業風景の写真など）等を年度末に提出する。また，学習指導案については，当学校のホームページでの発信のほか，京都市等のホームページにおいて，その研究成果を広く発信するよう努める。

（3）学習実践の実施期間は１年とする（２年目も申請可能)。

3　学習実施校の選定及び経費配分

（1）各学校が提出した実施申請書及び予算計画書を勘案した上で，京都市都市計画局歩くまち京都推進室が学習実践校を選定する。

（2）歩くまち京都推進室は，各学校が提出した実施計画書等をもと，１校当たり 20 万円（3 校）を支給する。支払方法については，別途相談に応じる。

4　実施スケジュール

平成 28 年 2 月 19 日（金）	実施申請書締切
3 月 4 日（金）	研究推進校決定通知
随時	公開授業実施
平成 29 年 3 月中旬	学習指導案等の提出

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　実施申請書

【実施教科】

【研究テーマ】

※自校の具体的なテーマを記述すること。

【研究テーマの設定理由】

※実施要項の趣旨を踏まえ，自校の実態（現状や課題，校内研究など）と関連付けて記述すること。

【研究テーマの取組計画・内容】

※A4 サイズ 2 枚程度まで。（書式は自由。取組内容をわかりやすく簡潔に記述すること。2 枚を超えても良い。）

※下記の点については必ず記述すること。

・ 研究テーマの実現に向けた具体的な計画・取組の内容や方法

・ 組織体制（教職員・保護者・地域など）

・ 研究成果や課題に対する評価・取組

・ 研究成果の普及方法

学校名	
校長名	

平成 28 年度「歩くまち・京都」学習実践校　予算計画書

使用用途（研究内容との関連）	品名（講師名等）	単価	数量（時間）	計
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
				0
合計				0

平成 27 年度 第２回学校ＭＭ検討会　摘録

１　日　時　　平成 27 年 10 月 26 日（月）　午後 17 時 30 分～午後 19 時 20 分

２　場　所　　一般社団法人システム科学研究所　会議室

３　出席者　　別紙出席者名簿

４　議事内容

● モデル授業のバリエーションについて

（水山座長）

○ 先生方から考えていただいたモデル授業についてご紹介ください。

（牧教諭）

【資料説明】

○ ５年生の社会における環境の取組の後に「歩くまちの取組」を取り上げると，自分もできる事として入れるのは意義がある。

（水山座長）

○ 児童が他都市や海外の事例を調べて（知って）考えることが有効ではないか。
現在の歩くまち京都を推進する上での検討内容や苦労を紹介すると意義があるのではないか。

（牧教諭）

○ 交通局の苦労した人の話が聞ければ（出前授業）インパクトが大きく違う。

（水山座長）

○ 他校でも展開できるように普遍性があった方が良い。

（植田課長）

○ バスロケについて，従来のパタパタ式は 200 万円／機であったが，バス停での WiFi の設置に合わせてインターネット経由の表示では 60 万円／機と安価にできる。サークルＫサンクスで表示することも開始した。

（牧教諭）

○ バスロケについては，情報ネットワークの単元の中で，取り上げることもできるかもしれない。

（植田課長）
○　運行管理システムは，パソコンが１台あるだけであるがリアルタイムの配車や過去の記録は残っている。

（深蔵教諭）
【資料説明】

（水山座長）
○　モデル授業を今年度内に開催することは可能か？

（牧教諭）
○　公開ではなく，試しで実施するといことであれば，充分可能である。

（深蔵教諭）
○　今年度の実施は難しい。

（笹倉教諭）
○　モデル授業は２月に実施予定。

（藤井副座長）
○　２種類程度で，全校に配布可能か検討する。

● モデル授業のバリエーションについて
（林主事）
○　全学年とするのは，ハードルが高い。２学年程度としてはどうか。

（水山座長）
○　15 万円程度でも充分有り難いので，もう少し上限を下げて，四校程度採用できるような予算配分にしてはどうか。また選定された学校が集まっての発表会を実施してはどうか。発表会のプレゼン資料を集めて成果物にするとともに市のホームページで公表するといった仕組みを構築されると良い。

（藤井副座長）
○　現場の先生方の協力があって，こその取組であるので，是非ご尽力いただきたい。

（水山座長）
○　研究実施校の募集要領について、渡辺主事とご調整の上、進めていただきたい。

○　次回は２月 22 日　17 時半に実施するものとした。

以上

平成 27 年度 第３回学校ＭＭ検討会　摘録

１　日　時　　平成 28 年３月４日（金）　午後 17 時 35 分～午後 19 時 20 分

２　場　所　　一般社団法人システム科学研究所　会議室

３　出席者　　別紙出席者名簿

４　議事内容

● モデル授業について

【板橋小学校】

（水山座長）

○ 社会科の中にこれだけしっかり取り込んでいただいた事に大変感謝している。
２時間あるのであれば、片方は「歩くまち・京都」にもっとフォーカスしてもらう方法もあるのではないか。

○ 二酸化炭素の排出のデータについて、京都市役所と連携すると、もっと詳しいデータも提示できたのではないか。

○ 「個人ですることには限界がある、大人も社会として取り組んでいる」ということを気づかせる方向もあるのではないか。

（渡邉主事）

○ 単元の中に、今回の「歩くまち・京都」を組み入れるだけで、大変苦労されたと思う。
環境についてはエコライフ・チャレンジを通じて環境を考える下地は醸成されていると思う。

（牧教諭）

○ 子どもたちが社会も取り組んでいるということを学習するということは、意義があると思う。

（岡本）

○ 「歩くまち・京都」なので、社会も取り組んでいるということを学習するということは、意義があると思う。

（植田課長）

○ 今の児童は環境に対して深い意見が述べられることに感心した。大変意義深い授業を実施頂いて感謝申し上げる。

（瀧）
○　授業の進め方が、しっかりしたレベルに到達していると感じた。

（渡邉主事）
○　今回のモデル授業は，レベルの高い学校・教諭での実施事例であり、市内の全小学校で同じレベルで展開可能という訳ではない。

【岩倉北小学校】
（水山座長）
○　公共交通の重要性について，地域性を十分考慮しながら，最初は自分の立場で考えていた児童たちが，次第に市全体を考えるようになった。
価値観を扱う授業で、出口が１対９となるのは簡単だけれども失敗だと思うので，出口が５対５で終われたのは，価値観を扱う授業としては大変素晴らしい。

（渡邉主事）
○　岩倉北小学校は、社会科の全国大会を実施した実績のある高レベルの学校であり，児童の発言も非常レベルが高い。
総合学習の場合はプログラムとして確立できるところが利点と言える。

（深蔵先生）
○　児童の発言が、直感ではなく根拠となる理由をしっかり述べられているところに感心した。

（加藤）
○　７時間で大きく意見が変わるということは，大人ならではなのか，子供だからこそなのか。
他の地域に水平展開するために、どうすれば良いか考えていきたい。

（渡邉主事）
○　情報提供と指導をしっかりすれば、大人の方が意見を変えるのは簡単である。

（牧教諭）
○　７時間目の結果が５対５になったのは偶々。５時間目６時間目の授業が肝要である。
六年生なので、歴史などの他の授業とも組合せながら，相乗効果を発揮できるのではないかと考えている。

（植田課長）
○　環境問題、渋滞や事故についてクルマの技術も進歩していく中で、状況毎に公共交通とクルマを使い分けることが重要であるという児童の意見は，素晴らしい。

（瀧）

○　時刻表に書かれた英語に関する発言など、児童の発見力、レベルの高さに感嘆した。京都市からの情報提供の際に，児童に親近感をという視点から，ゆるキャラの話等も織り交ぜたのだが，もっと踏み込んだ内容にしても良かったと反省している。

（水山座長）

○　一度、京都市の学校MMをテーマとしたフォーラム的なものを開催しても良いのかではないかと思う。

（加藤）

○　エコモ財団での三年間の助成期間終了後の四年目に、セミナーやフォーラム等のキックオフ費用を支援している。

（渡邉主事）

○　指導要領の冊子を作成して配布する認知度を高めていくことが大切であると思う。
学校には非常にたくさんの情報が届くので、「未読スルー」になってしまいやすい。
読んでもらえるように教育委員会から告知することは可能である。

（水山座長）

○　成果を発信するために授業実績の冊子を、牧先生、笹岡先生に編集いただく費用を捻出して、京都市から校長先生に依頼してもらいたい。

学習実践校について

（水山座長）

○　学習実践校の交流会を、年３回（５月、９月、２月）実施できれば良いのではないか。

（渡邉主事）

○　成果物を出さないといけない事は，応募校は理解している。実践記録は全校に配信する。
○　学習実践校の交流会を実施するのであれば、事前に連絡しておいた方が良い。
交流の結果，３校が同じ方向を向くのではなく，独自性を貫いてもらえると良い。
○　手前味噌であるが、この一年間で進捗があったのではないかと思う。社会科研究会にお願いしたのが良かった。

（水山座長）

○　渡邉先生にまとめていただいたので，私からは，もう何も言うことはありません。
本当に，ありがとうございました。来年度も，よろしくお願いします。

以上

８．まとめ

(1)　成果

ア　モデル授業の実施とバリエーションの検討

他都市の事例を踏まえて，京都市では手始めにガリバーマップを作成した。今年度は地図に掲載する対象範囲や大きさ等の検討を行い，試作品を作成した。

イ　モデル授業への取組

今年度のモデル授業は検討会メンバーである２教諭に実施いただいた。過年度までのモデル授業では，当日１時間のみの授業であったが，今年度はいずれも一単元全て（７時間）を活用し授業を実施いただいた。そのため，授業前後での児童の意識変容を知る良い例となった。

また今回，初めて社会科の授業の中に「歩くまち・京都」を入れるという試みが実施されたことは，今後の展開における良い事例となった。

ウ　教員による研究会との連携方策の検討

京都市教育委員会との協議を経て，社会科研究会との連携を図るものとした。

この結果，社会科研究会から２名の教員の推薦を受け，京都市学校MM検討会に参画いただいた。モデル授業の成果でも述べた社会科の授業の中に位置づけられた事は，社会科研究会との連携による成果とも言える。

エ　「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定

今年度は「歩くまち・京都」学習実践校の募集を教育委員会と連携し，全小学校長会という場を活用しできたことで，取組に対する認知度は高まったと考える。

オ　「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策の検討

モビリティ・マネジメント教育を継続実施するための拠点として，「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策として，「歩くまち・京都」公共交通センターが作成・運営しているホームページの活用方策を検討した。

(2) 課題と今後の展開

ア モデル授業の実施とバリエーションの検討

今年度はガリバーマップ試作品の作成に留まったが，次年度からはガリバーマップの実用化に向けて，保管・貸出方法等を検討しながら実際に活用した授業を実施していく。

また，市バスが使えない地域を踏まえた授業のバリエーションの拡充が必要となる。

イ モデル授業への取組

今年度のモデル授業は検討会メンバーである２教諭に実施いただいたが，いずれも高学年であったため，次年度以降は低学年，中学年でも実施・検討が必要である。

また，モデル授業を実施するだけでなく，その授業内容や単元構想，授業で使用した資料など授業に関する情報を，検討会の中だけに留めず，教諭より発信していただき普及する手段を検討し，実施していく。

ウ 教員による研究会との連携方策の検討

社会科研究会からみた「歩くまち・京都」学習の評価を聴取し，今後の連携方針について検討する必要がある。

エ 「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定

実際に応募してきた学校は，従来より「歩くまち・京都」に対する理解・意識の高い地域であったことから，市バスが使えない地域等も含めた更なる拡充が必要である。

オ 「歩くまち・京都」公共交通センターとの連携方策の検討

「歩くまち・京都」公共交通センターの専属職員を配置しない方針となったため，「歩くまち・京都」公共交通センター以外での継続実施体制を検討する必要がある。